Ⅱ．資料の整理と活用・普及

1. 文化財資料の整理・保管

（1）埋蔵文化財の整理・保管

平成27年度調査分　平成27年度の発掘調査と試掘調査、工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ約239箱とナイロン袋他である。遺物量は前年度に比較し約136箱多いが、これは27年度におこなった唐古・鍵遺跡第116次調査と第118次調査の遺物が139箱と61箱におよんだことが原因で、それらを除くと遺物量は例年どおりの少量である。平成27年度の内訳は下表のとおりである。唐古・鍵遺跡第116次調査と第118次調査の遺物が200箱であり、その大半は弥生土器で、その他に中世土器が占める。ただし、第118次調査の遺物洗浄は多量のため、次年度送りとなった。

【埋蔵文化財保管数１】

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後（土器・瓦）
H27-01	保津・宮古遺跡	第 42 次調査	弥生土器・土師器・須恵器等	12 箱	10 箱
H27-02	唐古・鍵遺跡	第 116 次調査	弥生土器・土師器・瓦器・瓦質土器・輸入磁器・中世陶器・瓦・埴輪・木製品・石器等	139 箱	90 箱
H27-03	宮古北遺跡	第 19 次調査	弥生土器・土師器等	１箱	１箱
H27-04	寺内町遺跡	第 16 次調査	土師器・瓦器・中世陶器・近世陶磁器・瓦・煉瓦等	５箱	４箱
H27-05	多地区古墳推定地 隣接地		土師器・須恵器・瓦質土器等	１箱	１袋（中）
H27-06	唐古・鍵遺跡	第 117 次調査	土師器・瓦等	１箱	１袋（小）
H27-07	宮古北遺跡	第 20 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・埴輪・木製品・石製品等	15 箱	７箱
H27-08	三笠遺跡	第１次調査	輸入磁器・瓦等	１袋（小）	１袋（小）
H27-09	唐古・鍵遺跡	第 118 次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・輸入磁器・中世陶器・近世陶磁器・瓦・木製品・石器・金属器・銭貨・土製品等	61 箱	洗浄中
H27-10	保津・宮古遺跡	第 43 次調査	土師器・瓦器・近世陶磁器・瓦・木製品等	１箱	１箱
H27-11	阪手北遺跡	第７次調査	土師器・須恵器・黒色土器・中世陶器・瓦等	１箱	１箱
R-201512	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器等	１箱	３袋（中）
R-201516	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・須恵器・木製品・石器等	３箱	３箱
R-201518	寺内町遺跡	工事立会	近世陶磁器・瓦・ガラス製品等	１袋（中）	１袋（中）
R-201520	寺内町遺跡	工事立会	土師器・瓦質土器・近世陶磁器等	２袋（小）	２袋（小）
R-201529	寺内町遺跡	工事立会	近世陶磁器	１袋（中）	１袋（中）

※遺物量の表記の箱とは、長さ 56 ㎝・幅 36 ㎝・深さ 15 ㎝の容量を標準として換算している。また、袋（小・中・大）は、ナイロン袋の小・中・大の大きさを表している。

【土器以外の遺物とサンプルの保管数量（該当次数のみ）】

調査番号	遺 跡 名	調査次数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	銭貨	ガラス	木	石	獣骨・貝類	種子	炭化米
H27-01	保津・宮古遺跡	第 42 次調査	1	3	2	8	−	5	−	−	−	31	−	−	−
H27-02	唐古・鍵遺跡	第 116 次調査	19	61 ＋②	298	2, 852 ＋㉚	3	4	2	1	146 ＋①	402	543 ＋㊵	1, 076 ＋⑬	274 ＋⑯
H27-04	寺内町遺跡	第 16 次調査	−	15	2	4	−	6	1	2	2	15	−	−	−
H27-07	宮古北遺跡	第 20 次調査	−	1	13	21	−	−	−	−	9	3	1	30 ＋①	3
H27-10	保津・宮古遺跡	第 43 次調査	−	−	16	−	−	−	−	−	3	3	−	4	−
H27-11	阪手北遺跡	第 7 次調査	−	−	−	1	−	−	−	−	−	1	−	−	−
R-201516	唐古・鍵遺跡	工事立会	−	−	10	32	−	−	−	−	−	−	12	20	18
R-201518	寺内町遺跡	工事立会	−	−	−	8	−	−	−	1	−	−	−	1	−
計			20	80 ＋②	341	2, 926 ＋㉚	3	15	3	4	160 ＋①	455	556 ＋㊵	1, 131 ＋⑭	295 ＋⑯

※少量遺物は、複数次数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ量で表すことができないので、有（○）無（−）で示した。また、点数のアラビア数字＋○数字は、20 点以上を 1 件としてカウントしたものである。

【Pickupした土器・形象埴輪類の数量（該当次数のみ）】

調査番号	遺 跡 名	調査次数	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	土器製作使用痕	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	瓦
H27-01	保津・宮古遺跡	第 42 次調査	−	2	−	−	1	27	−	−	−	1	−	−	−	−
H27-02	唐古・鍵遺跡	第 116 次調査	−	17	4	−	15	16	8	−	−	−	1	−	38	1
H27-03	宮古北遺跡	第 19 次調査	−	1	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
H27-04	寺内町遺跡	第 16 次調査	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2
H27-07	宮古北遺跡	第 20 次調査	−	1	−	−	−	5	−	1	−	−	−	−	−	−
H27-10	保津・宮古遺跡	第 43 次調査	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
R-201516	唐古・鍵遺跡	工事立会	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−
計			0	21	4	0	16	48	9	3	0	1	1	0	38	4

再整理事業分　再整理事業では、既に収納している土器を再整理し、重要と思われる遺物をPickupするとともに、再収納することにより遺物箱数を減らしている。今回は唐古・鍵遺跡第31・38～41・43次調査の土器等の全て、重要考古資料目録作成のために唐古･鍵遺跡第13次調査の一部（SD-106B･C・D)、資料熟覧に伴い埴輪資料の整理のために小阪里中遺跡第１次調査の一部（SD-102)、県指定の考古資料確認のために笹鉾山古墳群第１次調査（２号墳）の一部（SD-102S・N）の342箱分を実施した。この整理によって、下記の項目の遺物をPickupした。今回の再整理で注目される遺物としては、唐古・鍵遺跡第40次調査の環濠（SD-101）から出土したミニチュア土器120点である（右下写真)。これは幅2.5m、延長２mのごく限られた範囲からの出土で、発掘当初からミニチュア土器が多いことは把握していたが、今回改めて整理したことにより実数を確認することができた。また、広片口鉢の破片１点も新たに確認し、第61・65次調査の４点と合わせ、計５点となった。遺跡東南部のみでの出土であり、点数的にも少なく特殊な土器であることが再確認できた。

第40次調査出土ミニチュア土器一群

【再整理事業に伴いPickupした遺物数量（該当次数のみ)】

遺 跡 名	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	土器製作使用痕	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	土製品	焼土塊
唐古・鍵遺跡第 13 次調査	－	34	2	2	8	27	3	－	－	－	－	－	－	15	4
唐古・鍵遺跡第 31 次調査	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
唐古・鍵遺跡第 38 次調査	3	29	－	－	31	23	5	－	－	－	－	－	33	35	16
唐古・鍵遺跡第 40 次調査	15	86	4	6	13	177	10	2	－	－	－	－	－	42	3
唐古・鍵遺跡第 41 次調査	4	11	－	－	3	7	2	－	－	－	－	－	－	10	1

（２）木製品の樹種同定と保存処理

平成27年度においては、唐古・鍵遺跡等の木製品の樹種同定90点を実施するとともに、保存処理事業として唐古・鍵遺跡第13次調査の盾等、唐古・鍵遺跡の木製品120点、保津・宮古遺跡第16次調査の蓋や木樋、常楽寺推定地第５次調査の曲物底板等、町内遺跡出土の木製品12点の計132点を処理した（下表)。処理法としては、委託のトレハロース含浸法49点、町直営のラクチトール・トレハロース含浸法77点、真空凍結乾燥法６点である。

【樹種同定一覧表】

№.	遺　跡　名	次数	製品コード	製品名	遺構名	層位	結果（学名／和名）	
1	唐古・鍵遺跡	20	KRK-020-00048W	不明建築材	SK-205	第8層	*Castanea crenata* Sieb. Et Zucc?	クリ？
2	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00108W	用途不明品	SK-111	第4・5層	broad-leaved tree	広葉樹（ウツギ？）
3	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00109W	用途不明品	SK-111	第4層	broad-leaved tree	広葉樹
4	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00110W	用途不明品	SK-111	第4層	broad-leaved tree	広葉樹
5	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00111W	用途不明品	SK-111	第3-b層	broad-leaved tree	広葉樹
6	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00114W	用途不明品	SK-123	第6層	broad-leaved tree?	広葉樹？
7	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00118W	横杓子	SK-124	第1(下)層	*Celtis sinensis*	エノキ
8	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00119W	用途不明品 未成品	SK-175	第6層	ring-popous wood	環孔材
9	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00120W	用途不明品	SK-175	第1層	*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.	カヤ
10	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00121W	容器未成品	SK-175	第3層	broad-leaved tree	広葉樹
11	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00123W	高杯	SK-208	第4層	ring-popous wood	環孔材
12	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00125W	用途不明品	SD-127	第3層	broad-leaved tree	広葉樹
13	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00127W	用途不明品	SD-202	第2層		不明
14	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00129W	用途不明品	SD-202A	第5層	broad-leaved tree	広葉樹
15	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-10002W	板A	SD-202	第2層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
16	唐古・鍵遺跡	44	KRK-044-00002W	有頭棒	SD-103B	第4層	*Cephalotaxus harringtonia*	イヌガヤ
17	唐古・鍵遺跡	47	KRK-047-00019W	不明建築材	SD-2104B	第9-b層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
18	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00039W	用途不明品	SD-106	第4層	*Abies*?	モミ属？
19	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00056W	用途不明品	SD-51	第8層	*Cryptomeria japonica* D. Don?	スギ？
20	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00058W	用途不明品	SD-106	第4層	conifer	針葉樹
21	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00059W	用途不明品	SD-106	第4層	broad-leaved tree	広葉樹
22	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00052W	用途不明品	SK-3135	第4(下)層	broad-leaved tree	広葉樹（ウツギ？）
24	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00081W	用途不明品 未成品	SD-3104B	第5層	*Celtis*?	エノキ属？
25	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00018W	刺突具	SD-151BS	第10層	*Abies*	モミ属
26	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00020W	盾	SK-118	第6層	*Abies*	モミ属
27	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00065W	不明建築材	SD-151CS	第8(下)層	*Eurya*	ヒサカキ属
28	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00066W	不明建築材	SD-151CS	第8(下)層	*Castanopsis sieboldii* Hatusima	スダジイ
29	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00067W	不明建築材	SD-151CS		*Castanopsis sieboldii* Hatusima	スダジイ
30	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00072W	ほぞ棒	SD-102B		*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
31	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00083W	有頭棒	SD-151BN	第8(下)層	ring-popous wood	環孔材
32	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00085W	有頭棒	SD-151BN	第8(下)層	ring-popous wood	環孔材
33	唐古・鍵遺跡	62	KRK-062-00014W	丸太杭	SD-51	第4層	broad-leaved tree	広葉樹
34	唐古・鍵遺跡	63	KRK-063-00021W	丸太杭	西壁Sec.		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
35	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00033W	用途不明品	SK-202	第2層	ring-popous wood	環孔材
36	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00035W	用途不明品	SK-202	第2層	ring-popous wood	環孔材
37	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00036W	用途不明品	SK-202	第2層	ring-popous wood	環孔材
38	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00031W	柱	SD-1109	第6層	*Zelkova* serrata *Makino*	ケヤキ
39	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00032W	柱	SD-1109	第6層	*Quercus* sect. *Prinus*	コナラ属コナラ節
40	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00033W	柱	SD-1109	第6層	*Morus australis* Poiret	ヤマグワ
41	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00034W	柱	SD-1109	第6層	*Morus australis* Poiret	ヤマグワ
42	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00035W	柱	SD-1109	第6層	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
43	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00036W	柱	SD-1109	第6層	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
44	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00037W	柱	SD-1109	第6層	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
45	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00038W	柱	SD-1109	第6層	*Quercus* sect. *Prinus*	コナラ属コナラ節
46	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00039W	柱	SD-1109	第6層	*Castanopsis cuspidata* Schottky	ツブラジイ
47	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00040W	柱	SD-1109	第6層	*Quercus* sect. *Prinus*	コナラ属コナラ節
48	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00063W	用途不明品	SD-1109	第6層	Lauraceae	クスノキ科
49	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00064W	用途不明品	SD-1109	第6層	broad-leaved tree	広葉樹
50	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00065W	用途不明品	SD-1109	第6層	broad-leaved tree	広葉樹（ウツギ？）

No.	遺　跡　名	次数	製品コード	製品名	遺構名	層位	結果（学名／和名）	
51	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00066W	用途不明品	SD-1109	第6層	ring-popous wood	環孔材
52	唐古・鍵遺跡	73	KRK-073-00018W	用途不明品	SD-202	第4層	*Celtis sinensis*	エノキ
53	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00035W	用途不明品	SK-105	第4層	broad-leaved tree	広葉樹
54	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00036W	用途不明品	SK-112	第4層	broad-leaved tree	広葉樹
55	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00039W	用途不明品	SK-201	第4層	broad-leaved tree?	広葉樹？
56	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00041W	用途不明品	SK-203	第5層	broad-leaved tree	広葉樹
57	唐古・鍵遺跡	85	KRK-085-00007W	加工棒材	SK-52	Sec.第4層	ring-popous wood	環孔材
58	唐古・鍵遺跡	91	KRK-091-10002W	棒A	SK-2204	第4層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
59	唐古・鍵遺跡	91	KRK-091-10003W	棒A	SK-2204	第4層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
60	唐古・鍵遺跡	91	KRK-091-10004W	棒A	SK-2204	第4層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
61	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00001W	杓子未成品	SD-201	第3層	*Morus australis* Poiret	ヤマグワ
62	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00002W	不明容器	SD-201	第3層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
63	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00003W	用途不明品	SK-201	第4層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
64	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00004W	鍬	SD-201	第3層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
65	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00005W	丸太杭	SK-201	第4層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
66	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00006W	用途不明品	SD-201	第3層	*Alnus* sect. *Gymnothyrsus*	ハンノキ属ハンノキ節
67	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00007W	不明容器	SK-151	第2層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
68	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00008W	用途不明品	SD-201	第3層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
69	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00009W-1	槽	SK-52	第1層	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
70	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00009W-2	槽	SK-52	第1層	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
71	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00010W	不明容器	SK-152	第3層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
72	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00011W	鍬	SD-201	第3層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
73	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00012W	農具	SD-201	第3層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
74	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00013W	漆椀	SD-52	第6層	*Castanea crenata* Sieb. Et Zucc	クリ
75	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00014W	漆椀	SD-51	第4層	*Aesculus turbinata* Blume	トチノキ
76	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-00015W	下駄	SD-52	第5層	*Magnolia*	モクレン属
77	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-10001W	板A	SK-201	第2層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
78	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-10002W	棒A	SD-201	第3層	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
79	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-10003W	板A	SK-52	第1層	*Cleyera japonica* Thunb.	サカキ
80	唐古・鍵遺跡	116	KRK-116-10004W	板A	SD-51	第4層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
81	唐古・鍵遺跡	R-201516	R-201516-00001W	鍬	SD-201	第3層	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
82	唐古・鍵遺跡	R-201516	R-201516-00002W	高杯	SD-201	第3-b層	*Zelkova serrata* Makino	ケヤキ
83	保津・宮古遺跡	27	HTM-027-00005W	曲物	SK-51	第8層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
84	保津・宮古遺跡	27	HTM-027-00008W	曲物	SK-51	第8層	*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
85	保津・宮古遺跡	27	HTM-027-00009W	棒杭	SK-51	第8層	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複雑維管束亜属
86	保津・宮古遺跡	27	HTM-027-00010W	建築材	SK-51	第8層	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	マツ属複雑維管束亜属
87	保津・宮古遺跡	27	HTM-027-10001W	板B	SK-51	第8層	*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
88	羽子田遺跡	19	HGT-019-10017W	棒B	SK-101	第5層	*Eurya*	ヒサカキ属
89	千代遺跡	1	TSR-001-00001W	柱	P-05		*Sciadopitys verticillata*	コウヤマキ
90	千代遺跡	1	TSR-001-00002W	柱	P-04		*Sciadopitys verticillata*	コウヤマキ

【保存処理木製品一覧】

No.	遺跡名	次数	製品コード	製品名	樹種	台帳No.	遺構名	層位	取上番号	保存処理機関	保存処理方法
1	唐古・鍵遺跡	13	KRK-013-00049W	盾	モミ属	39	SD-02			町直営	PEG・真空凍結法
2	唐古・鍵遺跡	20	KRK-020-00048W	不明建築材	クリ？	764	SK-205	第8層	W-808	大阪市博物館協会	ラクチ法
3	唐古・鍵遺跡	26	KRK-026-00005W	横杓子	不明	405	SD-1201	第3層		町直営	ラクチ法
4	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00063W	用途不明品	不明	63	SD-101	第2層		町直営	ラクチ法
5	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00065W	用途不明品	不明	603	SK-123	第2層	W-204	町直営	ラクチ法
6	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00067W	用途不明品	不明	954	SK-111	第6層	その1	町直営	ラクチ法
7	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00068W	棒A	不明	1080	SD-202			町直営	ラクチ法
8	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00069W	用途不明品	不明	420	SK-125	第3層	W-305	町直営	ラクチ法
9	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00071W	丸太杭	不明	1080	SD-202			町直営	ラクチ法
10	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00076W	板A	不明	1043	SD-204	第2層		町直営	ラクチ法
11	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00078W	丸太杭	不明	930	SK-111	第4-b層		町直営	ラクチ法
12	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00082W	用途不明品	不明	498	SK-125	第5層	その9	町直営	ラクチ法
13	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00084W	板A	不明	398	SD-114	第3層		町直営	ラクチ法
14	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00085W	棒A	不明	777	SK-111	第4層		町直営	ラクチ法
15	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00086W	用途不明未成品	不明	1046	SD-127	第7-c層		町直営	ラクチ法
16	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00091W	原材	不明	941	SD-202	第3層		町直営	ラクチ法
17	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00094W	原材	不明	496	SK-125	第3(下)層	W-310	町直営	ラクチ法
18	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00095W	板A	不明	793	SK-124	第7層		町直営	ラクチ法
19	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00096W	板A	不明	1017	SK-127	第7-c層		町直営	ラクチ法
20	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00099W	有頭棒	不明	653	SK-138	第3層		町直営	ラクチ法
21	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00101W	板材	不明	653	SK-138	第3層		町直営	ラクチ法
22	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00102W	原材	不明	603	SK-123	第2層	W-210	町直営	ラクチ法
23	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00103W	板A	不明	1056	SD-202	第4層		町直営	ラクチ法
24	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00104W	用途不明品	不明	1012	SD-127	第5層		町直営	ラクチ法
25	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00108W	用途不明品	広葉樹（ウツギ？）	934	SK-111	第4・5層？		大阪市博物館協会	ラクチ法
26	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00109W	用途不明品	広葉樹	777	SK-111	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
27	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00110W	用途不明品	広葉樹	771	SK-111	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
28	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00111W	用途不明品	ケヤキもしくは広葉樹	804	SK-111	第3-b層		大阪市博物館協会	ラクチ法
29	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00112W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	585	SK-120	第3層	その2	町直営	ラクチ法
30	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00113W	用途不明品	不明	565	SK-120	第3層	W-301	町直営	ラクチ法
31	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00114W	用途不明品	広葉樹？	670	SK-123	第6層		大阪市博物館協会	ラクチ法
32	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00118W	横杓子	エノキ	405	SK-124	第1(下)層		大阪市博物館協会	ラクチ法
33	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00119W	用途不明品	広葉樹環孔材	956	SK-175	第6層	W-602	大阪市博物館協会	ラクチ法
34	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00120W	用途不明品	カヤ	896	SK-175	第3層		大阪市博物館協会	ラクチ法
35	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00121W	用途不明品	広葉樹	949	SK-175	第3層		大阪市博物館協会	ラクチ法
36	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00122W	用途不明品	不明	1084	SK-208	第7層		町直営	ラクチ法
37	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00123W	高杯	広葉樹環孔材	1066	SK-208	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
38	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00125W	用途不明品	広葉樹	871	SD-127	第3層		大阪市博物館協会	ラクチ法
39	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00127W	用途不明品	不明	961	SD-202	第2層		大阪市博物館協会	ラクチ法
40	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00129W	用途不明品	広葉樹	960	SD-202A	第5層		大阪市博物館協会	ラクチ法
41	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-00131W	用途不明品	不明	1138				町直営	ラクチ法
42	唐古・鍵遺跡	33	KRK-033-10002W	板A	ヒノキ	886	SD-202	第2層		大阪市博物館協会	ラクチ法
43	唐古・鍵遺跡	34	KRK-034-00012W	用途不明品	不明	111	SK-103	第2層	W-202	町直営	ラクチ法
44	唐古・鍵遺跡	44	KRK-044-00002W	有頭棒	イヌガヤ	353	SD-103B	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
45	唐古・鍵遺跡	47	KRK-047-00019W	不明建築材	ヒノキ	428	SD-2104B			大阪市博物館協会	ラクチ法
46	唐古・鍵遺跡	48	KRK-048-00006W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	333	SK-1111	第4(下)層	その1	町直営	ラクチ法
47	唐古・鍵遺跡	53	KRK-053-00012W	平鍬	イチイガシ？柾目	384	SR-101B	第6(下)層	W652	大阪市博物館協会	ラクチ法
48	唐古・鍵遺跡	53	KRK-053-00053W	用途不明品	同定不可	431	SX-201			大阪市博物館協会	ラクチ法
49	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00013W	鉢	ヤマグワ	175	SD-106B	第8層		町直営	ラクチ法
50	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00039W	用途不明品	モミ属	396	SD-106	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
51	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00042W	用途不明品	サカキ	444	SD-106B	第9層	W-912	町直営	ラクチ法
52	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00056W	用途不明品	スギ	160	SD-51	第8層		大阪市博物館協会	ラクチ法
53	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00058W	用途不明品	ヒノキ	371	SD-106	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
54	唐古・鍵遺跡	58	KRK-058-00059W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	371	SD-106	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
55	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00021W	鉢	広葉樹	1100	SK-3135	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
56	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00032W	合子	広葉樹	235	SK-1101	第7層		大阪市博物館協会	ラクチ法
57	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00045W	丸太杭	クワ属	1118	SK-3135	第4(下)層		町直営	ラクチ法
58	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00050W	用途不明品	サカキ	1118	SK-3135	第4(下)層		町直営	ラクチ法
59	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00052W	用途不明品	ムラサキシキブ属	1118	SK-3135	第4(下)層		大阪市博物館協会	ラクチ法
60	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00054W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	1118	SK-3135	第4(下)層		大阪市博物館協会	ラクチ法
61	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00056W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	1118	SK-3135	第4(下)層		町直営	ラクチ法
62	唐古・鍵遺跡	59	KRK-059-00081W	用途不明品	エノキ属？	954	SD-3104B	第5層		大阪市博物館協会	ラクチ法
63	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00083W	有頭棒	ムラサキシキブ属	1555	SD-151BN	第8(下)層		大阪市博物館協会	ラクチ法
64	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00128W	用途不明品	カヤ	1537	SD-151BN	第8層		大阪市博物館協会	ラクチ法
65	唐古・鍵遺跡	62	KRK-062-00014W	丸太杭	クリ	49	SD-51	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
66	唐古・鍵遺跡	63	KRK-063-00021W	丸太杭	ヒノキ	347		西壁Sec.		大阪市博物館協会	ラクチ法
67	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00030W	用途不明品	不可	1132	SK-202	第2層		町直営	ラクチ法
68	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00032W	用途不明品	サカキ	1132	SK-202	第2層		町直営	ラクチ法
69	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00033W	用途不明品	サクラ属	1132	SK-202	第2層		大阪市博物館協会	ラクチ法
70	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00034W	用途不明品	クリ	1132	SK-202	第2層		町直営	ラクチ法
71	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00035W	用途不明品	ムクロジ	1132	SK-202	第2層		大阪市博物館協会	ラクチ法
72	唐古・鍵遺跡	65	KRK-065-00036W	用途不明品	クワ属	1132	SK-202	第2層		大阪市博物館協会	ラクチ法
73	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00063W	用途不明品	クスノキ科	1003	SD-1109	第6層		大阪市博物館協会	ラクチ法

No.	遺跡名	次数	製品コード	製品名	樹種	台帳No.	遺構名	層位	取上番号	保存処理機関	保存処理方法
74	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00064W	用途不明品	広葉樹	1003	SD-1109	第6層		大阪市博物館協会	ラクチ法
75	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00065W	用途不明品	広葉樹環孔材（ウツギ？）	1052	SD-1109	第6層		大阪市博物館協会	ラクチ法
76	唐古・鍵遺跡	69	KRK-069-00066W	用途不明品	広葉樹散孔材	1052	SD-1109	第6層		大阪市博物館協会	ラクチ法
77	唐古・鍵遺跡	73	KRK-073-00018W	用途不明品	ケヤキもしくはエノキ	162	SD-202	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
78	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00034W	用途不明品	不明	158	SK-101	第4層	その6	町直営	ラクチ法
79	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00035W	用途不明品	広葉樹	648	SK-105	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
80	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00036W	用途不明品	広葉樹	151	SK-112	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
81	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00038W	用途不明品	不明	173	SK-201	第5層		町直営	ラクチ法
82	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00039W	用途不明品	広葉樹？	155	SK-201	第4層		大阪市博物館協会	ラクチ法
83	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00041W	用途不明品	広葉樹	804	SK-203	第5層		大阪市博物館協会	ラクチ法
84	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00042W	用途不明品	不明	426	SD-102W	第4層	W-401	町直営	ラクチ法
85	唐古・鍵遺跡	74	KRK-074-00046W	用途不明品	不明	158	SK-101	第4層	その7	町直営	ラクチ法
86	唐古・鍵遺跡	76	KRK-076-00017W	丸太杭	コナラ属コナラ節	420	SK-1113	第4(下)層		大阪市博物館協会	ラクチ法
87	唐古・鍵遺跡	85	KRK-085-00001W	平鍬未成品	イチイガシ？	113	SD-101	第6(下)層	W-859	大阪市博物館協会	ラクチ法
88	唐古・鍵遺跡	93	KRK-093-00015W	不明建築材	リンボク	924	SK-2121	第5層		町直営	ラクチ法
89	唐古・鍵遺跡	99	KRK-099-00001W	盾	針葉樹	27	SD-7101	第5層		町直営	PEG・真空凍結法
90	唐古・鍵遺跡	102	KRK-102-00007W	鍬・鋤の身	コナラ属アカガシ亜属	96	廃土			町直営	ラクチ法
91	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00001W	鋤の身	コナラ属アカガシ亜属	252	SD-101C	第17-b層		町直営	ラクチ法
92	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00002W	鋤の身	コナラ属アカガシ亜属	187	SD-101B	第13-c層		町直営	ラクチ法
93	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00003W	穂摘具	コナラ属クヌギ属	199	SD-101B	第13-c層		町直営	ラクチ法
94	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00004W-1	竪杵	コナラ属アカガシ亜属	268	SD-101B	第14層	W-1401	町直営	PEG・真空凍結法
95	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00005W	布巻具	サカキ	183	SD-101B	第13層	W-1302	町直営	PEG・真空凍結法
96	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00006W	高杯	ヤマグワ	183	SD-101B	第13層	W-1301	町直営	PEG・真空凍結法
97	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00008W	組合せ高杯	本体・差込部：ヤマグワ 木釘：散孔材	209	SD-101B	第13層	W-1357	町直営	PEG・真空凍結法
98	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00009W	不明容器	ケヤキ	200	SD-101B	第13層	W-1350	町直営	PEG・真空凍結法
99	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00010W	不明容器	ケヤキ	182	SD-101B	第13層		町直営	ラクチ法
100	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00011W	杓子未成品	サクラ属	169	SD-101B	第12層	W-1243	町直営	PEG・真空凍結法
101	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00012W	有頭棒	スダジイ	224	SD-101B	第13-c層	その2	町直営	ラクチ法
102	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00013W	柱	コナラ属クヌギ節	182	SD-101B	第13層		町直営	ラクチ法
103	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00014W	板杭	サカキ	182	SD-101B	第13層		町直営	ラクチ法
104	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00015W	用途不明品	ヒノキ属	183	SD-101B	第13層	W-1318	町直営	ラクチ法
105	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00016W	有頭棒	マキ属	181	SD-101B	第13層		町直営	ラクチ法
106	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-00026W	用途不明品	不明	182	SD-101B	第13層		町直営	ラクチ法
107	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10004W	板A	ムクノキ	259	SD-101C	第19層	W-1902	町直営	ラクチ法
108	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10005W	板A	ヒノキ属	235	SD-101C	第17-b層		町直営	ラクチ法
109	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10006W	板A	ヒノキ属	235	SD-101C	第17-b層		町直営	ラクチ法
110	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10007W	板A	ヒノキ	209	SD-101B	第13層	W-1351	町直営	ラクチ法
111	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10008W	板A	スギ	209	SD-101B	第13層	W-1358	町直営	ラクチ法
112	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10009W	板A	コナラ属コナラ節	221	SD-101B	第13層	W-1368	町直営	ラクチ法
113	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10010W	板A	ヒノキ	221	SD-101B	第13層	W-1375	町直営	ラクチ法
114	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10011W	板A	クリ	221	SD-101B	第13層	W-1380	町直営	ラクチ法
115	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10012W	板A	ヒノキ	217	SD-101B	第13-c層	その1	町直営	ラクチ法
116	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10013W	板A	クスノキ	224	SD-101B	第13-c層	その2	町直営	ラクチ法
117	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10014W	板A	モミ属	224	SD-101B	第13-c層	その2	町直営	ラクチ法
118	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10015W	板A	ヒノキ	224	SD-101B	第13-c層	その2	町直営	ラクチ法
119	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-10016W	板A	コナラ属アカガシ亜属	208	SD-101B	第12層	W-1258	町直営	ラクチ法
120	唐古・鍵遺跡	115	KRK-115-50005W	サンプル	不明	208	SD-101B	第12層	W-1258	町直営	ラクチ法
121	保津・宮古遺跡	16	HTM-016-00008W	蓋・底板	不明	21	SD-05	第3層		町直営	ラクチ法
122	保津・宮古遺跡	16	HTM-016-00009W	蓋・底板	不明	53	SD-05	第3層		町直営	ラクチ法
123	保津・宮古遺跡	16	HTM-016-00010W	蓋・底板	不明	53	SD-05	第3層		町直営	ラクチ法
124	保津・宮古遺跡	16	HTM-016-00051W	木樋	不明	53	SD-05	第3層		町直営	ラクチ法
125	保津・宮古遺跡	16	HTM-016-00052W	木樋	不明	63	SD-05	第3(上)層	W-302	町直営	ラクチ法
126	常楽寺推定地	5	JRJ-005-00020W	曲物底板	不明	171	SK-52	第2層	W-201	町直営	ラクチ法
127	常楽寺推定地	5	JRJ-005-00021W	曲物底板	不明	39	SD-01	第2層	W-203	町直営	ラクチ法
128	常楽寺推定地	5	JRJ-005-00023W	部材	不明	27	SD-01	第3層		町直営	ラクチ法
129	十六面・薬王寺遺跡	5	JRY-005-00007W	円形曲物（井戸枠）	不明	26	SE-04	井戸枠4段目		町直営	ラクチ法
130	多遺跡	22	OOI-022-00004W	建築材	コナラ属クヌギ節	366	SK-2102B	第8層		大阪市博物館協会	ラクチ法
131	千代遺跡	1	TSR-001-00001W	柱	コウヤマキ	177	P-05			大阪市博物館協会	ラクチ法
132	千代遺跡	1	TSR-001-00002W	柱	コウヤマキ	178	P-04			大阪市博物館協会	ラクチ法

※ラクチ法はラクチトール・トレハロース含浸法、PEG・真空凍結法はPEG含浸・真空凍結乾燥法を略す。

（3）図面・写真の保管と資料撮影、写真のデジタル化

発掘調査に伴う現場写真と図面については、下表のとおりである。また、写真撮影は、町内の各遺跡から出土した速報展や企画展用の遺物、保存処理用木製品、重要考古資料目録の作成に伴う土器等の遺物の撮影をおこなった。また、唐古・鍵考古学ミュージアムの企画展関連遺物の写真デジタル化をおこなった。

【図面・写真の保管数量】

調査番号	遺跡名	調査次数	図面		35㎜			
					カラーポジ		モノクロネガ	
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数
H27-01	保津・宮古遺跡	第42次調査	14	－	11	203	6	203
H27-02	唐古・鍵遺跡	第116次調査	47	11	24	468	13	475
H27-03	宮古北遺跡	第35次調査	4	－	3	49	2	49
H27-04	寺内町遺跡	第16次調査	8	－	11	205	6	204
H27-05	多地区古墳推定地 隣接地		5	－	2	26	1	26
H27-06	唐古・鍵遺跡	第117次調査	2	－	1	11	1	11
H27-07	宮古北遺跡	第20次調査	15	－	7	134	4	134
H27-08	三笠遺跡	第1次調査	2	－	1	16	1	18
H27-09	唐古・鍵遺跡	第118次調査	44	1	16	319	9	318
H27-10	保津・宮古遺跡	第43次調査	2	－	1	18	1	20
H27-11	阪手北遺跡	第7次調査	8	－	3	58	2	58
計			151	12	80	1,506	46	1,516

【写真撮影一覧】

種類	資料名・内容	仕様	カット数	媒体	備考
考古遺物	唐古・鍵遺跡　土器文様・記号土器ほか	デジタル645RW	53	DVD-R 2枚	重要考古資料目録作成
	唐古・鍵遺跡　特殊土器・土製品	デジタル645RW デジタル35RW	11 78	DVD-R 4枚	重要考古資料目録作成
	唐古・鍵遺跡　ミニチュア土器・石器ほか	デジタル645RW デジタル35RW	46 72		重要考古資料目録作成
	唐古・鍵遺跡ほか　木製品	デジタル645RW	28	DVD-R 1枚	保存処理用
	唐古・鍵遺跡　第116次調査　木製品	デジタル645RW	19	DVD-R 1枚	報告用
	唐古・鍵遺跡　イノシシ下顎骨13点	デジタル35RW	26	DVD-R 1枚	年報報告用
	唐古・鍵遺跡　石器・石製品	デジタル645RW デジタル35RW	41 6	DVD-R 3枚	秋季企画展用
	笹鉾山2号墳　形象埴輪・円筒埴輪・朝顔形埴輪・須恵器 唐古・鍵遺跡　骨角製品・骨素材	デジタル645RW デジタル35RW	11 18	DVD-R 1枚	春季企画展用

【デジタル化一覧】

内容	カラーポジ（4×5）	成果品
唐古・鍵遺跡　卜骨・骨製品・木製品	23枚	DVD-R　1枚
唐古・鍵遺跡　編年・記号・特殊・搬入土器	50枚	DVD-R　1枚

（４）図書の受領

平成27年度は、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムに関係諸機関・個人（257機関等）から736冊の図書の寄贈を受けた。また、図書の購入は12冊である。

【図書の受領】

分　類	報告書	概　報	現説資料	年　報	館　報	図　録	パンフレット	紀　要	会　報
冊　数	364	61	0	77	27	62	22	27	3

分　類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑　誌	目　録	その他	合　計
冊　数	5	33	13	15	16	2	9(3)	736

※　上記冊数には、２部以上の寄贈 30 冊を含んでいない。　※(　) の数字は、CD-ROM の枚数（内数）である。

２．遺跡・文化財の保護

（１）県指定文化財

平成27年度において、田原本町大字八尾258番１西側水路の調査で検出した笹鉾山２号墳の出土品一括が奈良県の有形文化財（美術工芸品考古資料）の指定（平成28年２月５日　告示第18号）を受けた。本件の指定により県指定文化財は７件となった。以下、答申内容を記す。

答申　第６号

種　　別　　有形文化財（考古資料）

名称及び員数　　笹鉾山２号墳出土品（ささほこやま２ごうふんしゅつどひん）　一括

（人物埴輪３点、馬形埴輪３点、蓋形埴輪１点、形象埴輪片一括、円筒埴輪４点、朝顔形埴輪２点、土師器２点、須恵器１点、笠形木製品３点、石見型木製品１点、木製品部材６点）

出　土　地　　磯城郡田原本町大字八尾258番１西側水路

所　在　地　　磯城郡田原本町大字阪手347番１（田原本町役場分庁舎）

所有者の住所　　磯城郡田原本町890番１

所有者の氏名　　田原本町

法　　量　　別紙の通り

時　　代　　古墳時代

説　　明　　笹鉾山古墳群は、寺川西岸、標高46m前後の沖積地に立地する。古墳時代後期の前方後円墳１基、円墳４基で構成される。２号墳は直径24mの円墳で、幅約３mの周濠の北東は一部が途切れており、陸橋の可能性がある。墳丘は削平されており、盛土は残存していない。周濠の北側および東側が調査され、埴輪、須恵器、土師器、木製品は南東側の周濠内から一括して出土した。埴輪と須恵器の特徴から、２号墳は古墳時代後期に築造されたと考えられる。

人物埴輪　いずれも左手を挙げ、右手を下げる。左手の手のひらには、手綱を表す粘土紐を握るものが１点ある。上衣の腰帯と裾が表現されており、髪は左右と後ろに束ねた角髪である。顔は、杏仁形の切り抜きによって目が、刺突によって鼻孔が表現されている。１点の顔面には、鼻の上に翼形、両目の上に弧状、目尻からあごにかけて直線状の線刻がそれぞれ施されており、入れ墨を表現している。腰の後側には、腰帯表現の突帯直下にＬ字形の粘土が貼り付けられたものがあり、鎌を表現していた可能性がある。その姿態から、馬牽きを表したと考えられる。

馬形埴輪　ｆ字形鏡板付轡、面繋、手綱、胸繋、鞍、鞍の敷物、鐙、障泥、尻繋等の馬具を装着した飾り馬である。鏡板、面繋、手綱、鐙、尻繋が粘土貼り付け、胸繋や鞍の敷物、障泥が線刻によって表現され、面繋の交点に花形の辻金具、尻繋に７個の鈴が付く杏葉をもつものが１点ある。鏡板、面繋、手綱、尻繋が粘土紐貼り付け、鞍の敷物、障泥、鐙が線刻によって表現され、尻繋の杏葉に鈴は付けられていないものが１点ある。脚の先端の蹄部分と尻尾、胴部や鞍、鐙、鈴部分等の破片のみが残存するものが１点ある。

蓋形埴輪　立飾りの軸から飾り板の下半にかけての破片と、笠部の先端の破片が残存している。飾り板には２条１対の線刻が施されている。

円筒埴輪　いずれも３条突帯４段構成で、下から２段目と３段目に円形の透孔が各段２箇所にある。最上段外面に線刻が施されているものが２点ある。

朝顔形埴輪　いずれも口縁部から肩部にかけての破片である。

土師器　把手付甕と小形鉢が各１点ある。甕の体部には先端が上方に彎曲する形状の把手が２箇所に付けられている。

須恵器　坏身の口縁部から底部にかけての破片である。

笠形木製品　いずれもコウヤマキ製である。頂部突起から笠部にかけて全体の形状が判明するものが１点ある。頂部突起の上面には平坦面がある。笠部の中央孔は長方形を呈する。２点は、笠部のみが残存する。

石見型木製品　縦方向に破損しており、全体の約半分が残存する。コウヤマキ製である。角状突起帯、第１段帯、中央帯、第２段帯、最下帯からなる４段構成である。角状突起帯の中央にはＵ字形の抉りがある。

木製品部材　木製品部材のうち２点には枘状の突起があり、そのうち１点には突起先端に小孔が認められる。横断面が緩やかに彎曲するものが１点ある

　これら出土品の時期は、古墳時代後期のものと考えられる。笹鉾山２号墳は、規模が小さいものの各種の形象埴輪や木製品が多数出土しており、当該期の古墳に樹立された埴輪と木製品等の様相をよく示した一括資料として価値付けられる。なかでも人物埴輪と馬形埴輪は、周濠内における出土状況から、それぞれ馬牽きと馬を表した組み合せが明らかとなった点が重要である。馬牽きの髪型や服装と装備、飾り馬の馬具の装着状況等、古墳時代の習俗が忠実に表現されており、きわめて資料価値が高い。

	高さ	左右幅	前後幅
人物埴輪（1）	(57.0)	24.2	21.4
人物埴輪（2）	(58.2)	25.3	20.2
人物埴輪（3）	(46.1)	22.1	16.1
馬形埴輪（1）	73.5	21.0	85.2
馬形埴輪（2）	71.0	21.0	85.8
馬形埴輪（3）	破片資料のため計測不能		

	高さ	幅
蓋形埴輪	(27.1)	(24.7)

	高さ	口径	底径
円筒埴輪（1）	40.3	21.7	14.3
円筒埴輪（2）	37.3	18.2	14.3
円筒埴輪（3）	41.0	22.0	15.5
円筒埴輪（4）	39.5	18.0	12.5
朝顔形埴輪（1）	(21.2)	36.0	－
朝顔形埴輪（2）	(31.3)	(34.0)	－

	高さ	口径
土師器把手付甕	24.8	(25.0)
土師器小形鉢	4.4	7.8
須恵器坏身	4.6	(12.4)

	高さ	笠部径
笠形木製品（1）	12.1	32.7
笠形木製品（2）	7.0	34.0
笠形木製品（3）	4.7	28.1

	高さ	幅
石見型木製品	88.8	15.2

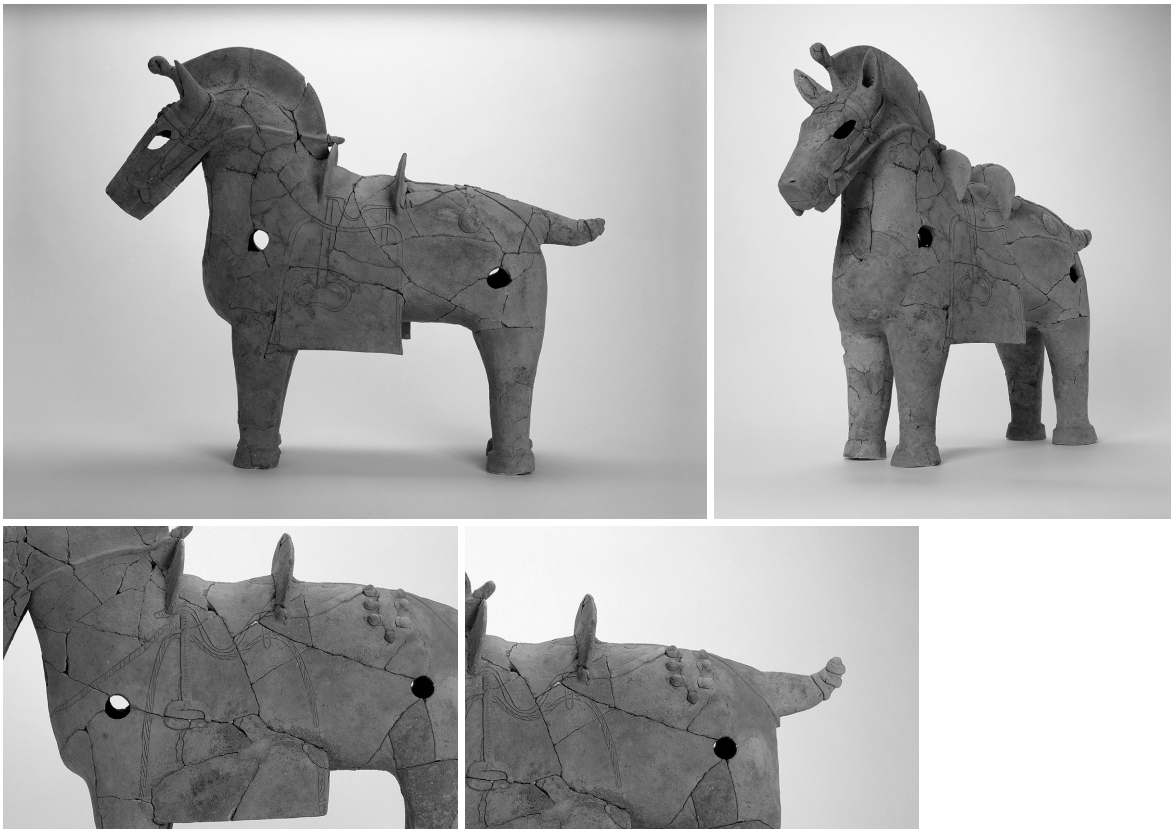
	長さ	幅
木製品部材（1）	(28.7)	(6.6)
木製品部材（2）	(30.6)	(5.6)
木製品部材（3）	(22.7)	(10.2)
木製品部材（4）	(29.2)	(6.1)
木製品部材（5）	(24.9)	(3.4)
木製品部材（6）	(11.8)	(4.4)

単位はcm、（　）は残存値

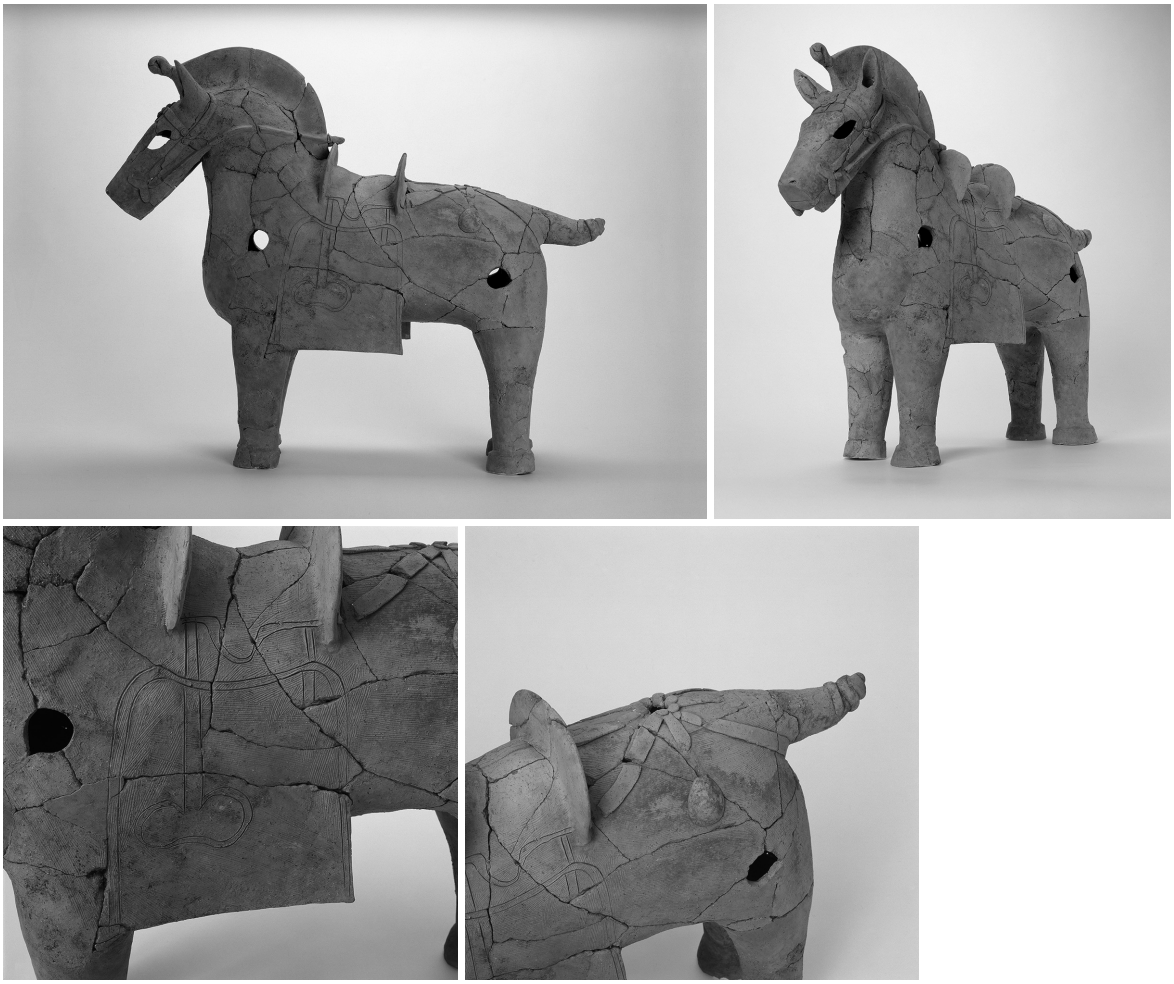
人形埴輪（1）

人形埴輪（2）

人形埴輪（3）



馬形埴輪（1）



馬形埴輪（２）

馬形埴輪（３）

蓋形埴輪

円筒埴輪（1）

円筒埴輪（2）

円筒埴輪（3）

円筒埴輪（4）

朝顔形埴輪（1）

朝顔形埴輪（2）

土師器把手付甕

土師器小形鉢

須恵器坏身

笠形木製品（1）

笠形木製品（2）

笠形木製品（3）

石見型木製品

木製品部材（1）

木製品部材（2）

木製品部材（3）

木製品部材（4）

木製品部材（5）

木製品部材（6）

（２）町指定文化財

平成27年度において、大字矢部の民俗行事１件を田原本町文化財保護審議会に諮問した。当審議会の答申を受け、町の指定文化財として台帳に登録した。これで町指定文化財は、７件となった。

【田原本町文化財保護審議会　委員】

分　野	氏　名	備　考
歴　史	和田　　萃	委員長
歴　史	谷山 正道	

分　野	氏　名	備　考
考古学	寺澤　　薫	
彫　刻	鈴木 喜博	

分　野	氏　名	備　考
民　俗	浦西　　勉	
建造物	清水 重敦	

【町指定文化財一覧】

台帳番号	種　別	名称 及び 員数	所 有 者	時　代	指　定年月日
1	有形文化財（考古資料）	「楼閣」が描かれた土器片　3 点 唐古・鍵遺跡第 47・77 次調査出土	田原本町	弥生時代（中期）	平成 20 年 3 月 24 日
2	有形文化財（考古資料）	翡翠製勾玉と鳴石容器（蓋付）　一式 唐古・鍵遺跡第 80 次調査出土 1. 翡翠製勾玉　　2 点 1. 鳴石容器　　1 点 1. 容器蓋（土器甕片）　1 点	田原本町	弥生時代（中期）	
3	有形文化財（彫刻）	木造十一面観音立像　一躯	法貴寺自治会	室町時代 （天文 10 年／ 1541 年）	
4	有形文化財（古文書）	平野権平（長泰）宛豊臣秀吉感状 1. 平野権平宛羽柴秀吉判物 （天正十一年六月五日）　折紙 1 通 2. 平野権平宛豊臣秀吉朱印状 （文禄四年八月十七日）　折紙 1 通 附 収納箱 内箱・外箱　包紙（2 は 2 枚有り）	福岡洋介	1. 安土桃山時代 （天正 11 年／ 1583 年） 2. 安土桃山時代 （文禄 4 年／ 1595 年）	平成 20 年 12 月 17 日
5	有形文化財（古文書）	寶陀山補巌禅寺納帳 1. 寶陀山補巌禅寺納帳 その 1 2. 寶陀山補巌禅寺納帳 その 2 3. 寶陀山補巌禅寺納帳 その 3 4. 寶陀山補巌禅寺納帳 その 4 附 補巌禅寺開山支派	補巌寺	1. 室町時代 （明応 7 年／ 1498 年） 2. 室町時代 （大永末年頃） 3. 室町時代 （永禄末年頃） 4. 室町時代 （元亀 3 年／ 1572 年） 附 江戸時代	平成 22 年 12 月 22 日
6	有形文化財（古文書）	小林家文書　　1,132 点 附 諸書物入木箱　　1 点	小林敏良	桃山～昭和時代 附 江戸時代 （天保 8 年／ 1837 年）	平成 24 年 9 月 27 日
7	無形文化財（民俗）	矢部の「綱掛」	矢部自治会	明治以前～現代	平成 27 年 11 月 17 日

矢部の「綱掛」

種　　別　　無形民俗文化財

名称及び員数　　矢部（やべ）の「綱掛（つなかけ）」

所　在　地　　奈良県磯城郡田原本町大字矢部

保 護 団 体　　矢部自治会

説　　明　　矢部の「綱掛」は、田原本町大字矢部において毎年５月５日（旧新暦共）に、各班（大字矢部には10班があり、順番に回る）の頭屋（とうや）を中心におこなわれる行事である。

５月４日に行事の準備として、大きな綱、小形の農具（鍬と鋤）を作り、牛の図を木版刷りする。大きな綱は、３組の縄をより合わせられたものである。３組の縄は、それぞれ２本の縄をより、もう１本をより合わせたものであ、３組の縄をあわせる際、藁の垂れを挟み込んで作られるという特徴ある綱である。

５月５日は、村の役員や綱を持つ人達が、伊勢音頭をはやしながら、頭屋宅を出発し村中を練り歩く。小形の農具や牛の刷り物、稲苗は、粗く編んだ竹かごに入れ、綱の先頭に付けられる。慶事（嫁入りや婿入り）のあった家には、綱を持ち込んで、人に巻き付ける。最後に集落の南の小字ツナカケにある木に綱が掛けられる。綱には、小形の農具などの入った竹かごも一緒に掛ける。参加者は、掛けられた綱の前に整列し、僧侶が導師となり経が唱えられる。終了後、小形の農具と牛の刷り物が、各戸に配られる。

この行事はいつからおこなわれたのか不明であるが、『綱掛講規定録』（「明治四拾四年五月改　綱掛神社講中」昭和40年（1965）表紙付替え）として当時の頭屋（当宿）が記録した文書の中で、明治29年（1896）に、それ以前の規定を改正したことがわかる。また、綱を掛ける場所の小字名が、ツナカケとあるところから、明治時代以前に遡ると思われる。

矢部の「綱掛」は、作られる大きな綱や小形の鍬・鋤、牛の刷り物、供えられる稲苗など、また、綱を掛ける場所には村落社会において重要な農業用水路があり、この行事の根底には豊作祈願を主体とする農耕儀礼の側面が強く認められる。また、綱を人に巻き付ける呪術的行為などからも全体的に古風な民間宗教儀礼がよくとどめられており、貴重である。

町内における綱掛行事を伴う農耕儀礼のうち、鍵の蛇巻きと今里の蛇巻きは、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」として選択されているが、矢部の「綱掛」のみ名称が違い選択外であったため、町内の同様な農耕儀礼として指定する必要がある。

行事風景

小字「ツナカケ」に掛かる綱

３．講座

小中学生向け講座として、チャレンジ子ども弥生探検隊を夏・春の２回実施した。夏休みには、田原本町から出土した埴輪や土器をモデルにした貯金箱づくりを、春休みには低温融解金属を使ってミニ銅鐸の鋳造体験をおこなった。

【チャレンジ子ども弥生探検隊】

実 施 日	内　容		会　場	参加者数
7月23日（木）	体験講座	埴輪・土器の貯金箱作り	陶芸室	15名
7月29日（水）				20名
3月25日（金）		ミニ銅鐸をつくろう	工作室	13名
			計	48名

埴輪・土器の貯金箱作り

ミニ銅鐸をつくろう

４．学校教育等への支援

（１）小学校出前授業

町内小学校から依頼を受け、総合的学習の時間として、以下内容の出前授業をおこなった。これらの児童の作品や学習成果は、２月初旬に開催した「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」にて公開し、267名が観覧した。

【出前授業】

実 施 日	学校・学年	児 童 数	内　　容
５月１日（金）	北小学校　６年	２クラス（ 40 名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
５月 15 日（金）			火熾し・赤米炊飯・脱穀
７月 15 日（水）			土器づくり
10 月２日（木）			土器の野焼き
７月２日（木）	東小学校　６年	１クラス（ 13 名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
10 月１日（木）			土器づくり
11 月５日（木）			土器の野焼き
11 月 19 日（木）			火熾し・赤米炊飯
４月 30 日（木）	南小学校　６年	２クラス（ 69 名）	弥生時代について
５月８日（金）			火熾し・赤米炊飯
７月 10 日（金）			勾玉づくり
５月７日（木）	平野小学校　６年	３クラス（ 64 名）	弥生時代について
５月 29 日（金）			勾玉づくり
６月 26 日（金）			土器づくり
10 月６日（火）			土器の野焼き
10 月 22 日（木）			火熾し・赤米炊飯
５月 21 日（木）	田原本小学校　６年	４クラス（108 名）	ミュージアム見学
６月５日（金）			火熾し・赤米炊飯
６月 19 日（金）			勾玉づくり
20 日間	12 クラス（延べ 1,450 名）		メニュー延べ 27

小学校出前授業（北小学校）

小学校出前授業（平野小学校）

（２）中学校職場体験学習

中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れ、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムで体験学習を実施した。

【体験学習】

期　間	学 校 名	内　容	人　数
11月４・５・６日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理・土器拓本・ミュージアム受付	３名
11月10・11・12日	北中学校		２名
６日間	２学校	延べ10メニュー	延べ15名

（３）大学の学外授業

奈良大学の通信教育の課外授業として、４回受け入れ、下記内容の授業をおこなった。

【学外授業】

実 施 日	内　　容	人　数
８月８日（土）	奈良大学　通信教育課程「文化財学購読Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	80名
８月29日（土）		32名
２月13日（土）		24名
２月27日（土）		39名
４日間		計175名

（４）講師の派遣

前記以外に、教育委員会等の事業として下記のとおり職員を派遣した。

【講師の派遣】

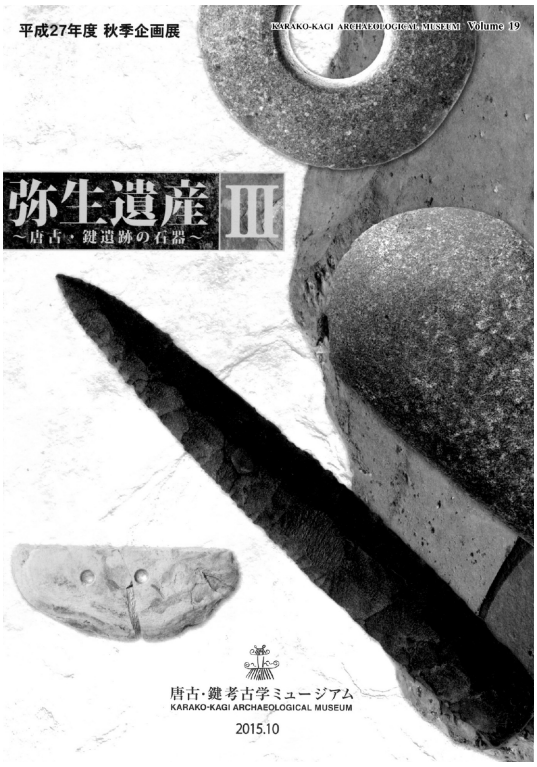
実 施 日	講座名等	演　題	講　師
４月18日（土）	日本学術振興会科学研究費補助金研究『中世・近世移行期における守護所・城下町の総合研究』「中近世移行期における大和国の解明」研究集会	田原本寺内町について	清水
５月29日（金）	田原本文華会	ヤマト政権成立前史～唐古・鍵遺跡と纒向遺跡	藤田
６月22日（月）	同志社大学文化情報学部「歴史文化情報入門」	弥生土器のみかた	藤田
８月20日（木）	大和磯城ライオンズクラブ例会	唐古・鍵遺跡とは	藤田
８月21日（金）	奈良県小・中学校図画工作・美術実技研修	唐古・鍵考古学ミュージアム見学と弥生土器の話、土器づくり実習	藤田他
９月４日（金）	瀬戸内海研究会議「瀬戸内海研究フォーラムin奈良」	大和川と「史跡」－唐古・鍵遺跡と大和川・寺川	藤田
９月12日（土）	歴史に憩う橿原市博物館平成27年度定期講座「弥生時代の実験」	弥生時代の集落論	藤田
９月19日（土）	守山市教育委員会　歴史シンポジウム『倭国の形成と伊勢遺跡～整備・活用をめぐってⅠ～』	奈良県唐古・鍵遺跡の整備と活用	藤田
９月25日（金）	橿原市まほろば大学校クラブ講義　奈良を掘る	田原本町内の遺跡について	清水
９月26日（土）	下関市立考古博物館平成27年度一般教養講座（第３回）	ヤマトの拠点集落～唐古・鍵遺跡～	藤田
10月31日（土） 11月１日（日）	葛城市歴史博物館　日本学術振興会科学研究費補助金研究「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合研究」研究集会	田原本寺内町について	清水
11月25日（水）	ユネスコ・アジア文化センター「文化遺産の保護に関する研修2015」－博物館等における文化財の管理と展示活用－臨地研修「特色あるテーマ博物館の実例Ⅲ」	唐古・鍵遺跡	藤田
２月14日（日）	高知県立埋蔵文化財センター主催特別展に伴う講演会「田村遺跡群とその時代１」	弥生時代の始まりと高知県	柴田
２月19日（金）	北中学校ゲストティーチャー事業	「考古学」から地域の歴史を明らかにする	藤田
３月30日（水）	大阪府立弥生文化博物館平成27年度弥生フェスティバル連続講演会「奇跡の発見！松帆銅鐸」	唐古・鍵遺跡の青銅器鋳型と鋳造された銅鐸	藤田

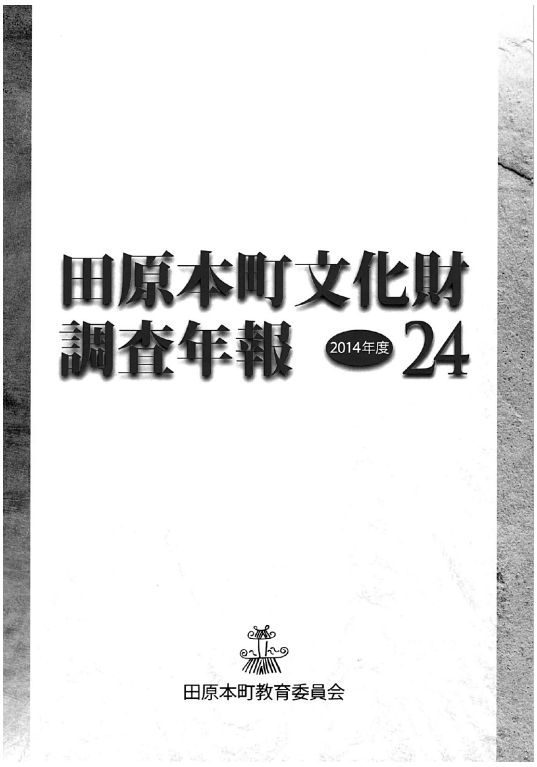
5．刊行物一覧

本年度は、下記４点の書物を印刷した。

【刊行物名】

書　籍　名	発行日	部　数	内　容
唐古・鍵考古学ミュージアム 春季企画展図録『たわらもと 2015 発掘速報展』	2015 年 4 月	1,200 部	2014 年度の唐古・鍵遺跡、十六面・薬王寺遺跡などの発掘調査に関する報告
唐古・鍵考古学ミュージアム 秋季企画展図録『弥生遺産Ⅲ～唐古・鍵遺跡の石器～』	2015 年 10 月	2,000 部	唐古・鍵遺跡から出土した石器について、素材や制作方法・使用方法の視点から展示
『田原本町文化財調査年報 24　2014 年度』	2016 年 3 月	750 部	平成 26 年度の文化財事業の報告
『唐古・鍵遺跡　考古資料目録Ⅱ ―土器編 2（弥生・搬入・特殊）―』	2016 年 3 月	800 部	唐古・鍵遺跡出土資料の解説目録。縄文土器・弥生土器・古式土師器・搬入土器・特殊土器を掲載





6．資料の活用

（1）資料の貸出

平成27年度は、８機関に延べ12遺跡181点の遺物等を貸出した。貸出内容は、唐古・鍵遺跡の出土品が大半である。

【資料貸出の一覧】

貸出先／展覧会名／期間	遺　跡　名	資　料　名	点数
大阪府立弥生文化博物館／大阪府立弥生文化博物館平成 27 年度春期特別展『卑弥呼－女王創出の現象学－』 平成 27 年５月１日～７月５日	唐古・鍵遺跡	褐鉄鉱容器 1・褐鉄鉱容器蓋 1・ヒスイ製勾玉 2・銅鐸の土製鋳型外枠 2・高坏形土製品 1・送風管 2・卜骨 2	11 点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館／速報展『大和を掘る 33』 平成 27 年７月 18 日～９月６日	唐古・鍵遺跡	弥生土器 8・土師器 1・打製石鏃 3・打製石剣 1・石錐 5・スクレイパー 1・敲石 1・投弾 6・管玉 1・ヒョウタン 1・桜樹皮 1	36 点
	羽子田遺跡	須恵器三耳壷 1・羽釜 1・軒丸瓦 3・軒平瓦 2	
吉野ヶ里歴史公園／特別企画展『よみがえる邪馬台国』「倭人伝の道Ⅲ―テクノポリス国家　奴国―」 平成 27 年９月 19 日～ 11 月８日	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器（復元）1・絵画土器 8・記号土器 1・弥生土器 9・土器片紡錘車 5・打製石鏃 5・打製石剣 1・鞘入り石剣（剣）（レプリカ）1・石製紡錘車 5・鞘入り石剣（鞘）（レプリカ）1・丹塗盾 1・弓 1・合子 1・合子蓋 1・耳付高杯 1・方形容器 1・糸巻具 1・木製紡錘車 1・布巻具 1・麻布 1・炭化米 1・石製銅鐸鋳型 1・石製銅鐸鋳型（レプリカ）1・石製銅鐸鋳型（復元）1・土製銅鐸鋳型外枠 1・土製武器鋳型外枠 7・送風管 1・高坏形土製品 1・銅鐸片 1・銅鏃 4・巴形銅器 1・縫針 1・卜骨 3・イノシシ穿孔下顎骨 1	72 点
下関市立考古博物館／平成 27 年度下関市立考古博物館開館 20 周年記念特別展『綾羅木遺跡とその時代―環濠集落　事始め―』 平成 27 年９月 19 日～ 11 月 15 日	唐古・鍵遺跡	弥生土器 3・石庖丁 2・扁平片刃石斧 1・銅鐸形土製品 1・木製穂摘具 1・送風管 1・卜骨 1	10 点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館／平成 27 年度秋季特別展『人のかたちの埴輪はなぜ創られたのか』 平成 27 年 10 月３日～ 11 月 23 日	羽子田１号墳	盾持人埴輪 3	4 点
	笹鉾山２号墳	馬牽き１号人物埴輪 1	
歴史に憩う橿原市博物館／平成 27 年度秋季企画展『顔、カオ、かお～顔面表現の考古学～』 平成 27 年 10 月 10 日～ 11 月 29 日	唐古・鍵遺跡	絵画土器 2・絵画土器（レプリカ）1・人形土製品 1・復顔模型 1	7 点
	清水風遺跡	絵画土器 1・絵画土器（レプリカ）1	
尼崎市立田能資料館／第 45 回尼崎市立田能資料館特別展『弥生のものづくり―銅鐸を中心に―』 平成 27 年 10 月６日～ 12 月 13 日	唐古・鍵遺跡	石製鋳型 1・土製銅鐸鋳型外枠 6・土製武器鋳型外枠 2・土製不明鋳型外枠 1・高坏形土製品 2・送風管 4・真土付土器 1・銅塊 1・鋳造砥石 4	22 点
㈱中川政七商店／『大日本市博覧会』 平成 28 年１月 13 日～１月 17 日	唐古・鍵遺跡	石鏃 1・鞘入り石剣（剣）（レプリカ）1・鞘入り石剣（鞘）（レプリカ）1	3 点
鈴鹿市考古博物館／鈴鹿市考古博物館特別展『鹿―『鹿と古代人』その後―』 平成 28 年１月 23 日～３月６日	唐古・鍵遺跡	絵画土器 11・弭 2・刺突具 1・卜骨 2	16 点
８機関／延べ会期期間日数 447 日	延べ 12 遺跡等		181 点

【種別による貸出点数】

土器	埴輪	瓦	土製品	石器	木器	牙骨角製品	ガラス	金属器	籠・網布・紐	骨・貝	種・穀物	レプリカ模型	総点数
48点	4点	5点	41点	42点	11点	13点	0点	7点	1点	0点	2点	10点	181点

継続貸出は、３機関に18点の遺物を貸出した。これらのうち、香芝市二上山博物館では平成28年１月22日に、大阪府立弥生文化博物館では平成28年１月19日にそれぞれ貸出資料の入替をおこなった。

【資料の継続貸出】

貸出先／展示名／期間	遺跡名	資料名	点数
香芝市二上山博物館　常設展示 【貸出期間】平成27年４月１日～平成28年３月31日	唐古・鍵遺跡	弥生土器・壷・高坏・槍先形石器 ※平成28年１月22日に高坏１点を入替	４点
大阪府立弥生文化博物館　常設展示 【貸出期間】平成27年４月１日～平成28年３月31日	唐古・鍵遺跡	土弾 ※平成28年１月19日に土弾２点を入替	２点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　常設展示 【貸出期間】平成27年４月１日～平成28年３月31日	唐古・鍵遺跡	石製銅鐸鋳型・土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠・土製不明鋳型外枠・高坏形土製品・送風管	12点
３件	延べ３遺跡		18点

（２）写真掲載・撮影

写真の貸出及び掲載（転載含む）は48件233点であった。写真掲載の内容は、唐古・鍵遺跡の出土遺物の利用度が高い。

【写真掲載・撮影】

貸出先	掲載書籍等	名称（遺跡名）	資料名	点数
㈱ウーマンライフ新聞社	『ウーマンライフWeb版』	唐古・鍵遺跡	打製石器	１点
		羽子田遺跡	須恵器三耳壷	１点
トーリ・ハン㈱	ホームページ内カタログ	唐古・鍵遺跡	大型建物柱	２点
㈱イプロス	ホームページ内カタログ	唐古・鍵遺跡	大型建物柱	２点
㈱悠工房	『みんなのセンター教科書　日本史Ｂ改訂版』	唐古・鍵遺跡	甕・高坏	２点
㈲三猿舎	別冊宝島第2351号『日本の古代遺跡』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片・褐鉄鉱容器と翡翠製勾玉・イノシシ・シカ骨集合・鳥装のシャーマン模型・復元楼閣・第93次調査区・環濠・環濠群空撮・環濠集落イラスト	９点
㈱悠工房	『解決！センター日本史B』	唐古・鍵遺跡	高坏	１点
㈱サイズビジョン	『㈱中谷本舗　紹介ビデオ』	唐古・鍵遺跡	弥生土器集合(2)・鋤集合・復元楼閣・環濠集落イラスト	５点
奈良県農林部農林振興課	『平成27年度6月補正予算公表資料』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	１点
吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体　吉野ヶ里公園管理センター	吉野ヶ里歴史公園特別企画展「よみがえる邪馬台国　倭人伝の道Ⅲ―テクノポリス国家　奴国―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器(2)・鞘入り石剣・合子・合子蓋・耳付高坏・大型建物跡の柱・石製銅鐸鋳型・石製銅鐸鋳型（復元）・土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠集合・青銅器鋳造関連遺物集合・玉類集合・シカト骨・遺跡全景・環壕(2)・大型建物跡・銅鐸鋳造実験風景・炉跡状遺構	20点
㈱エディット	学習塾名進研実施『志望校別プレ入試』	唐古・鍵遺跡	弥生土器	１点
青谷上寺地遺跡展示館	ロビー展「弥生人の描いた絵画・文様」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器(4)・記号土器(4)・絵画土器実測図・記号土器実測図	10点
		清水風遺跡	絵画土器(5)・絵画土器実測図(2)	７点

㈱日本入試センター	『社会小学５年ディリーサピックス540-21』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	１点
	『社会小学５年ディリーサピックス540-21』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	１点 (連載)
㈱新泉社	『〈十二支の〉動物たちの考古学』（仮）	唐古・鍵遺跡	ネズミ爪圧痕土器	１点
		羽子田１号墳	牛形埴輪	１点
香川県埋蔵文化財センター	夏休みこどもミュージアム展「むかしのひとの図画工作」展示パネル	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	１点
		唐古・鍵遺跡	復元楼閣	１点 (転載)
㈲リゲル社	『文学で読む日本の歴史』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	１点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	平成27年度速報展『大和を掘る33』関連印刷物	唐古・鍵遺跡	第115次調査SD-101出土土器・石剣・第115次調査１号墳・第115次調査SD-102出土状況・第115次調査区・第115次調査区空撮(2)・唐古・鍵遺跡調査成果図・遺構図	９点
		羽子田遺跡	須恵器三耳壷・第38次調査区全景・羽子田31号墳・羽子田１号墳復元想定図	４点
	平成27年度秋季企画展「人のかたちの埴輪はなぜ創られたのか」関連印刷物	羽子田１号墳	盾持人物埴輪(2)	２点
		笹鉾山２号墳	馬牽き人物１号埴輪(3)	３点
アートフォト右文	手塚山大学市民大学講座資料	唐古・鍵遺跡	弥生土器集合(4)・弥生土器(5)	９点
下関市立考古博物館	平成27年度下関市立考古博物館開館20周年記念特別展「綾羅木郷遺跡とその時代―環濠集落事始め―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	弥生土器(3)・絵画土器・打製石剣(2)・銅鐸形土製品(2)・石庖丁・石斧集合・砥石(2)・石戈柄・木製穂摘具・盾・管玉未成品・卜骨・細形銅矛転用鑿・石製銅鐸鋳型(2)・土製銅鐸鋳型外枠(3)・送風管・土坑・木器貯蔵穴・木戈出土状況・大型建物跡(2)・炉跡状遺構・唐古･鍵遺跡変遷図(4)	33点
歴史に憩う橿原市博物館	平成27年度秋季企画展関連印刷物	唐古・鍵遺跡	人形土製品	１点
学校法人河合塾	2015年度　第２回センタートレーニングテスト〈日本史〉（高卒生対象）	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片・復元楼閣	２点 (転載)
尼崎市立田能資料館	第45回尼崎市立田能資料館特別展「弥生のものづくり―銅鐸を中心に―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	石製銅鐸鋳型と復元品集合(3)・土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠（復元）・土製武器鋳型（復元）・土製武器・不明鋳型外枠集合・送風管・高坏形土製品集合・鋳造砥石集合・青銅製品と銅塊・鉱滓集合・ガラス製勾玉・鋳造実験に使った道具・炉跡状遺構・銅鐸鋳造実験風景(9)・銅鐸鋳型構造イラスト・青銅器鋳造工房イラスト	25点
上淀白鳳の丘展示館	とっとりの文化遺産魅力発掘プロジェクト　よどえだいせんトークプレイス「いにしえから伝わる‘まつり’と‘信仰’」第１回「豊作をいのる」（講演会）レジュメ	清水風遺跡	絵画土器(4)	４点
		唐古・鍵遺跡	絵画土器	１点
㈱国書刊行会	『神像彫刻重要資料集成　関西編二』	多坐弥志理都比古神社	木造太安万呂坐像	１点
		孝霊神社	木造男神像・木造神像	14点
㈱小学館	日本美術全集第１巻『日本美術創生記』	唐古・鍵遺跡	褐鉄鉱容器	１点
奈良新聞社	奈良新聞	黒田大塚古墳	空撮・復元図	２点
㈲コーベット・フォトエージェンシー	中学生向け教育書『教科書トレーニング歴史 日本文教出版版』	唐古・鍵遺跡	弥生土器	１点

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会	会報『からこかぎ』	唐古・鍵遺跡	ガラス製勾玉・ガラス製勾玉実測図	２点（転載）
	会報『からこかぎ』	唐古・鍵遺跡	鶏頭形土製品	１点
㈱交通新聞社	JR西日本ジパング倶楽部会員誌『おとなび』2016年１月号	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	１点
		唐古・鍵考古学ミュージアム	展示風景	１点
やまとびとツアーズ	フリーペーパー『やまとびと』パンフレット等	安養寺	阿弥陀如来立像	１点
天理大学文学部	『モノと図像から探る妖怪・怪獣の誕生』	唐古・鍵遺跡	絵画土器(2)	２点
鈴鹿市考古博物館	鈴鹿市考古博物館特別展「鹿『鹿と古代人』その後―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	弥生土器(2)・絵画土器(10)・弭(2)・弭（栓）・骨針・卜骨(2)・石器を作る風景模型	19点
クラブツーリズム㈱カルチャー旅行センター	『おとなの寺旅』１月10日号・ホームページ	安養寺	木造阿弥陀如来立像	１点
		宮古薬師堂	木造薬師如来坐像	１点
㈱日本旅行西日本営業本部ジパング企画センター	JR西日本ジパング倶楽部「おとなびジパング」HP	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	１点
㈱中川政七商店	「大日本市博覧会」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	石鏃・鞘入り石剣（レプリカ）	２点
㈱秀学社	『中学社会研究ノート』歴史１	唐古・鍵遺跡	絵画土器	１点（転載）
長谷川啓子	『公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要　第30号』	羽子田１号墳	盾持人物埴輪	１点
平群町立図書館	地域資料展「大鳴石展」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	翡翠製勾玉を納めた褐鉄鉱容器	１点
気仙沼市教育委員会	平成27年度「気仙沼の発掘パネル展」展示パネル	唐古・鍵考古学ミュージアム	糸を紡ぐイラスト	１点
㈲青垣出版	『古代氏族の研究⑧　物部氏―剣神奉斎の軍事大族』	唐古・鍵遺跡	土製銅鐸鋳型外枠	１点（転載）
桜井市教育委員会	「第７回　纒向学セミナー」広報関連印刷物	唐古・鍵遺跡	復元楼閣・復元楼閣図面	２点
健康福祉課	「平成27年度食生活改善推進員リーダー北陸・東海・近畿ブロック研修会」資料	―	楼閣くん	５点
	封筒	―	楼閣くん	１点（転載）
社会福祉法人いわれ会	名刺	―	楼閣くん	２点
住民保健課	クリアファイル	―	楼閣くん	４点
環境管理課	ポケットティッシュ	―	楼閣くん	１点
48件		延べ59遺跡		233点

（3）資料調査

本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査（熟覧）があった。

【資料調査】

調　査　日	調　　査　　者	資　　料　　名
8月20日（木）	愛媛大学ミュージアム　吉田広	唐古・鍵遺跡　土製品（銅鐸形ほか）
9月7日（月） ・30日（水） 10月9日（金）	大阪大学文学研究科　内藤元太	小阪里中遺跡　　円筒埴輪 朝顔形埴輪 形象埴輪
9月16日（水） ～18日（金）	同志社大学文学部　橋本久和	保津・宮古遺跡　第27次調査SK-51出土土器
9月25日（金）	安城市教育委員会　岡安雅彦	唐古・鍵遺跡　第66次調査出土土器
10月10日（土） ・24日（土）	奈良県立青翔中学校高等学校　生田依子	唐古・鍵遺跡　モモ核
11月9日（月） ～11日（水）	同志社大学　奥田玲	唐古・鍵遺跡　卜骨
12月4日（金）	宮村誠二	羽子田3号墳　円筒埴輪
2月8日（月） ～10日（水）	同志社大学　朝井琢也	唐古・鍵遺跡　石鏃
3月3日（木）	大正大学　沼田奈々	唐古・鍵遺跡　絵画土器

7．ボランティア組織

（1）唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会

唐古・鍵遺跡を総合的に支援する任意ボランティア組織として、平成16年4月10日、「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍵支援隊）が設立された。今年度の会員は、73名である。

主な活動は、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合的学習の支援や子ども会等を対象として考古学体験、ミュージアムへの勧誘活動、文化財保存課〈ミュージアム〉主催事業への支援等がある。活動については、4月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会を基本的に月2回おこない、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備など、延べ29日449人が参加した。唐古・鍵遺跡においては団体向けに現地ガイドを実施し、6日間で延べ87人に対応した。

この他、自主的な学びの機会として、「弥生勉強会」を実施し、事前勉強会を開いた後、下之郷・服部・伊勢遺跡などの現地見学をおこなった。

（2）唐古・鍵遺跡史跡公園ボランティア

平成30年4月開園予定の唐古・鍵遺跡史跡公園で、ボランティアとして公園活用や維持管理について必要な知識・経験を身につけ、来園者が楽しく過ごすことができる公園づくりに参加していただくため、ボランティアを募集し、平成27年10月から下記内容の講座を開講した。第1期生の受講者は18名で、今後平成28年度にも2・3期生を募集する予定で進めている。

【唐古・鍵支援隊の支援活動】

活　動　日	内　容	主　催	支援内容	活動人数
5月9日	春季企画展　講演会	文化財保存課	受付	2人
11月7日	秋季企画展　講演会			2人
7月23日・7月29日	チャレンジ子ども弥生探検隊 （はにわ・土器の貯金箱づくり）		支援	6人
3月25日	ミニ銅鐸をつくろう			4人
5月1日・5月8日・5月15日・5月21日・5月29日・6月5日・6月19日・6月26日・7月2日・7月10日・7月15日・10月1日・10月2日・10月6日・10月22日・11月5日・11月19日　計17日間	総合的学習（土器づくり・野焼き・火熾し・炊飯・脱穀・勾玉づくり）	北小学校 平野小学校 田原本小学校 東小学校 南小学校	支援	153人
2月3日・2月5日・2月6日・2月7日・2月9日・2月10日　計6日間	田原本町内小学校の総合的な学習展示会	文化財保存課 支援隊 町内5小学校	受付 支援	28人
10月31日	文化祭（弥生体験）	生涯教育課	支援	13人
7月26日・8月30日・9月13日・9月27日　計4日間	唐古・鍵遺跡　コスモス栽培	総合政策課	支援	109人
延べ33日		15団体		317人

【唐古・鍵遺跡史跡公園ボランティア】

	実施日	内　容	講師等
1	10月22日（木）	開校式、唐古・鍵遺跡の考古学	藤田　三郎　（文化財保存課）
		唐古・鍵遺跡史跡公園	奥谷　知日朗　（総合政策課）
2	11月26日（木）	唐古・鍵遺跡の自然を知ろう	谷　幸三　氏（環境アドバイザー）
		里山の昆虫	中谷　康弘　氏（橿原市昆虫館館長補佐）
3	12月24日（木）	弥生時代の植生	金原　正明　氏（奈良教育大学教授）
		史跡公園の整備・管理と景観	井原　縁　氏（奈良県立大学准教授）
4	2月4日（木）	他ボランティア活動の見学	国営飛鳥歴史公園「飛鳥里山クラブ」
5	3月3日（木）	弥生時代のものづくり	文化財保存課
			唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会

Ⅲ．唐古・鍵考古学ミュージアム

１．常設展示

（１）田原本ギャラリー　今回の逸品

田原本町内の遺跡から出土した埋蔵文化財や、古文書等の有形文化財を不定期に入れ替えながら展示公開している。また、解説パネルを併置し、展示品の特徴や意義などを説明している。

平成27年度は、「田下駄」（第９回）を昨年度から引き続き展示し、10月から「火打石～弥生石器の再利用～」（第10回）を展示した。

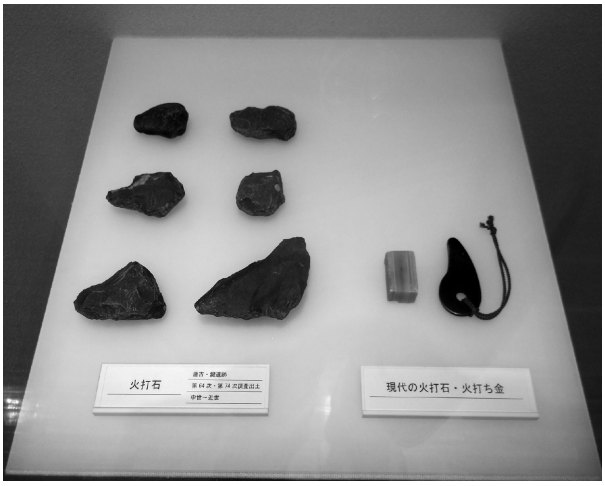
今回展示した火打石は、サヌカイト製である。田原本町内の遺跡では、これまでにも多くの火打石が出土しており、大半がこのサヌカイト製である。これら火打石は、大きさが５～８㎝前後の大きさで、側辺が打撃によって潰れているという特徴をもっている。

町内において、最初に火打石を確認したのは小阪里中遺跡である。この遺跡の調査では、古墳と中近世の在地豪族の館跡の大溝等を検出しており、弥生時代でないところからサヌカイト石器が出土した。本来なら、弥生石器の混在と判断するところであったが、側辺の潰れ状態から、近世の火打石と結論づけられたものである。田原本町内においては、唐古・鍵遺跡を初めとする弥生遺跡が多くあり、これら遺跡から採集された弥生石器を近世の人たちは、火打石に転用したと考えられるのである。

【田原本ギャラリー展示品】

展示名		展示品	展　示　期　間
第９回	田下駄	田下駄（足板、枠）	平成 27 年３月～平成 28 年 10 月
第 10 回	火打石 ～弥生石器の再利用～	火打石	平成 28 年 10 月～

これら展示品の解説パネルは、唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページでPDFファイルとして公開し、バックナンバーも同じページで公開している。



【火打石～弥生石器の再利用～】

【第10回　火打石～弥生石器の再利用～】

器　　種	火打石
登録番号	KRK-064-00005S・8S・ 9S・11S・12S KRK-074-00096S
出土遺跡	唐古・鍵遺跡
調査次数	第 64・74 次調査
法　　量 （最大のもの）	長　6.8 ㎝ 幅　8.4 ㎝
石　　種	サヌカイト
時　　代	近世

２．企画展・ミニ展示

（１）春季企画展「たわらもと2015発掘速報展」

内　容：奈良盆地中央の肥沃な沖積平野に位置する田原本町では、弥生時代のはじめ、稲作の伝来とともに耕地開発が始まった。2013・2014年度の調査成果を中心に、集落を営んできた人々が大地に刻んできた痕跡を探った。

期　間：４月18日（土）～５月24日（日）

入館者：661名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数234点）

（Ⅰ）農耕文化の到来と集落の形成（ケース①）

弥生土器、石器（十六面・薬王寺遺跡）

（Ⅱ）弥生時代の墓域と集落の維持管理（ケース②～④）

弥生土器、石器、動物骨、植物遺存体ほか（唐古・鍵遺跡）、弥生土器（佐味遺跡）

（Ⅲ）古墳時代の集落とその変遷（ケース⑤～⑩）

土師器、須恵器、韓式系土器、石器、鏡形石製品、又鍬、袋状鉄斧、銅鏃、小型銅鏡、砥石、玉類製作関連遺物（十六面・薬王寺遺跡）

（Ⅳ）羽子田古墳群のその後（ケース⑪）

須恵器三耳壷（羽子田遺跡）

（Ⅴ）倭屯倉の管理？（ケース⑫）

土師器、緡銭ほか（十六面・薬王寺遺跡）

（Ⅵ）小室環濠集落に関わる濠跡？（ケース⑬）

土師器羽釜（羽子田遺跡）

（Ⅶ）幻の佐味城？（ケース⑬）

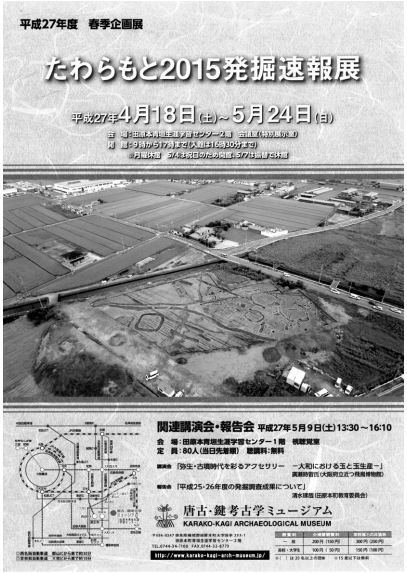
土師器羽釜、瓦器椀ほか（佐味遺跡）

（Ⅷ）羽子田遺跡の瓦づくり（ケース⑭）

瓦（羽子田遺跡）

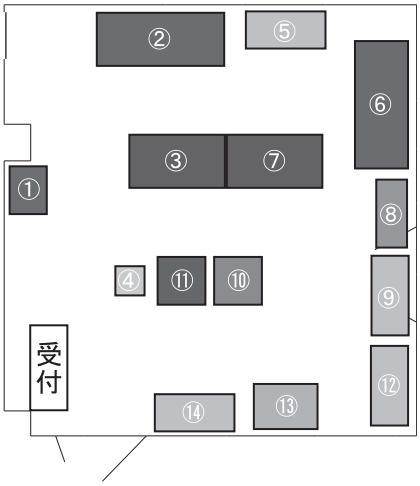
（Ⅸ）津島神社本殿の調査（ケース⑭）

土師器灯明皿、陶磁器（寺内町遺跡）



春季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

【田原本町保管遺物】

遺 跡 名		遺 物 名	点 数
唐古・鍵遺跡	第115次	弥生土器（甕・壷・高坏）・石器（打製石剣・石製投弾・石鏃・石錐等）・玉（管玉）・動物骨・植物遺存体（種子・葉等）	62点
十六面・薬王寺遺跡	第30次	木製品（斎串）	134点
	第31次	弥生土器（壷・甕・器台）・土師器（甕・壷・高坏等）・須恵器（壷・有蓋坏等）・石器（石杵・砥石・石庖丁等）・木製品（又鍬）・金属器（袋状鉄斧・銅鏃・緡銭等）・玉（勾玉・管玉・ガラス玉等）	
羽子田遺跡	第38次	土師器（釜）・須恵器（三耳壷）・瓦	６点
佐味遺跡	第２次	弥生土器（壷・甕）・土師器（羽釜等）・瓦器（埦）	13点
寺内町遺跡	第15次	土師器（灯明皿）・陶磁器（皿・碗等）	22点
５遺跡		製品数	234点

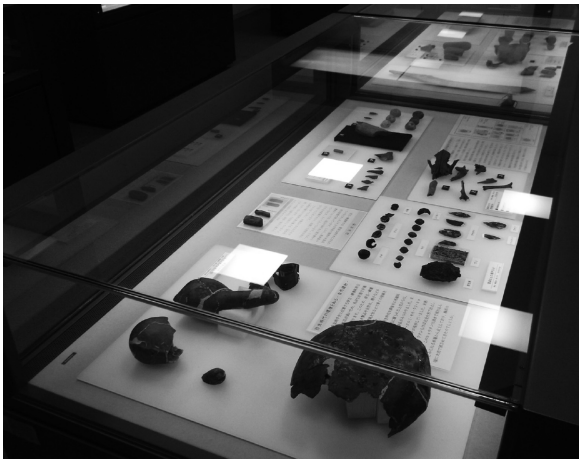
【関連イベント】

イベント名	内　　容	日時・場所	参加人数
講演会	廣瀬　時習 氏（大阪府立近つ飛鳥博物館　総括学芸員） 「弥生・古墳時代を彩るアクセサリー　－大和における玉と玉生産－」	５月９日（土） 午後１時 30 分～４時 公民館視聴覚室	71 人
報告会	清水　琢哉（田原本町教育委員会事務局文化財保存課 調査係長） 「平成 25・26 年度の発掘調査成果について」		

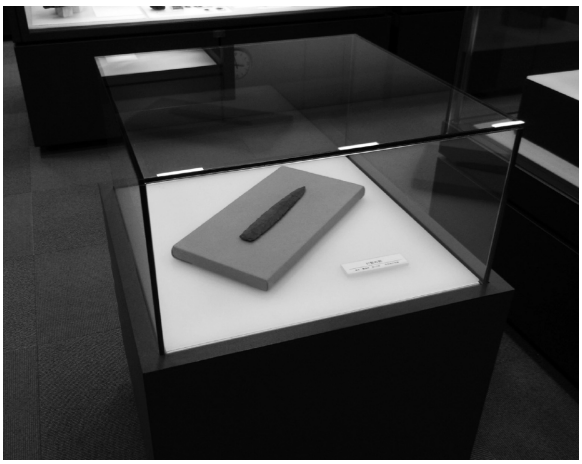
５月９日におこなわれた講演会では、弥生時代・古墳時代の近畿を中心とした玉の生産や流通について、大阪府立近つ飛鳥博物館の廣瀬時習氏を招いて講演をしていただいた。

廣瀬氏の講演では、弥生時代の玉生産の特徴として、玉となる原石の産出する地域である日本海側の山陰や北陸に生産地が偏っている事実を述べられ、玉生産と製品、流通と使用形態から９つの地域性と５つの大きな枠組みを想定された。また、近畿の玉生産に関して、十六面・薬王寺遺跡が大和ではもっとも遡る時期の生産集落であった可能性についても述べられた。

展示ケース②

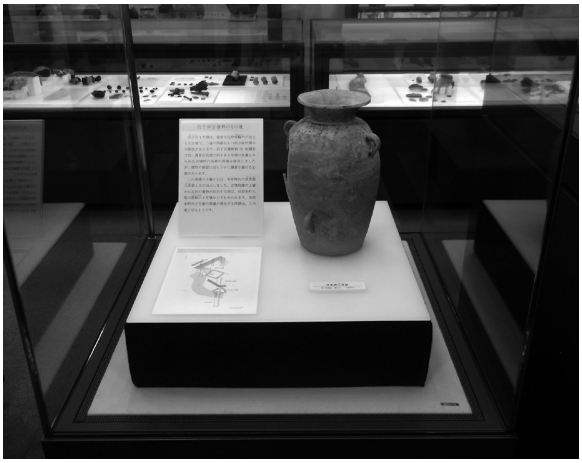


展示ケース③



展示ケース④

展示ケース⑧



展示ケース⑪

講演会（廣瀬時習 氏）

（２）秋季企画展「弥生遺産Ⅲ～唐古・鍵遺跡の石器～」

内　容：唐古・鍵遺跡からは打製、磨製または無加工の礫を利用したものなど、多量の石器が出土する。これら石器は、当時の人々の石に対する深い知識と高い加工技術を私たちに伝え、その石材の産地を追うことで弥生時代の人やモノの移動がみえてくる。今回の企画展では、主に製作方法と使用法の視点から唐古・鍵遺跡の石器を展示した。

期　間：10月30日（金）～12月６日（日）

入館者：910名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数456点）

（Ⅰ）石器をつくる（ケース①～③・⑤）

サヌカイト原石、石核、剥片、鹿角ハンマー、流紋岩原石、石庖丁製作工程（流紋岩、結晶片岩）

（Ⅱ）打製石器・磨製石器の製品（ケース④・⑥）

石鏃、石錐、スクレイパー、石小刀、石匙、流紋岩製石庖丁、結晶片岩製石庖丁、紡錘車ほか

（Ⅲ）武器（ケース⑦・⑭）

打製石剣、磨製石剣、石戈、磨製石鏃、石弾

（Ⅳ）工具・農具・調理具（ケース⑧～⑩）

太型蛤刃石斧、柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石鍬、打製石庖丁、敲石、磨石、凹石、石皿ほか

（Ⅴ）その他生産具（ケース⑪・⑫）

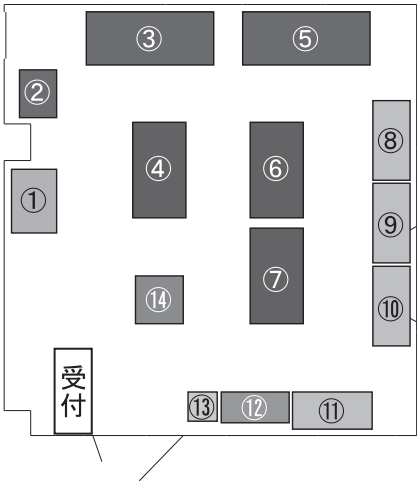
砥石、赤色顔料粉砕具、玉用砥石、石鋸、玉用石錐

（Ⅵ）縄文時代からの伝統的な石器（ケース⑬）

環状石斧、多頭石斧、穿孔具、独鈷石、石棒、石鎌の柄？

秋季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

【田原本町保管遺物】

打製石器			磨製石器			礫石器		その他	
サヌカイト	原石	5	流紋岩	原石	2	石弾	12	鹿角ハンマー	1
	石核	6		石庖丁未成品	7	石錘	1	打製石剣の鞘	1
	剝片	12		石庖丁	6	石槌	4		
	失敗品	2	結晶片岩	石庖丁未成品	11	敲石	2		
	平基式石鏃	12		石庖丁	28	磨石	4		
	凹基式石鏃	25	粘板岩	石庖丁	5	凹石	4		
	凸基式石鏃	42	安山岩	石庖丁	1	石皿	1		
	有茎式石鏃	45	大型石庖丁		1	砥石	26		
	石錐	22	小型石庖丁		3	赤色顔料粉砕具	8		
	スクレイパー	6	石庖丁転用紡錘車		8	玉用砥石	7		
	石小刀	8	紡錘車未成品		1				
	石匙	5	円板		2				
	スリキリナイフ	6	石戈		2				
	打製石剣	24	磨製石剣		11				
チャート	石錐	1	磨製石鏃		3				
石戈		3	太型蛤刃石斧		6				
石鍬		6	太型蛤刃石斧転用敲石		3				
打製石庖丁		2	柱状片刃石斧		12				
			扁平片刃石斧		17				
			横刃形石器		3				
			石鋸		10				
			玉用石錐		2				
			環状石斧		3				
			多頭石斧		1				
			穿孔具		2				
			石棒		1				
			独鈷石		1				
			石鎌の柄？		1				

計　456点

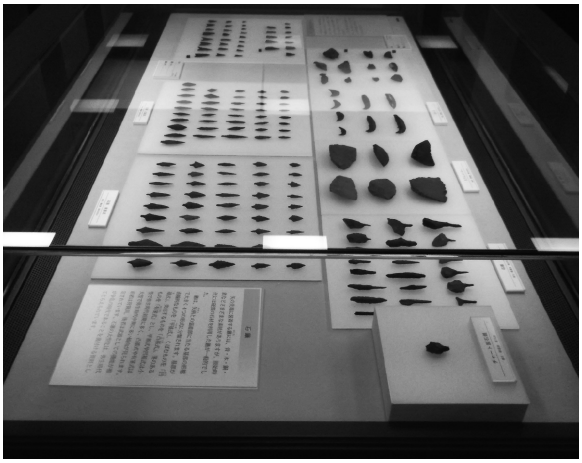
【関連イベント】

イベント名	内　　容	日時・場所	参加人数
講演会	寺前　直人 氏（駒澤大学　文学部准教授） 「唐古・鍵遺跡の石器にみる弥生社会の伝統と革新」	11 月 7 日（土） 午後 2 時～ 3 時 30 分 公民館視聴覚室	45 人

11月７日におこなわれた講演会では、「唐古・鍵遺跡の石器にみる弥生社会の伝統と革新」という題目で、駒澤大学文学部の准教授である寺前直人氏を招いて講演をしていただいた。

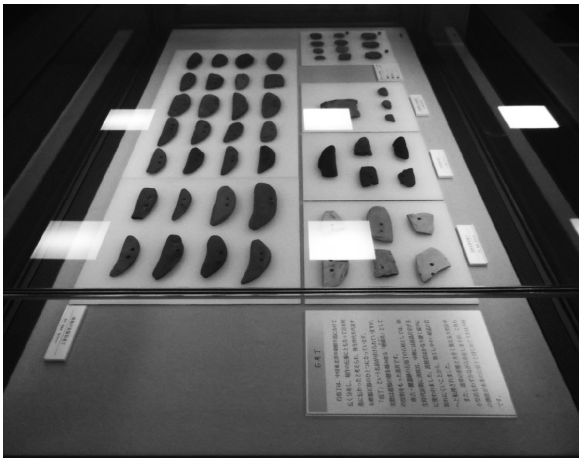
講演ではまず、唐古・鍵遺跡を中心に、弥生時代を対象とした考古学の研究史を紹介された。また、朝鮮半島との関連が指摘される大陸系磨製石器のひとつである磨製短剣をとりあげられ、その形状の変遷と日本での出土分布の特徴について述べられた。その他に、石戈にみられる抉りの部分が、着柄時に戈身を固定するための目釘を挿入するためのものであること、その根拠となったものが唐古・鍵遺跡から出土した石戈とその柄であったことなどを述べられた。

展示ケース③



展示ケース④

展示ケース⑤



展示ケース⑥

展示ケース⑭

講演会（寺前直人 氏）

（３）特別展示「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」

内　容：田原本町内の各小学校において、総合的な学習の時間を利用した土器づくりや赤米炊飯をはじめとする体験学習を実施している。今年度の学習成果である土器や勾玉をはじめ、児童らの感想文等を展示陳列した。

期　間：２月５日（金）～２月10日（水）

観覧者：267名（特別展示のみ）

【展示構成と内容】（展示期間：５日間／展示点数532点）

（Ⅰ）北小学校

土器、勾玉、感想文、写真

（Ⅱ）平野小学校

土器、勾玉、感想文、貫頭衣

（Ⅲ）田原本小学校

勾玉、感想文

（Ⅳ）南小学校

勾玉、感想文

（Ⅴ）東小学校

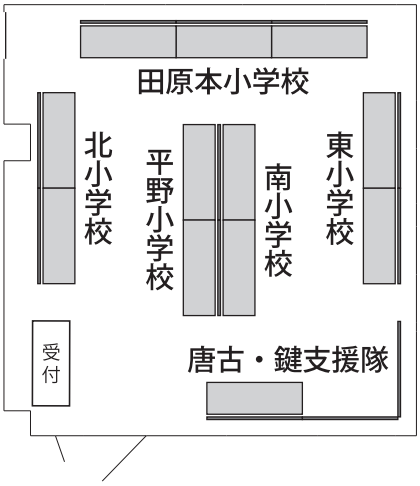
土器、勾玉、感想文

（Ⅵ）唐古・鍵支援隊

鞴、青銅器鋳造関連土製品、莚、土器（野焼き）、土器（電気釜）、火鑽杵（舞錐）、火鑽臼、炊飯用甕、石庖丁、弓、矢、木製臼、竪杵、感想文集

特別展示チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

（４）ミニ展示「綱にかける想い～田原本町大字矢部の「綱掛」～」

内　容：平成27年度に、矢部の「綱掛」が田原本町指定文化財（無形民俗文化財）となった事を受け、その周知と、「綱掛」の様子や歴史から過去の人々の「想い」を感じていただくため、写真パネルや行事に用いる道具類などの展示をおこなった。

期　　間：２月13日（土）～２月28日（日）

展示会場：田原本町立図書館 情報コーナー（田原本町立青垣生涯学習センター）

【出品目録】

展示分類	品　名	所蔵者	備考
写真パネル	前年に掛けた綱	田原本町	
	今年掛ける綱の製作	田原本町	
	版画の製作	田原本町	
	ミニチュア鋤鍬の製作	田原本町	
	綱をもってねり歩く	田原本町	
	綱を掛け渡す	田原本町	
	焼香	田原本町	
	綱掛直後の綱	田原本町	
展示ケース	『綱掛講規定録』	個人蔵	明治 44 年 （昭和 40 年以降の写本）
	ミニチュア鋤	田原本町	
	ミニチュア鍬	田原本町	
	ミニチュア馬鍬	矢部自治会	
	ミニチュア唐鋤	矢部自治会	
	牛の版画	田原本町	
	牛の版木	矢部自治会	
	綱の先頭につけるカゴ	矢部自治会	

3．入館者・ホームページ

（1）入館者数

平成27年度の入館者数は、8,133人である。前年度に比べると約10％減少した。

本年度の総入館者数に対する団体の割合は、約13.6％で増加した。

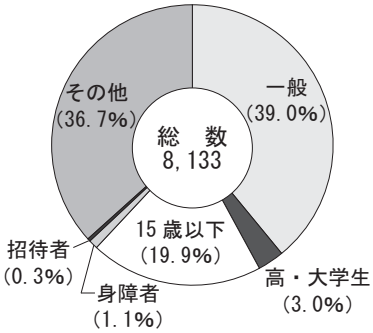
無料入館日の入館者は、５月５日（土・祝）のこどもの日（親子・保護者を対象）12名、夏季節電対策無料入館期間（８月１日～30日）1,051名、関西文化の日の11月21日（土）149名・22日（日）120名の計269名である。

【月別入館者数】

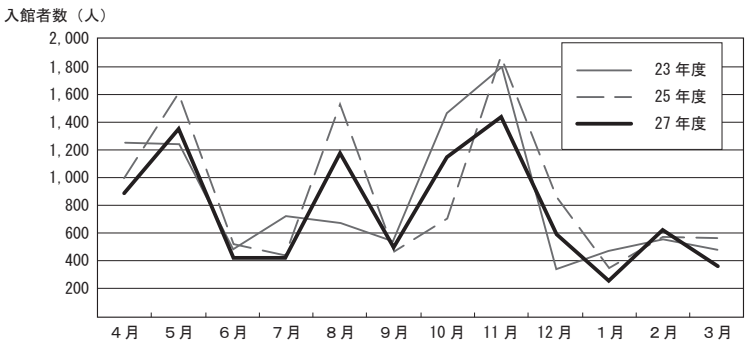
月	開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計
		一　般	高・大学生	15 歳以下	身障者	招待者	その他	
４月	26	439（72）	31（0）	154　（0）	15	0	151	790　（72）
５月	27	667（48）	33（0）	338（206）	19	0	145	1,202　（254）
６月	25	186（43）	10（0）	88（29）	4	0	85	373　（72）
７月	27	102　（0）	11（0）	146（58）	3	2	103	367　（58）
８月	26	0　（0）	0（0）	328（149）	0	0	723	1,051　（149）
９月	26	287（76）	20（0）	44　（0）	4	2	73	430　（76）
10 月	27	257（47）	7（0）	88　（0）	2	0	671	1,025　（47）
11 月	25	366（47）	42（0）	125　（0）	15	22	712	1,282　（47）
12 月	24	302（67）	10（0）	123（98）	10	0	84	529　（165）
１月	24	112（22）	4（0）	41　（0）	2	0	61	220　（22）
２月	24	311（82）	75（63）	71　（0）	5	0	87	549　（145）
３月	27	146　（0）	4（0）	72　（0）	7	0	86	315　（0）
合計	308	3,175（504）	247（63）	1,618（540）	86	26	2,981	8,133（1,107）

※１　（　）は団体入館者の人数（内数）。
※２　その他は、研修での利用（減免）・ボランティア研修等の来館者。
※３　８月１日～８月 31 日は夏季節電対策無料期間となるため、「15 歳以下」以外は「その他」に含む。

【入館者の内訳】



【入館者の月別推移】



【年度別入館者推移】

年　度	開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計
		一　般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
16年度	103	1,744　(209)	131　(0)	1,345　(65)	42	251	1,083	4,596　(274)
17年度	306	4,988　(1,423)	401　(20)	3,060　(229)	174	357	3,040	12,020　(1,672)
18年度	306	2,962　(785)	911　(650)	3,138　(333)	105	233	3,879	11,228　(1,768)
19年度	306	3,760　(932)	483　(174)	2,933　(531)	102	186	4,963	12,427　(1,637)
20年度	307	3,473　(1,148)	567　(253)	2,790　(359)	92	216	2,079	9,217　(1,760)
21年度	307	4,204　(1,599)	585　(311)	2,123　(258)	111	264	2,347	9,634　(2,168)
22年度	306	3,621　(1,151)	744　(430)	1,584　(213)	74	71	2,681	8,775　(1,794)
23年度	307	3,999　(1,245)	400　(236)	1,873　(300)	87	53	2,487	8,899　(1,781)
24年度	306	3,239　(1,014)	174　(61)	1,933　(543)	64	23	3,416	8,849　(1,618)
25年度	306	3,192　(739)	283　(87)	1,841　(461)	69	16	3,915	9,316　(1,287)
26年度	306	3,000　(569)	263　(83)	1,463　(282)	85	17	4,288	9,116　(934)
27年度	308	3,175　(504)	247　(63)	1,618　(540)	86	26	2,981	8,133　(1,107)
累　計	3,474	41,375　(11,318)	5,189　(2,368)	25,701　(4,114)	1,091	1,713	37,159	112,210　(17,800)

※　16年度は、11月24日から3月31日まで延べ103日間の入館者数。

【企画展　入館者数】

		開館日数	有料入館者		無料入館者				合計
			一般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
17年度	春季	32	733　(211)	43　(0)	222　(0)	15	77	298	1,388　(211)
	秋季	32	349　(25)	31　(0)	104　(0)	5	42	449	980　(25)
18年度	春季	32	340　(52)	65　(41)	205　(32)	10	30	140	790　(125)
	秋季	32	0　(0)	0　(0)	217　(0)	0	0	1,628	1,845　(0)
19年度	春季	32	332　(54)	21　(0)	331(223)	9	15	140	848　(277)
	秋季	32	0　(0)	0　(0)	169　(0)	0	47	2,373	2,589　(0)
20年度	春季	32	303　(28)	15　(0)	163　(63)	7	38	178	704　(91)
	秋季	32	231　(0)	44　(0)	93　(0)	5	33	265	671　(0)
21年度	春季	32	442　(186)	20　(0)	142　(46)	9	46	132	791　(232)
	秋季	32	388　(147)	16　(0)	105　(0)	21	21	430	981　(147)
22年度	秋季	44	485　(86)	164　(92)	95　(0)	11	10	542	1,307　(178)
23年度	春季	32	478　(50)	12　(0)	150　(33)	16	15	118	789　(83)
	秋季	32	557　(276)	7　(0)	165　(45)	8	10	391	1,138　(321)
24年度	春季	32	420　(74)	16　(0)	93　(0)	8	10	102	649　(74)
25年度	春季	32	0　(0)	0　(0)	140　(44)	0	0	804	944　(44)
	秋季	33	463　(39)	26　(0)	50　(9)	13	7	424	983　(48)
26年度	秋季	44	580　(54)	27　(0)	139　(0)	21	11	1,156	1,934　(54)
27年度	春季	32	432　(0)	27　(0)	99　(5)	19	0	89	666　(5)
	秋季	33	210　(0)	24　(0)	66　(0)	10	11	589	910　(0)
合計		634	6,743(1,282)	558(133)	2,748(500)	187	423	10,248	20,907(1,915)

※1　(　) は団体入館者の数（内数）、18年度・19年度の秋季企画展、及び25年度の春季企画展は無料の為、団体人数はカウントしていない。

※2　本表「無料入館者　その他」は、「親子無料入館日」・「関西文化の日」の無料入館者を含む。また、18年度・19年度の秋季企画展は、文化庁の「埋蔵文化財保存活用整備事業」の為、無料とし、本項に含めた。

（2）夏季節電対策無料入館

夏季の節電対策として、家庭での冷房を控え唐古・鍵考古学ミュージアムで文化財に親しみながら涼を得る事業を実施し、８月１日（土）～８月30日（日）の期間を入館無料とした。この期間の入館者数は1,051名であり、前年度の同期間と比較して約21％減少した。

夏季無料入館チラシ

その内訳を地域別にみると、近畿地方からの来館者が全体の90％と大部分を占める。また、近畿地方の内訳は、奈良県内在住者が88％であり、これは全国の内訳でも78％を占める数である。奈良県内を中心に広報活動をおこなったこと、ミュージアムとの距離が近いことが要因と考えられる。

奈良県内の内訳では、田原本町在住者が４割以上を占める。県内の年代別入館者数では、15歳以下が23％、60歳以上が19％を占めている。夏休み期間からか、子どもたちとその祖父母にあたる年代の来館が多く見られた。

また、同時に実施していたアンケートでは、通りがかりに立ち寄った入館者が多く、弥生時代の様々な出土品を知ることができて良かった、もっと積極的にアピールするべきだと思うという意見も寄せられた。全体の入館者が減少していること、来館者のほとんどが奈良県内在住であることからも、県外に向けたアピールが必要になっていると思われる。

【夏季節電対策無料期間　年代別入館者数】

	15歳以下	高・大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	その他	合計
８月１～30 日	177	192	6	46	74	99	100	149	79	36	93	1,051

※　10 代は、15 歳以下及び高・大学生以外で 16 ～ 19 歳の入館者数。
※　その他は、無回答など。

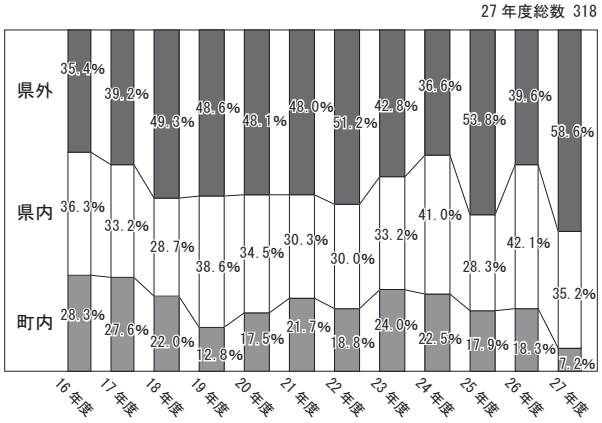
【夏季節電対策無料期間入館者　居住地内訳　奈良県】

田原本町	奈良市	天理市	橿原市	香芝市	桜井市	生駒市	大和郡山市	川西町
44.8%	11.0%	7.5%	7.2%	5.9%	4.4%	3.1%	2.6%	2.0%
宇陀市	三宅町	広陵町	大和高田市	河合町	御所市	平群町	明日香村	王寺町
1.5%	1.5%	1.5%	1.1%	1.1%	0.7%	0.7%	0.5%	0.3%
吉野町	大淀町	三郷町	五條市	葛城市	上牧町	天川村		
0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%		

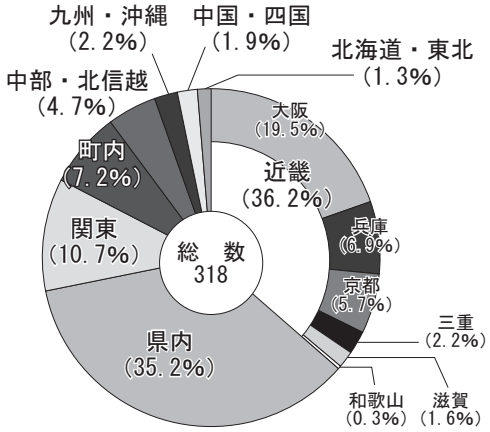
（３）入館者アンケート

入館者アンケート（常設展示）を実施した。回答総数318件、回答率約４％である。

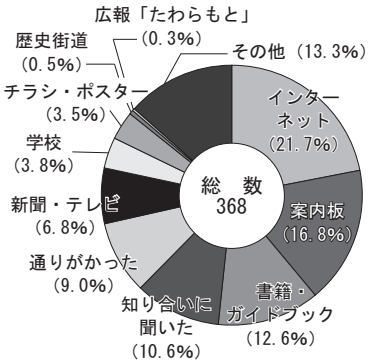
【入館者居住地別　年度推移】



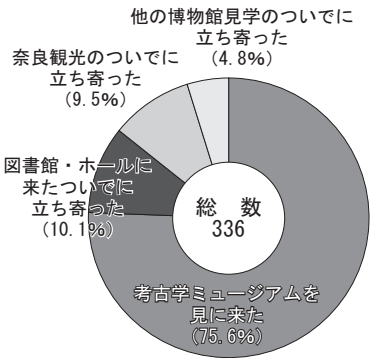
【入館者の居住地内訳】



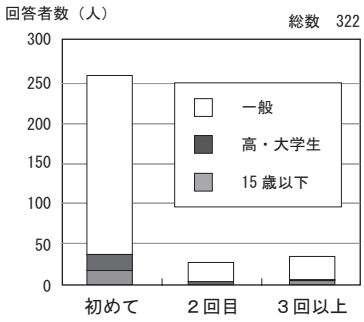
【ミュージアムを知った理由】



【来館目的】



【来館回数】



（４）視察・研修・学校等からの来館

平成27年度は、下記のとおり視察・研修５件101名、学校の利用13校543名の来館があった。

視察・研修　田原本町新規採用者研修（４月２日／10名）、奈良県歴史学会（５月29日／15名）、奈良町ＡＬＴ（９月16日／１名）、田原本町健康福祉課　要約筆記講座（10月16日／20名）、桜井市「日本のはじまり・源流シンポジウム」（10月12日／55名）

学校利用　田原本町立北小学校６年生（５月１日／40名）、生駒市立生駒南第二小学校（５月12日／51名）、曽爾村立曽爾小学校６年生（５月19日／７名）、田原本町立田原本小学校６年生（５月21日／109名）、天理大学（６月14日／10名）田原本町立東小学校６年生（7月２日／14名）、明治大学（８月６日／11名）、奈良大学通信教育（８月８日・８月29日・２月13日・２月27日／175名）、奈良教育大学（10月22日・10月23日／５名）、田原本町立田原本中学校２年生（11月６日／３名）、田原本町立北中学校２年生（11月12日／２名）、花園大学（11月29日／13名）、田原本町立田原本小学校２年生（12月３日／103名）

（5）ホームページ

企画展や講演会などのお知らせを随時ホームページ上に掲載した。

平成27年度のアクセス数は15,964件で、前年度より約１％減少した。

【ホームページのアクセス数】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
アクセス数	2,518	8,324	8,183	10,291	9,391	11,303	12,665	13,385	16,247	17,176	16,063	15,964
累　計	2,518	10,842	19,025	29,316	38,707	50,010	62,675	76,060	92,307	109,483	125,546	141,510

４．ボランティア

（1）ボランティアガイドの実績

ミュージアムの展示品解説ボランティアは、開館以来実施している。ガイドは年度単位とし、継続更新は可としている。平成27年度のガイド登録は34名で、27年度の新規登録者は１名である。基本的に月２回の午前10時から午後４時（冬季の12月～２月は午前10時30分から午後３時30分）までとし、常駐２人体制で実施した。また、団体客等多数の来館の場合に備えて、応援ガイド体制を作りその時間帯のみ臨時に対応している。このような体制で、下表実績に示すとおり約３割の来館者に対応した。ガイドの研修は、新規登録者を対象に個別に実施した。

【展示ボランティアガイド実績】

月	開館日数	稼動人数	ガイド人数※1	入館者数（常設展のみ）
４月	26	46人	215人	511人
５月	27	46人	197人	815人
６月	25	41人	145人	373人
７月	27	41人	84人	367人
８月	26	40人	150人	1,051人
９月	26	44人	208人	430人
10月	27	45人	316人	757人
11月	25	32人	139人	721人
12月	24	37人	100人	448人
１月	24	36人	66人	220人
２月	24	41人	215人	549人
３月	27	41人	101人	315人
合　計	308	490人	1,936人（29.5%）※2	6,557人

※１　ガイド人数は概数
※２　ガイド人数／入館者の割合

（2）企画展受付ボランティア

春季と秋季の企画展開催にあたり、受付ボランティアを募集した。春季企画展は32日間の会期中に延べ60名、秋季企画展は33日間の会期中に延べ61名が活躍した。

Ⅳ．資料の報告

唐古・鍵遺跡における弥生時代前期の魚類遺存体

東海大学海洋学部
丸山　真史
田原本町教育委員会事務局文化財保存課
藤田　三郎

１．はじめに

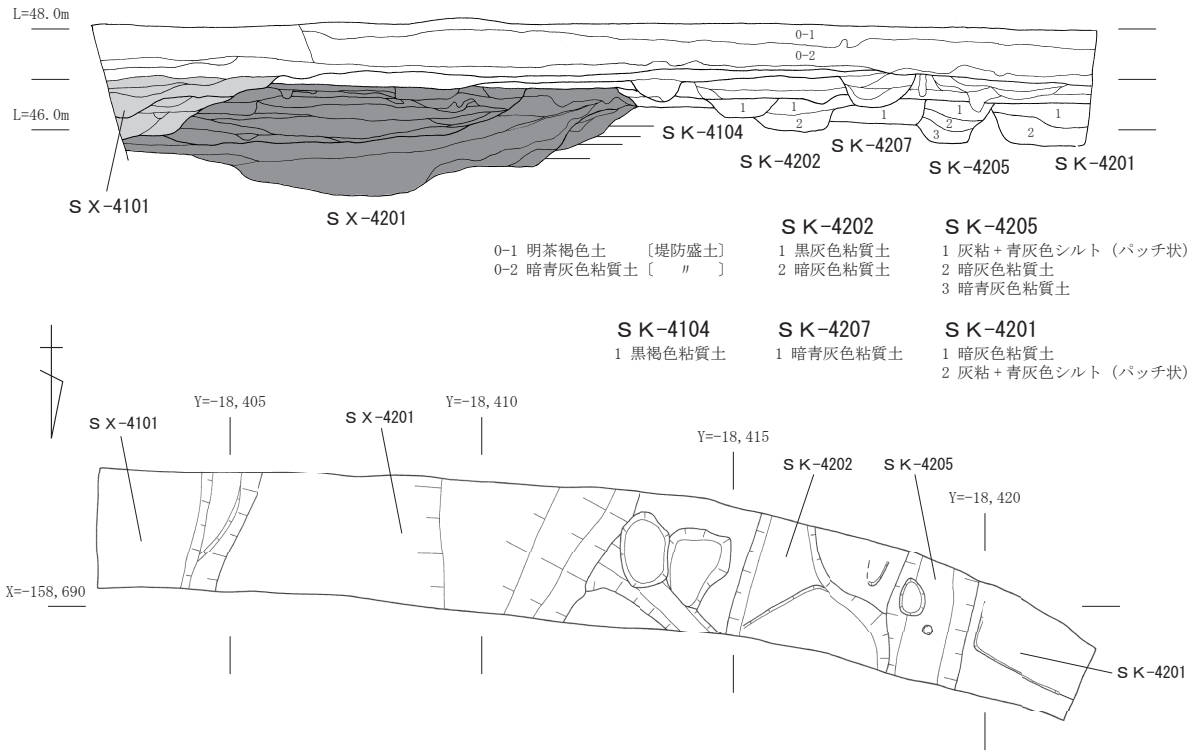
唐古・鍵遺跡は、1937年の唐古池の工事に伴う発掘調査によって動物遺存体が出土しているのをはじめとして[1]、その後の調査でも、低湿地部から数多くの動物遺存体が出土している。動物考古学的視点からも、弥生時代の拠点集落における動物利用の実態を知ることができる遺跡として貴重である。

これまでに唐古・鍵遺跡の弥生時代中期中葉および後期初頭の遺構から出土した魚類遺存体について、報告をおこなってきた[3・4]。いずれの時期も淡水魚が多く、その大部分はナマズ、コイ、フナ、ドジョウ科といった魚種で、水田および灌漑施設などにおける内水面漁労が盛んにおこなわれた可能性を示す。また、アユやウグイなどが出土しており、河川中流域での漁労が推測される。このような淡水漁撈を示す魚種構成は、内陸に位置する唐古・鍵遺跡の立地環境と合致している。また、弥生時代中期・後期ともに一定量の海水魚が出土しており、沿岸部との交流を明らかにする資料として注目される。

今回は、弥生時代中期中葉および後期初頭の魚類利用の比較を目的として、弥生時代前期から中期初頭の遺構から出土した魚類遺存体について、種類や部位などの同定結果を記載し、唐古・鍵遺跡における魚類利用について若干の考察をおこなう。

第１表　種名表

- 脊椎動物門　Vertebrata
  - 軟骨魚綱　Chondrichthyes
    - 板鰓亜綱の一種　Elasmobranchii, order, fam., gen. et sp. indet.
  - 硬骨魚綱　Osteichthyes
    - コイ目　Cyprinida
      - コイ科　Cyprinidae
        - コイ　*Cyprininus carpio*
        - フナ属の一種　*Carussius* sp.
        - ウグイ　*Tribolodon hakonensis*
        - コイ科の一種　*Cyprinidae* gen. et sp. indet.
    - ナマズ目　Siluriformes
      - ナマズ科　Siluridae
        - ナマズ　*Silurus asotus*
      - ギギ科　Bagridae
        - ギギ　*Pelteobagrus nudiceps*
    - サケ目　Salmoniformes
      - アユ科　Plecoglossidae
        - アユ　*Plecoglossus altivelis*
    - ボラ目　Mugiliformes
      - ボラ科　Mugilidae
        - ボラ科の一種　Mugilidae gen. et sp. indet.
    - スズキ目　Percidae
      - タイ科　Sparidae
        - マダイ　*Pagrus major*
        - タイ科の一種　Sparidae gen. et sp. indet.



第１図　第37次調査 第４トレンチ 平面図および南壁断面図（Ｓ＝1/150）

２．資料の概要

弥生時代前期から中期初頭までの遺構から出土した魚類遺存体として、第37次調査の土坑**ＳＫ-2201**（大和第Ⅰ-1様式）、**ＳＫ-2204**（大和第Ⅱ-1様式）、**ＳＫ-2211**（大和第Ⅰ様式）、**ＳＫ-4202**（大和第Ⅱ-1様式？）、**ＳＫ-4205**（大和第Ⅱ-1様式）、**ＳＫ-4207**（大和第Ⅰ-1-b～Ⅰ-2-b様式）、大溝**ＳＤ-2201Ｂ・ＳＤ-2201**（第４・５層：大和第Ⅰ-2-ｂ様式、第２・３層：大和第Ⅱ-1様式、第１層：大和第Ⅱ-1・Ⅱ-2様式）、**ＳＤ-2202Ｂ・ＳＤ-2202**（第５～８層：大和第Ⅰ-1-b様式、第７（下）・３（下）層：大和第Ⅰ-2-a様式、第１・２層：大和第Ⅱ-2～Ⅱ-3様式）、第53次調査の落ち込み**ＳＲ-101Ａ**（大和第Ⅱ-1・Ⅱ-3・Ⅲ-1様式）から出土したものを同定した。

第37次調査の位置等については、『田原本町文化財調査年報20』(3) において同様の魚類遺存体の報告において記述したので参照されたい。ここでは本報告に関わる諸遺構について概略を記する。大溝ＳＤ-2201ＢとＳＤ-2201、ＳＤ-2202ＢとＳＤ-2202はいずれもＢの溝が再掘削されたものある。この２条の大溝は、唐古池西岸ほぼ中央に位置し、東西方向に走行するものである。時期的に整理すると、ＳＤ-2202Ｂが掘削され埋没した後、その北30mにＳＤ-2201Ｂが掘削され、また、埋没後にＳＤ-2202が再掘削される。このことから、これら大溝は、同時開口でなく、時期によりその役目が移動したと推定される。いずれにしてもこれら大溝の北側では前期の遺構は顕著でないことから、西地区北部の北端を区画する大溝と考えられる。このことからこれら２条の大溝は環濠としての性格が想定され、それらより南部に位置するＳＫ-2201からＳＫ-4207（2000番台は第２トレンチ・4000番台は第４トレンチ）までの遺構は、居住区内の遺構になる（第１図）。周辺調査の類例からこれら遺構の多くは、木器貯蔵穴等が想定される。ただし、ＳＫ-4207ではナマズの全身骨格がわかるものが集中して発掘時にみつかっており、木器貯蔵穴が機能喪失後に生け簀のような状態にして使用されていた可能性もある。ＳＫ-4207は、遺構の切り合い関係が激しく、平面プランは確認できないが方形プラン

（一辺1.8m以上か）を呈すると思われる。また、土坑の上部も削平を受けており、深さは0.5mしか残存していない。土坑の堆積土は、暗青灰色粘質土の単一層である。遺物は土器が僅かに出土している程度で、木製品や獣骨等有機質的なものが多く含まれる土坑とは様相が大きく異なる。この第４トレンチの東半は、北地区と西地区の界を北流する形で流路（第１次南方砂層・第37次ＳＸ-4201）が北流しており、これら土坑はそのほとりにあることからこのような環境が関係していたかもしれない。

魚類遺存体は、破片数にして総数70点を対象とし、種類や部位などが同定できたものは55点であった（第１・２表）。これまでに報告した中期中葉の井戸ＳＫ-2130（第37次）・後期初頭の井戸ＳＫ-2013（第37次）、井戸ＳＫ-104（第51次）では、各遺構で100点以上の魚類遺存体が出土しているが、前期から中期初頭までの各遺構で100点を超える出土量は見られない。なお、ＳＫ-2211とＳＫ-4202から魚骨１点ずつ出土しているが、いずれも種類は判明しなかったため、これらについて下記の遺構別の記載では省略する。

３．遺構別出土魚類の記載

（１）第37次調査

ＳＫ-2201（大和第Ⅰ-1様式：弥生時代前期前半）

ナマズが最も多く、胸鰭棘(左１右３不明１）５点、擬鎖骨(左２右１）３点など計15点が出土している。椎骨のうち１点は、被熱して白色を呈する。大きさは、４点は体長20～30cm、２点は20cm程度、９点はそれより小型と推定される。コイの前鰓蓋骨（左)、主鰓蓋骨（右）が１点ずつ、計２点が出土しており、体長20cm程度の個体と推定される。ウグイ属の咽頭骨（左１右１）２点が出土しており、１点は体長20～30cm、もう１点は20cm以下と推定される。フナ属の椎骨１点が出土しており、大きさは20cm以下と推定される。コイ、ウグイ属、フナ属を含むコイ科の椎骨２点、神経頭蓋の一部１点、鰭棘２点、計５点が出土している。椎骨のうち１点は、被熱して白色を呈する。アユの椎骨が２点出土しており、大きさは体長20cm以下である。いずれも第４層からの出土である（第２表)。

ＳＫ-2204（大和第Ⅱ-1様式：弥生時代中期初頭）

ナマズの椎骨と胸鰭棘が１点ずつ、計２点が出土しており、大きさはいずれも体長20cm以下の小型個体である。コイ科の椎骨、アユの椎骨、マダイの主上顎骨（左）が１点ずつ出土している。アユは体長10～20cm、コイ科は20～30cm、マダイは40～50cmと推定される。いずれも第３層からの出土である（第２表)。

ＳＫ-4205（大和第Ⅱ-1様式？：弥生時代中期初頭？）

ナマズの椎骨８点、基後頭骨などが１点ずつ、計15点出土している。大きさは体長20cm程度と20～30cmの個体が約半数ずつである。いずれも第１層からの出土である（第２表)。

ＳＫ-4207（大和第Ⅰ-1-b～Ⅰ-2-a様式：弥生時代前期）

ナマズの椎骨40点、神経頭蓋３点など、計56点が出土している。大きさは体長20cm程度、あるいはそれ以下の小型個体が多く、体長20～30cmも含まれる。いずれも灰青色粘土層からの出土である（第２表)。

ＳＤ-2201（大和第Ⅰ-2-b～Ⅱ-1様式：弥生時代前期後半～中期初頭）

ナマズの胸鰭棘（右)、椎骨が２点ずつ、前上顎骨（左）１点、計５点が出土している。大きさ

第２表　遺構・層位別集計表

遺構	層位	時期	小分類	部位	左	右	－	計
ＳＫ-2201	第４層	第Ⅰ-1様式	コイ	主鰓蓋骨	1			1
				前鰓蓋骨	1			1
			フナ属	椎骨			1	1
			ウグイ	咽頭骨	1	1		2
			コイ科	椎骨			2	2
				神経頭蓋の一部			1	1
				臀鰭棘？			2	2
			コイ科？	椎骨			1	1
			ナマズ	擬鎖骨	2	1		3
				方骨		1		1
				椎骨			4	4
				胸鰭棘	1	3	1	5
				角骨	1			1
				部位名？	1			1
			ナマズ？	椎骨			1	1
			アユ	椎骨			2	2
			不明	不明			1	1
				椎骨			3	3
ＳＫ-4207	灰青色粘土	第Ⅰ-1-b～Ⅰ-2-a様式	ナマズ	神経頭蓋	2		1	3
				椎骨			40	40
				前上顎骨		1		1
				歯骨	1			1
				角骨	1	1		2
				方骨	1			1
				舌顎骨		1		1
				主鰓蓋骨	1	1		2
				擬鎖骨	1			1
				上擬鎖骨			2	2
				胸鰭棘		2		2
ＳＤ-2202	第３層	第Ⅰ-1-a様式	ナマズ	前上顎骨	1			1
				胸鰭棘		1		1
			エイ・サメ類	椎骨			1	1
	第３（下）層		フナ属	咽頭骨	1			1
				主鰓蓋骨		1		1
			ナマズ	椎骨			2	2
			ナマズ目	胸鰭棘			1	1
ＳＤ-2201	第２層	第Ⅱ-1様式（Ⅰ-2-b含む）	コイ科	椎骨			1	1
			ナマズ	椎骨			1	1
			ナマズ目	胸鰭棘			1	1
			不明	基鰭骨	1			1
				鰭棘			2	2
	第３層		コイ	咽頭歯			1	1
			フナ属	方骨	1			1
			コイ科	椎骨			1	1
			ナマズ	胸鰭棘		1		1
			不明	椎骨			1	1
	アゼSec.第13層	第Ⅱ-1様式	コイ	咽頭歯			1	1
			ナマズ目	胸鰭棘			1	1

遺構	層位	時期	小分類	部位	左	右	－	計
ＳＤ-2201	アゼSec.第14層	第Ⅱ-1様式	コイ科	椎骨			1	1
			ナマズ	前上顎骨	1			1
				椎骨			1	1
				胸鰭棘		1		1
			ギギ	胸鰭棘	1			1
			タイ科	遊離歯			1	1
			ニシン科？	椎骨			1	1
ＳＫ-2204	第３層	第Ⅱ-1様式	アユ	椎骨			1	1
			コイ科	椎骨			1	1
			ナマズ	椎骨			1	1
				胸鰭棘	1			1
			マダイ	主上顎骨	1			1
			不明	椎骨			2	2
ＳＫ-4205	第１層	第Ⅱ-1様式？	ナマズ	前後頭骨			1	1
				椎骨			8	8
				前上顎骨		1		1
				歯骨		1		1
				角骨		1		1
				角舌骨	1			1
				擬鎖骨		1		1
				上擬鎖骨	1			1
ＳＫ-4202	第１層	第Ⅱ-1様式？	不明	鰓蓋骨の一部？			1	1
ＳＫ-2211	炭灰層	第Ⅰ様式	不明	椎骨			1	1
ＳＲ-101Ａ	第５層	第Ⅱ-1～Ⅲ-1様式	ボラ科	主鰓蓋骨	1			1
総計								142

は、２点が体長30～40㎝、３点が20㎝程度と推定される。ギギの胸鰭棘（左）が１点出土しており、体長20～30㎝と推定される。ナマズ、ギギを含むナマズ目の胸鰭棘（左右不明）２点出土しており、いずれも被熱して白色を呈する。コイの咽頭歯（左右不明）が２点出土しており、うち１点は被熱して白色を呈する。フナ属の方骨（左）が１点出土しており、体長20㎝程度と推定される。コイ、フナ属を含むコイ科の椎骨が３点出土しており、うち２点は被熱して白色を呈する。タイ科の遊離歯１点が出土している。出土層位は、第２層、第３層、アゼSec.第13層、アゼSec.第14層である（第２表）。

ＳＤ-2202（大和第Ⅰ-2-a様式：弥生時代前期後半）

ナマズの椎骨２点、前上顎骨（左）１点、胸鰭棘（右）１点、計４点が出土している。大きさは、体長20㎝ないし、それ以下の個体である。ナマズ目の胸鰭棘（左右不明）が１点出土しており、被熱して白色を呈する。フナ属の咽頭骨（左）、主鰓蓋骨（右）が１点ずつ、計２点が出土しており、大きさは体長20㎝以下の小型個体である。エイ・サメ類の椎骨１点が出土しており、小型の個体である。被熱して白色を呈する。出土層位は、第３層および第３（下）層である（第２表）。

（２）第53次調査

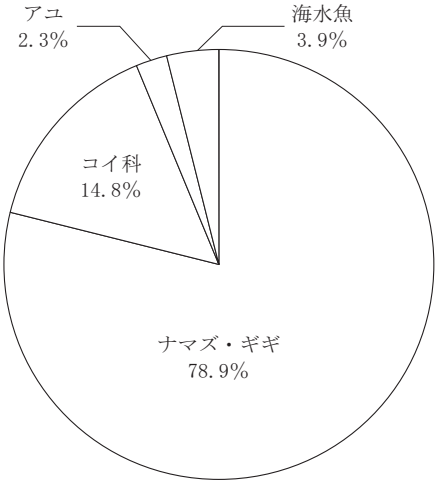
ＳＲ-101Ａ（大和第Ⅱ-1～Ⅲ-1様式：弥生時代中期初頭）

ボラ科の主鰓蓋骨（左）が１点、体長40㎝程度と推定される。第５層からの出土である。

4. 弥生時代前期の魚類利用の特徴

唐古・鍵遺跡の弥生時代前期から中期初頭の遺構で出土した魚類遺存体は、淡水魚が９割強を占めており、淡水魚の利用が盛んであったことがわかる。また、少数ではあるが、海水魚も利用していたことが明らかになった。

淡水魚はコイ・ウグイ・フナ属を含むコイ科、ナマズ・ギギを含むナマズ目、アユが、海水魚はエイ・サメ類・ニシン科？・ボラ科・マダイ・タイ科が出土している。これらを大別した魚種組成をみると、ナマズ目が卓越しており（第２図）、そのなかでもナマズの出土量は他を圧倒する（第３



第２図　弥生時代前期から中期初頭の魚種組成（N=128）

第３表　時期別集計表

種類	調査	第37次						第53次	計
	時期（様式）	Ⅰ-1	Ⅰ-1-b～Ⅰ-2-a	Ⅰ-2-a	Ⅰ-2-b～Ⅱ-1	Ⅱ-1	Ⅱ-1？	Ⅱ-1～Ⅲ-1	
	遺構	ＳＫ-2201	ＳＫ-4207	ＳＤ-2202	ＳＤ-2201	ＳＫ-2204	ＳＫ-4205	ＳＲ-101Ａ	
淡水魚	コイ	2			2				4
	フナ属	1		2	1				4
	ウグイ	2							2
	コイ科	5			3	1			9
	コイ科？	1							1
	ナマズ	15	56	4	5	2	15		97
	ナマズ？	1							1
	ギギ科				1				1
	ナマズ目			1	2				3
	アユ	2				1			3
淡水魚小計									125
海水魚	エイ・サメ類			1					1
	ニシン科？				1				1
	ボラ科							1	1
	マダイ					1			1
	タイ科				1				1
海水魚小計									5
不明		4			4	2			12
総計		33	56	7	20	7	15	1	142

表)。コイやナマズは体長30㎝以上に成長するにもかかわらず、出土資料ではナマズは30㎝以上のやや大型の個体よりも、20㎝前後か、それより小型個体が多い。小型個体が多いことは、漁場の環境、漁法、漁獲季節、人為的な選別などの要因が考えられる。一方、海水魚の種類は少なく、ボラ科やマダイは体長40㎝を越え、沿岸部の遺跡でも珍しくない大きさである。

唐古・鍵遺跡における弥生時代前期から中期初頭の魚類利用は、大局的にはナマズやコイの仲間を中心とする淡水魚の利用が主であり、弥生時代中期中葉・後期初頭と共通している。ナマズ・ギギ・コイ・フナは、河川や湖沼以外に、季節によっては水田や灌漑施設で容易に捕獲できる魚種であり、集落周辺における淡水漁撈が盛んであったと考えられる。ＳＫ-4207について、調査中からナマズの全身骨があることがわかっており、取りあげ後の魚種同定でもナマズ１種のみが出土していることは注目される。ＳＫ-4207は流路との連結がない土坑であり、自然状態でナマズが生息していたとは考えられず、一時的にナマズを確保していた可能性がある。一方、弥生時代中期・後期では海水魚が２・３割を占め、なかでもサバ属の出土頻度が高いのに対して、前期から中期初頭では海水魚の出土比率が非常に低く、サバ属が出土していないという相違点がある。時期別にみれば、大和第Ⅰ-1様式のＳＫ-2201の段階では海水魚は出土しておらず、大和第Ⅰ-2様式のＳＤ-2201・ＳＤ-2202の段階で海水魚が出土する（第３表)。集落成立時の弥生時代前期前半は海水魚の持ち込みがなかった、あるいは非常に少なかった、それが前期後半になると一定量の海水魚がもたらされるようになった可能性がある。

５．おわりに

弥生時代中期中葉および後期初頭の魚類利用との比較を目的として、弥生時代前期前半から中期初頭までの複数の遺構で出土した魚種などの同定をおこなった。その結果、唐古・鍵遺跡では弥生時代を通じてナマズやコイの仲間を対象とした淡水漁撈が主であり、集落周辺における水田や灌漑施設が好漁場となっていたのであろう。また、弥生時代前期後半には海水魚が持ち込まれていることが明らかになり、現状では唐古・鍵遺跡における海産物の持ち込みは集落成立の前期前半まで遡らない。

本資料群は、唐古・鍵遺跡における弥生時代の具体的な漁撈や海産物交易を明らかにできる資料として重要であり、今後、奈良盆地における魚類利用や内陸の弥生集落における海産物出土の意義についても検討する一助となることが期待される。

参考文献・註

（１）小林行雄・末永雅雄・藤岡謙二郎1943『大和唐古彌生式遺跡の研究』京都帝國大学文学部考古学教室
（２）藤田三郎2012『唐古・鍵遺跡』日本の遺跡45　同成社
（３）藤田三郎・丸山真史2012「唐古・鍵遺跡第53次調査出土の魚類遺存体について」『田原本町文化財調査年報20』田原本町教育委員会pp.111-119
（４）丸山真史・藤田三郎2014「唐古・鍵遺跡出土の魚類遺存体について」『田原本町文化財調査年報22』田原本町教育委員会pp.135-147

1　コイ咽頭歯　　2-1　アユ椎骨正面　　2-2　アユ椎骨側面　　3　ウグイ属咽頭骨　　4　ギギ胸鰭骨　　5　ナマズ胸鰭骨
6　ナマズ擬鎖骨　　7　ナマズ胸鰭骨　　8　フナ属椎骨　　9　フナ属方骨　　10-1　エイ・サメ属椎骨正面
10-2　エイ・サメ類椎骨側面　　11　マダイ主上顎骨　　12　ボラ科主鰓蓋

写真１　出土した魚骨

唐古・鍵遺跡から出土した編組製品等の素材の植物種

東北大学植物園
小林　和貴
鈴木　三男
株式会社パレオ・ラボ
佐々木由香
森林総合研究所
能城　修一

１．はじめに

唐古・鍵遺跡から出土した弥生時代～古墳時代の編組製品等の素材植物の植物種同定結果を報告する。

２．資料

資料はかご９点、箕および箕と思われるもの３点、縄紐６点、織物２点、穂束３点、その他に樹皮加工品や蔓素材など４点である（写真１～５）。

３．方法

かごや箕などは部位を違えて１資料から複数の素材同定試料を取り、総数57点について切片を作製し同定をおこなった。

方法は、試料をアセトンの上昇系列により脱水しエポキシ樹脂（Agar Scientific社、Low Viscosity Resin）に包埋した。回転式ミクロトーム（Microm社、HM350）を用いて樹脂包埋切片を作製し、パラマウント-Nで封入して観察用プレパラートにした。同定を行った試料はNAR-1～48（38、40、42、44の４点を除く）、367、379、1110～1120の番号を付し、作製されたプレパラートは東北大学植物園に保管されている。

４．結果

同定の結果、木本植物では針葉樹１分類群と広葉樹２分類群が、草本植物では単子葉類２分類群と双子葉類３分類群の、合計８分類群が同定された（第１表）。

１．ヒノキ科　樹皮　Bark of Cupressaceae sp.　Cupressaceae　ヒノキ科

NAR-10（標本番号48、樹皮加工品）：写真６－１

NAR-26（標本番号38、樹皮加工品）：写真６－２

NAR-10は薄くて細長いテープ状の素材で、ときおり束ねられた部分もある。NAR-26は鉛筆状の細棒である。横断面で見るといずれも厚壁で断面長方形の繊維細胞が１細胞の厚さで接線方向に長く配列している。繊維細胞層と繊維細胞層の間は、NAR-10では潰れていて細胞組織が見えないが、NAR-26ではいずれも１細胞層の厚さで、繊維細胞層－篩細胞層－柔細胞層－篩細胞層－繊維

第１表　唐古・鍵遺跡出土編組製品等の素材植物種

試料番号	植物種	植物体の部位・木取	製品名	製品コード	台帳№	遺物番号	部位	調査次数	遺構	層位	時期（様式）
NAR-1	炭化した繊維	繊維単体	織物	KRK-023-00005WC	504	標本番号26	タテ材	23	SK-123	第4層	Ⅱ-2
NAR-2	スゲ属	葉と茎	縄	KRK-033-00008WC	777			33	SK-111	第4層	Ⅲ-3
NAR-3	柔組織？の塊		紐結び目	KRK-022-00004WC	361			22	SK-105	第3(下)層	Ⅲ-4
NAR-4	柔組織？の塊		紐結び目	KRK-022-00004WC	361			22	SK-105	第3(下)層	Ⅲ-4
NAR-5	ヤナギ属	当年枝	蔓	KRK-059-00008WC	1103	WC-451		59	SK-3135	第4(下)層	Ⅱ-3
NAR-6	スゲ属？	葉	箕？(かご)	KRK-074-00001WC	825	W-357	タテ材	74	SK-120	第3(下)層	Ⅱ-2
NAR-7	ヤナギ属？	根？	箕？(かご)	KRK-074-00001WC	825	W-357	ヨコ材　細	74	SK-120	第3(下)層	Ⅱ-2
NAR-8	ヤナギ属	当年枝	箕？(かご)	KRK-074-00001WC	825	W-357	ヨコ材　中	74	SK-120	第3(下)層	Ⅱ-2
NAR-9	ヤナギ属	当年枝	箕？(かご)	KRK-074-00001WC	825	W-357	ヨコ材　太	74	SK-120	第3(下)層	Ⅱ-2
NAR-10	ヒノキ科	樹皮	樹皮加工品	KRK-037-00009WC	1084	標本番号48	タテ材	37	SK-2116	第4層	Ⅱ-3-b
NAR-11	同定不可		樹皮加工品	KRK-037-00009WC	1084	標本番号48	ヨコ材	37	SK-2116	第4層	Ⅱ-3-b
NAR-12	アサ		織物	KRK-023-00005WC	504	標本番号26	タテ材	23	SK-123	第4層	Ⅱ-2
NAR-13	アサ		織物	KRK-023-00005WC	504	標本番号26	ヨコ材	23	SK-123	第4層	Ⅱ-2
NAR-14	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-059-00004WC	1118	標本番号57	タテ材	59	SK-3135	第4(下)層	Ⅱ-3
NAR-15	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-059-00004WC	1118	標本番号57	ヨコ材	59	SK-3135	第4(下)層	Ⅱ-3
NAR-16	スゲ属	葉と茎	縄	KRK-033-00008WC	777	標本番号36		33	SK-111	第4層	Ⅲ-3
NAR-17	ツヅラフジ科	丸木	蔓素材の輪	KRK-037-00004WC	1038	標本番号43		37	SK-2139	第4層	Ⅱ-3-b
NAR-18	同定不可	塊	縄	KRK-093-00002WC	306	標本番号69		93	SK-1120	第8層	Ⅴ-2
NAR-19	同定不可		縄	KRK-037-00006WC	277	標本番号45		37	SK-2103	第6層	Ⅴ-1
NAR-20	アサ		織物	KRK-037-00007WC	152	標本番号46	タテ材	37	SK-2103	第4層	Ⅴ-1
NAR-21	アサ		織物	KRK-037-00007WC	152	標本番号46	ヨコ材	37	SK-2103	第4層	Ⅴ-1
NAR-22	同定不可	テープ状	かご	KRK-044-00001WC	388	標本番号49	タテ材	44	SK-203	第2(下)層	Ⅱ-3
NAR-23	同定不可	丸茎状	かご	KRK-044-00001WC	388	標本番号49	ヨコ材	44	SK-203	第2(下)層	Ⅱ-3
NAR-24	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-033-00001WC	583	標本番号29	タテ材	33	SK-120	第4層	Ⅳ-1
NAR-25	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-033-00001WC	583	標本番号29	ヨコ材	33	SK-120	第4層	Ⅳ-1
NAR-26	ヒノキ科	樹皮	樹皮加工品	KRK-033-00010WC	1043	標本番号38		33	SD-204	第2層	Ⅱ-1-b
NAR-27	不明植物A	不明	かご	KRK-037-00002WC	519	標本番号41	ヨコ材	37	SK-2130	第7(上)層	Ⅲ-3
NAR-28	イネ	葉鞘	穂束	KRK-033-00006WC	857	標本番号34		33	SD-120	第3層	Ⅱ-2
NAR-29	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-020-00005WC	669	標本番号15	タテ材	20	SK-217	第2層	Ⅰ-2
NAR-30	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-020-00005WC	669	標本番号15	ヨコ材	20	SK-217	第2層	Ⅰ-2
NAR-31	同定不可		かご（素材束？）	KRK-022-00002WC	319	標本番号17		22	SK-205	第3層	Ⅰ-1?
NAR-32	同定不可（竹笹？）	テープ状	かご	KRK-022-00001WC	368	標本番号16	タテ材	22	SK-103	第3層	Ⅲ-1
NAR-33	ツヅラフジ	クチクラ	かご	KRK-022-00001WC	368	標本番号16	ヨコ材	22	SK-103	第3層	Ⅲ-1
NAR-34	同定不可	テープ状	かご	KRK-022-00001WC	368	標本番号16	ヨコ添え材	22	SK-103	第3層	Ⅲ-1
NAR-35	同定不可	テープ状	かご	KRK-022-00001WC	368	標本番号16	ヨコ添え巻き付け材	22	SK-103	第3層	Ⅲ-1
NAR-36	同定不可	テープ状	かご	KRK-022-00001WC	368	標本番号16	タテ異素材	22	SK-103	第3層	Ⅲ-1

試料番号	植物種	植物体の部位・木取	製品名	製品コード	台帳No.	遺物番号	部位	調査次数	遺構	層位	時期(様式)
NAR-37	同定不可	テープ状	かご	KRK-033-00002WC	752	標本番号30	タテ材１	33	SK-124	第6層	Ⅲ-3
NAR-39	同定不可	テープ状	かご	KRK-033-00002WC	752	標本番号30	ヨコ材１	33	SK-124	第6層	Ⅲ-3
NAR-41	同定不可	テープ状	かご(敷物)	KRK-020-00001WC	764	標本番号11	タテ材１	20	SK-205	第8層	Ⅰ-1
NAR-43	同定不可	テープ状	かご(敷物)	KRK-020-00001WC	764	標本番号11	ヨコ材１	20	SK-205	第8層	Ⅰ-1
NAR-45	同定不可	塊	穂束	KRK-033-00007WC	1038	標本番号35	本体	33	SD-205	第4層	Ⅱ-1-a
NAR-46	スゲ属	葉	穂束	KRK-033-00007WC	1038	標本番号35	結束部	33	SD-205	第4層	Ⅱ-1-a
NAR-47	イネ	茎	穂束	KRK-037-00005WC	1034	標本番号44	本体	37	SK-2139	第4層	Ⅱ-3-b
NAR-48	スゲ属	茎	穂束	KRK-037-00005WC	1034	標本番号44	結束部	37	SK-2139	第4層	Ⅱ-3-b
NAR-367	アオツヅラフジ	丸木	紐	KRK-040-00024W	318	W-710		40	SK-101	第7層植物層	庄内式
NAR-379	不明植物B	丸茎状	紐	KRK-040-00018W	318	W-704		40	SK-101	第7層植物層	庄内式
NAR-1110	ツヅラフジ	皮部分	箕	KRK-008-00001WC	679C	WC-201	タテ材1	8	SK-17	第2層黒粘植物層	Ⅰ
NAR-1111	ツヅラフジ	皮部分	箕	KRK-008-00001WC	679C	WC-201	タテ材2	8	SK-17	第2層黒粘植物層	Ⅰ
NAR-1112	ヤナギ属	当年枝	箕	KRK-008-00001WC	679C	WC-201	ヨコ材1	8	SK-17	第2層黒粘植物層	Ⅰ
NAR-1113	ヤナギ属	当年枝	箕	KRK-008-00001WC	679C	WC-201	ヨコ材2	8	SK-17	第2層黒粘植物層	Ⅰ
NAR-1114	ツヅラフジ	皮部分	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	タテ材1	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2
NAR-1115	ツヅラフジ	皮部分	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	タテ材2	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2
NAR-1116	ヤナギ属	当年枝	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	ヨコ材1	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2
NAR-1117	ヤナギ属	当年枝	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	ヨコ材2	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2
NAR-1118	コクサギ	板目へぎ材	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	枠材1	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2
NAR-1119	ヤナギ属？	ヒゴ材	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	枠材2	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2
NAR-1120	ツヅラフジ	皮部分	箕	KRK-013-00001WC		WC-01	枠材かがり材	13	SD-02	植物層	Ⅳ-2

細胞層を繰り返す構造となっているのが分かる。この特徴からヒノキ科の樹皮と同定した。

ヒノキ科にはヒノキやサワラ、スギ、アスナロなどがあるが、樹皮の基本構造はいずれも同じであることから種を特定することは出来ない。なお、NAR-11はNAR-10の資料に紛れ込んだと思われる植物質だが、組織構造が保存されていないため同定は出来なかった。

２．スゲ属　葉と茎　Leaf and stem of *Carex* sp.　Cyperaceae　カヤツリグサ科

NAR-２、16（標本番号36、台帳番号777、縄）：写真６-３～５

NAR-46（標本番号35、穂束を束ねる紐）：写真６-６

NAR-48（標本番号44、穂束を束ねる紐）：写真６-７

葉の中央を山に二つ折りになった厚みのある葉で、大きな空所（通気組織）を維管束のある「梁」が仕切っている（写真６-６）。背軸側の表皮は小さい細胞が一層で密にあり、向軸側の表皮は大きな膨らんだ細胞が一層ある（写真６-３・５・６）。背軸側と向軸側の間にさし渡された「梁」は柔組織からなり、「梁」の途中に大～小の維管束が１本ずつある。維管束は葉の中央とその左右に１～数本おきに大きい維管束があり、その大きい維管束の間に１～数本の小さい維管束がある。維管束の梁での位置は葉裏に近いところにあるものから葉表に近いところと様々である（写真６-３・５）。

維管束は向軸側に一つの原生木部、その両側の外側に丸く大きい一対の後生木部道管、背軸側にひとかたまりの篩部があり、基本構造はイネ科と同じであるが、維管束を取りまく繊維組織の維管束鞘は発達しない（写真６－５）。以上の形質から、カヤツリグサ科のスゲ属の葉であると同定した。

スゲ属には沢山の種類があり、葉の基本構造はほとんど同じであるが、葉の形状（山型二つ折り～扁平）、大きさ、通気組織の発達の程度、下表皮組織の形態などが種類によって少しずつ異なる。出土製品は山型二つ折りの大きな葉で、大きく発達した通気組織、維管束の位置などでカサスゲ Carex dispalata Boottに良く一致するが、カサスゲに良く似た葉を持つ種類は何種類もあることから、種を特定することは出来ない。なお、NAR-16には茎の部分も含まれている（写真６－４）。維管束の形態は葉と同じで、髄は中実（髄腔となっていない）であることが分かり、これもカサスゲなどと矛盾しない。NAR-48も穂束を束ねる紐で、切片が作成された範囲は茎の部分だけで、その形態はNAR-16の茎と全く一致することから、これもスゲ属の茎と同定した（写真６－７）。

２’. スゲ属？　葉　Leaf of *Carex* ？

NAR-６は箕と思われるもの（遺物番号W-357）のタテ材である。扁平な素材で、通気組織と思われる大きな空所があり、維管束が梁の様に見える部分があるためスゲ属と思われたが、上記の「スゲ属」としたものとは通気組織と思われる空所の在り方が一致しないなどから断定を控えた。

３．イネ　葉鞘と茎（稈）　Leaf sheath and stem (culm) of *Oryza sativa* L.　Poaceae　イネ科

NAR-28（標本番号34、穂束の束ねられた穂）：写真６－８・９

NAR-47（標本番号44、穂束の束ねられた穂）：写真７-10・11

NAR-28は厚みのある扁平な植物体で、背軸側表皮は１細胞層で、維管束のある部分では厚壁で径が小さい細胞が緻密にあり、維管束と維管束の間の部分の表皮細胞は径が大きく薄壁である（写真６－９）。向軸側の表皮細胞は径が大きく壁は厚くない。維管束は背軸側表皮に接してあり、間隔を置いて大小の維管束が配置する（写真６－８）。向軸側と背軸側の表皮の間には柔組織の「梁」があり、梁と梁の間は大きな空所（通気組織）となっている（写真６－８）。維管束は向軸側に一つの原生木部腔があり、その外側両側に一対の後生木部道管があり、背軸側に篩部があり、篩部はしばしば壊れて空所となっている（写真６－９）。維管束鞘は発達しない。以上の形質からイネの葉鞘と同定した。

NAR-47の表皮は径の小さい表皮細胞が緻密にあり、下表皮は径が小さく厚壁の細胞が５層ほどの層をなし、内側の細胞は径がやや大きくなる（写真７-11）。皮層の柔組織は薄壁で内側ほど径が大きく、茎の中心は大きな髄腔となっている（写真７-10）。下表皮に間隔をほぼ等しくあけて小さい維管束が埋め込まれている。維管束のある部分の表皮は盛り上がるので茎の表面に多数の平行な稜があることになる。皮層には大きな維管束が間隔をあけて一層のほぼ同心円状に列に並んでいる（写真７-10・11）。下表皮にある外周の維管束と皮層にある維管束の位置はおおよそ対応しているが、そうでない場合もある（写真７-10）。維管束はいずれも向軸側の一つの大きな原生木部腔とその外側両側にある一対の円い後生木部道管、背軸側の篩部からなる（写真７-11）。これらの形態からイネの茎（稈）と同定した。オオムギやコムギ、チガヤ、ススキなどの他のイネ科植物とは茎表面の稜の有無、髄腔の有無と大きさ、維管束の配置と形態、下表皮の発達と維管束の位置関係などで区別される。

４.アオツヅラフジ　茎（蔓）　Stem of *Cocculus trilobus* (Thunb.) DC　Menispermaceae　ツヅラフジ科

NAR-367（遺物番号W-710、木錘の紐）：写真７-12

遺物番号W-710は樹皮付きの丸木の木錘で、その中央のくびれ部に巻かれたつり下げ紐がNAR-367で、肉眼観察では表皮のある丸い茎であることがわかる。直径は約2.3㎜、そのうち髄の部分は直径1.3㎜ほどで髄が太い（写真７-12）。１層の表皮細胞層の下はコルク細胞からなり、周皮が作られ始めていることが分かる。表皮のクチクラはあまり厚くない。維管束は11本で一輪に配列し、二次木部はほとんど形成されていない。維管束は内側に５、６本ほどの細い道管からなる原生木部と、その外側の両側に２本の大きな後生木部道管がある。篩部および皮層は壊れていて観察できない。以上の形質からツヅラフジ科のアオツヅラフジの茎（蔓）と同定した。ツヅラフジとは、表皮のクチクラが薄いこと、周皮が形成され始めても二次木部の形成はほとんど進んでいないことなどにより区別される。

５．ツヅラフジ　茎（蔓）　Stem of *Sinomenium acutum* (Thunb.) Rehder et E.H.Wilson　Menispermaceae　ツヅラフジ科

NAR-1110（遺物番号WC-201、箕）：写真７-13･14

NAR-33、1110、1111、1114、1115、1120の６点は厚い特徴的なクチクラと皮層組織等の特徴的な形態からツヅラフジの茎（蔓）と同定された。写真７-13は表皮の厚いクチクラと潰れて膜状に見える皮層組織、そしてほぼ等間隔にある柔組織の「橋脚の頭部分」からなり、茎のさらに内側にある維管束や髄は無い。厚いクチクラは、外面は平滑だが内面は表皮細胞の形に合わせて歯牙状の突起がある（写真７-14）。これらの形質からツヅラフジの茎と同定した。柔組織の「橋脚」とはツヅラフジの同心円状に配列した一次維管束と一次維管束の間にある柔組織で、髄の組織が放射状に外方まで伸びた柔組織部分（「橋脚」の下半分）と皮層組織が維管束の間を内側に入りこんだ柔組織部分（「橋脚」の頭部分）からなり、両者の境界部に束間形成層が発生する。ツヅラフジの蔓の皮を剝ぐ場合、この部分から剝がれる性質があり、剝がした皮には表皮と皮層、そしてこの「橋脚の頭部分」が残ることになる。

同定された６点のうち、NAR-1110、1111、1114、1115は箕のタテ材で、テープ状の形状をしている。NAR-1120は箕の枠材のかがり材でやはりテープ状である。NAR-33は器形不明のかごのヨコ材でこれもテープ状をしている。いずれもツヅラフジの蔓の皮を剝がし取ったか、あるいは半割した蔓の内側を削ぎ落としてテープ状にしあげて利用したものであろう。

５’.ツヅラフジ科　茎（蔓）　Stem of Menispermaceae sp.　Menispermaceae　ツヅラフジ科

NAR-17は細長い蔓状のものを環状に巻いた「蔓素材」である。断面を見ると大きな髄と同心円状に並ぶ壊れた維管束部分まであるが、皮層と表皮は剝げ落ちており、ツヅラフジとアオツヅラフジの区別が出来ないため「ツヅラフジ科の茎（蔓）」とした。

6．アサ　*Cannabis sativa* L.　Cannabaceae　アサ科

NAR-12（標本番号26、織物タテ糸）：写真７-15

NAR-20（標本番号46、織物タテ糸）：写真７-16

NAR-21（標本番号46、織物ヨコ糸）：写真７-17

NAR-12と13、NAR-20と21はそれぞれ二つの織物のタテ糸とヨコ糸で、いずれもアサ（大麻）と同定された。写真７-15に見るように糸の横断面では繊維細胞の塊が何本かあり、細長く流れる繊維も観察されるため、撚りが入っていると判断できる。拡大してみると（写真７-16)、繊維細胞の断面は多角形で数本～数十本が集まって繊維細胞の塊をつくっていることが分かる。繊維細胞の太さ、集まり具合からアサの繊維と同定した。

布目[1] は当遺跡から出土した三つ編みの縄と織物２片について「大麻」と報告している。

７．ヤナギ属　当年枝　Stem of *Salix* sp.　Salicaceae　ヤナギ科

NAR-1112（遺物番号WC-201、ヨコ材１）：写真７-18、写真８-19～21

ヤナギ属の当年枝と同定されたのはNAR-５(遺物番号WC-451)、NAR-８、９（遺物番号W-357、箕？の太さが「太」と「中」のヨコ材)、NAR-1112、1113（遺物番号WC-201、ヨコ材１、２)、NAR-1116、1117（遺物番号WC-01、ヨコ材１、２）の７点である。いずれも小型で断面楕円形の単独あるいは２個が放射方向に複合した道管がまばらに散在する散孔材で、年輪界は無い。放射組織は単列異性で道管の穿孔は単一である。保存の良い試料では横断面で下表皮に凸レンズ型の繊維細胞の集まりを認めることが出来る。蜂の巣状の道管－放射組織間壁孔などは観察できなかったが以上の形質からヤナギ属の当年枝であると判断した。

箕２個体および箕？１個体のヨコ材７点のうち６点がヤナギ属の当年枝であったことになる。

７’．ヤナギ属?　材　Wood of *Salix* ？

NAR-1119（遺物番号WC-01、枠材２）：写真８-22～24

小型で楕円形の単独あるいは２～３個が放射方向に複合した道管が散在する散孔材で、道管の穿孔は単一のように見え、放射組織は単列か２列か不明で異性である。道管－放射組織間の壁孔は見えない。観察された形質は放射組織が単列ならばヤナギ属の材と矛盾しないが、保存が悪く単列か２列か判別できないことや、ヤナギ属であると積極的に示す他の形質が観察されていないため、ヤナギ属？とした。

７’’．ヤナギ属？　根？　Root of *Salix* ？

NAR-７(遺物番号W-357、箕？の太さが「細」とされたヨコ材)：写真８-25・26

NAR-７は箕？の太さの違うヨコ材のうち一番細いもの（細）で、上に述べたように「太」と「中」はヤナギ属の当年枝である。

NAR-７は断面ほぼ円形だが表皮、皮層は切片には残っていない。道管は太く、非常に高密度であるように見えるが、これは道管以外の木部を構成する繊維細胞等は乾燥収縮しているためである。繊維組織、放射組織はよく観察できない。また、髄の有無も確認できない。しかし、道管の大きさ、

配列などからヤナギ属であることが考えられ、それも根であると推察したが確証はない。

８．コクサギ　材　Wood of *Orixa japonica* Thunb.　Rutaceae　ミカン科

NAR-1118（遺物番号WC-01、枠材１）：写真８-27、写真９-28・29

NAR-1118は木材を接線方向剝ぎ取った断面台形のへぎ材である。材は横断面で薄壁多角形の小道管が多数集まって雲紋状の模様を造り、道管の穿孔は単一、放射組織は単列で異性である。これらの形質からミカン科のコクサギの材と同定した。

９．不明植物A　Unidentified Plant A

NAR-27（標本番号41、かご編物のヨコ材）：写真９-30～33

NAR-27は器形不明のかごの編み材（ヨコ材）に当たる部分にあった植物質を試料としたが、デジタルマイクロスコープ画像（写真９-30）では繊維状のものが菌糸状に拡がっており、とても編組製品の素材とは思えないものである。断面を見ると扁平な植物質で構成されているが、木材や樹皮、蔓植物の茎の一部などの構造は全く見えず（写真９-31）、部分的に表皮と下表皮の２細胞層が見えたり（写真９-33右側）、柔組織の塊が見えたりし（写真９-32中央上）、その間にバラバラになったパイプ状の細胞らしきものが見える（写真９-33）。このパイプ状の細胞らしきものがデジタルマイクロスコープ画像の菌糸のように見えたものに相当すると思われる。

以上見てきたように、これは既知の編組製品等に利用される植物組織には該当せず、何の植物のどの部分に由来するのか不明である。

10．不明植物B　Unidentified Plant B

NAR-379（遺物番号W-704、木錘に巻かれた撚り紐）：写真９-34～36

NAR-379は直径５㎜ほどの断面円～楕円形の植物の茎（蔓？）と推定されるが、ほとんどの部分が潰れており、組織構造を観察出来ない（写真９-34）。中心付近に直径が大きい道管と推定される構造がいくつか見られる（写真９-35・36）。その周辺部には断面が丸い繊維細胞と思われるものが密に取り囲み（写真９-36）、それを放射状に走る潰れた柔組織と思われるものが区画している（写真９-35）。表皮、下表皮、皮層と認められる組織は無い。以上の形質から、蔓植物の茎と思われるが何の植物であるかは判明しない。

11．柔組織？の塊　Unknown (Mass of parenchyma?)

NAR-3、４（台帳番号361、紐の結び目）：写真10-37～40

撚りのある紐を幾重にも結んで丸い塊にしたものである。紐の太さは0.5㎜程度である。断面を見ると薄壁で大きめの細胞が大部分を占め、その中にやや厚壁で細胞径が少し小さく、縦長の細胞の塊が複数あるが、表皮、皮層、維管束などの構造に相当する組織は認められない。

布目[2]は著書に本試料と同じと思われるものを載せており、その素材を「藺草（いぐさ）様」とし、顕微鏡写真を掲載し「藺草に似ている」と記述しているが、この組織のどこが藺草のどこに似ているのか全く判然としない。イグサ属の数種の組織を見た限りでは本出土品や布目の本に掲載さ

れている顕微鏡写真に相当する組織は全く認められない。

12. 炭化した繊維　Unknown (Carbonated fibrous cells)

NAR-1（標本番号26、織物）：写真10-41・42

バラバラの繊維が多数集まって糸となっている。繊維の断面はほぼ丸～楕円だが、炭化のためか、外周はささくれ立っている。太さは11～14㎛程度。通常の植物繊維に見られる細胞壁と細胞内腔という構造は認められない。このことから、植物質ではない繊維である可能性が考えられるが、炭化によりそのように見えるようになった可能性は排除できない。ほぼ丸～楕円の断面形は絹特有の三角形状とは異なる。よって本資料の素材は特定できない。

13. 同定不可（竹笹？）　Unknown (Bambusoideae?)

NAR-30（標本番号15、かごのヨコ材）：写真10-43・44

「同定不可（竹笹？）」とした試料はNAR-14、15（標本番号57）、NAR-24、25（標本番号29）、NAR-29、30（標本番号15）、NAR-32（標本番号16）の７点で、すべて器形不明のかごのタテ材もしくはヨコ材である。いずれもテープ状をしており（写真10-43）、片側（上面とする）に表皮細胞層らしきものが認められ、その下側には断面が丸い繊維細胞らしきものが密にあるのが認められる（写真10-44）。下面側の組織は激しく潰れていて、細胞構造を認めるのが困難である。保存状態が多少ともいい試料では下面近くに道管らしき空隙が見えることがあるが、イネ科などの典型的な原生木部腔と一対の後生木部道管という組み合わせを思わせる構造は観察できない。以上のように保存状態が極めて劣悪なため植物種の同定に至らないが、わずかに見えている表皮や繊維組織らしきものは竹笹類の茎（稈）の構造と矛盾しないことから、竹笹類である可能性があると判断した。

14. 同定不可　Unknown

NAR-31（標本番号17、素材束？）：写真10-45

「同定不可」としたものは第１表にあるように14点あり、様々なものがある。最も多いのは薄いテープ状をしたもので、いずれもかごの素材で、細胞壁が融解癒着しているため、上記の「同定不可（竹笹？）」としたもののように表皮や繊維組織らしきものを見ることはほとんど出来ない。他に丸茎状のものや組織の塊のように見えるものもあるがいずれも細胞構造を残しておらず同定は全く不可能である。そうした中で、NAR-31（標本番号17、素材束？）は細胞構造がよく見える例外的なものである（写真10-45）。しかしそこにはあるべき筈の維管束が全く観察できず、植物種の特定は出来ていない。

５．考察

57点の試料から上に記載した18のカテゴリーが認識された。しかし種を特定できたのはアサとコクサギ、イネ、アオツヅラフジ、ツヅラフジの５種で14点、属まで特定できたのはスゲ属とヤナギ属で11点、科までしか分からなかったものがツヅラフジ科とヒノキ科で３点、合計28点で、総試料数の半分以下であった。同定が充分に出来なかった理由は資料の保存性の悪さで、細胞組織構造が

十分残されているのに分類群を特定できなかったものはない。また、分類群を特定できた資料も、細胞組織構造が十分保存されていると言えるものはほとんど無い。これはまだ植物質遺物の保存技術が発達していなかった古い時期に出土したことに依るところが大きい。

〔箕〕 箕は第８次調査（写真５-29）の弥生時代前期のＳＫ-17と第13次調査（写真５-30）の弥生時代中期第Ⅳ様式のＳＤ-02から出土した２点が調べられた。この２点のタテ材はいずれもツヅラフジの幅広いテープ状で、蔓を半割にして髄と維管束を削ぎ落としたか、あるいは皮を剝ぎ取って皮のみを使用している。ヨコ材はいずれもヤナギ属の当年枝で丸木を２本１単位として使っている。また、第13次調査の箕の枠材はコクサギの板目のへぎ材とヤナギ属？のヒゴ材であった。枠材には様々な植物素材が使われていることは他の弥生時代の遺跡から出土した箕でも見られているが、箕に用いるタテ材とヨコ材は素材選択と使い分けがきっちりと決まっていたことを窺わせる。一方、「箕？」とされた第74次調査の出土品（写真１-６）ではヨコ材に太さが異なる丸木材が使われていた。便宜的に太いもの、中くらいのもの、細いものに分けてそれぞれの植物種を調べたところ、太いものと中くらいのものはヤナギ属の当年枝であったが、細いものはヤナギ属の根である可能性が考えられた。現在の我々にとっては根の利用は大変奇異に思えるが、サハリンのニブフや北米インディアンなどにヤナギ属の根を綴じ紐やカゴ編みに使う民俗例が知られており[3]、当遺跡出土資料にヤナギ属の根が使われた可能性は考えられる。ヨコ材は２本１単位のヤナギ属で、タテ材はテープ状である点で技法は箕と同一であるが、タテ材の素材に「スゲ属？」が使われており、これは明確にツヅラフジとは区別されるため、「箕？」としたものは箕とは異なる器種の可能性もある。

〔かご〕 かごとして９個体（写真２-９・15・16、写真３-18・20～22、写真４-23・24）の素材19点を調べたが、これらはいずれも「破片」で器形が明らかな個体は無い。そしていずれも素材の組織構造の保存が極めて悪く、植物種を特定できたのはヨコ添え巻きつけ編みの直下に見られたツヅラフジのヨコ材わずか１点のみである。同じ編組製品でも箕や箕？では素材植物をかなり特定できたのに比べると遺存率の違いを見せているが、その理由は分からない。

〔縄紐類〕 縄紐類は８試料（写真１-２～４、写真２-10・12・13、写真４-27・28）が調べられたが、第33次調査のＳＫ-111から出土したスゲ属の２点の縄と第40次調査のＳＫ-101から出土したアオツヅラフジの１点の紐が特定できたのみである。スゲ属の２点は出土情報が同じため、同一個体であった可能性がある。残存が良いNAR-16を見ると、Ｓ撚りの縄でスゲ属の葉と茎を数十本扁平にして撚っている。アオツヅラフジの紐は木錘の溝に残る木錘を縛る紐で、撚りは観察できない。同一遺構からもう１点木錘を縛る紐が出土しているが、こちらは残存が悪く、不明植物Ｂとした。形質からは蔓植物の茎と思われる。

〔織物〕 織物は３点のタテ糸、ヨコ糸と部位を違えて５試料が調べられた（写真１-１、写真２-８・14）。いずれも平織りの織物である。うち第23次調査のＳＫ-123から出土した織物と第37次調査のＳＫ-2103から出土した織物各１点の計４試料は繊維塊をなすことなどからアサ（大麻）と同定され、１点は同定に至らなかった。同定に至らなかった第23次調査のＳＫ-123から出土した１点はアサと同定されたものと同じ資料に由来する可能性があるが、炭化して繊維細胞がバラバラなため、アサとは異なると考えた。布目[4]は当遺跡から出土した織物２片の素材を「大麻」と同定している。

〔穂束〕 草本の束を草本の紐で束ねた「穂束」３資料について、束ねられた草本３点と束ねた紐２

点の素材を調べた（写真３-19、写真４-25・26）。束ねられた草本は２点がイネで、あと１点は同定できなかった。束ねた撚紐は２点ともスゲ属であった。即ち稲藁の束をスゲ属の葉で束ねていた。近現代の稲の手刈りでは刈り取った稲束を前年に刈り取って保存しておいたイネの藁で結んではさ掛けするのが普通である。これには前年の秋の稲藁が翌年まで保持される必要があり、年間を通した稲藁のストックと利用計画の中にある。それに対してスゲの葉はイネ藁の収穫の時に取ってくれば良いので、長期のストックの必要はないことになる。

〔樹皮加工品〕　樹皮加工品とされたものは２資料あり、ひとつは細長いテープ状のものの集まりで（写真１-７）、一部は束ねて結んであり、何らかの目的に使用するため採り置いた「素材」であると思われる。資料として保管されている容器内にあるテープ状のものとこれと形状の違うものを調べたが、テープ状のものはヒノキ科の樹皮で、もうひとつはヒノキ科の樹皮とは異なり形状不明で同定できなかった。おそらく堆積物中にあった何らかの植物片であると思われる。もう１点の樹皮加工品は丸棒状に削って作られた鉛筆状の棒で（写真３-17）、これもヒノキ科の樹皮であった。厚いヒノキ科の樹皮を削って作り上げたものと思われるが、用途は不明である。

〔蔓〕　丸い茎を環状に巻いたものは（写真２-11）、ツヅラフジ科の茎であった。発掘後の乾燥劣化で皮が剝げてしまったためツヅラフジかアオツヅラフジかの区別が出来なくなっていた。一方、やはり発掘後の乾燥劣化でバラバラになった丸木の「蔓」とされたものは（写真１-５）、ヤナギ属の当年枝であった。いずれも製品を作るために採り置いた素材のストック（素材束）とみなせる。これを素材束だとすると、ヤナギ属の当年枝は箕または箕？にしか使用されていないため、箕の製作を遺跡内でしていた可能性が高い。

以上、唐古・鍵遺跡から出土した編組製品等の素材植物種を調べた結果をまとめた。発掘後数十年を経過して乾燥劣化や植物組織の保持には向かない保存処理等により植物種を同定できなくなってしまったものも多くあるが、それでも長い年月を経てもなおこれだけ同定できた、と考えている。これは植物質遺物の植物種同定や保存処理などが未だなされることがなかった時代の出土遺物でも、100％ではないものの、ある程度は素材植物種を同定できる可能性を示している。再出土を望むことが難しい古い出土資料を収蔵庫等から「再発掘」して改めて調べることは、先史時代の植物資源利用を明らかにする上で非常に有効といえる。

本稿は、平成21-24年度科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号21240071「東アジアの新石器時代遺跡出土編組製品等素材の考古植物学研究拠点の形成と展開」（代表　鈴木三男）および平成25-27年度科学研究費補助金基盤研究（A）課題番号25242022「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組･繊維製品等素材の考古植物学的研究」（代表　鈴木三男）の研究成果の一部である。今回の調査をおこなうにあたり、藤田三郎氏（田原本町教育委員会）にはさまざまな便宜を図って頂いた。また福田さよ子氏（奈良県立橿原考古学研究所）、反町始氏（京都大学生存圏研究所）、秋山綾子氏（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）、村上由美子氏（京都大学総合博物館）には資料調査にご協力いただいた。記して感謝申し上げる。

註

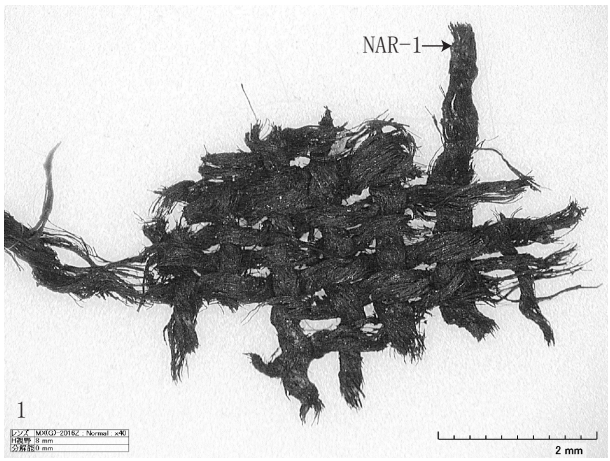
（1）布目順郎1992『目で見る繊維の考古学　繊維遺物資料集成』染織と生活社

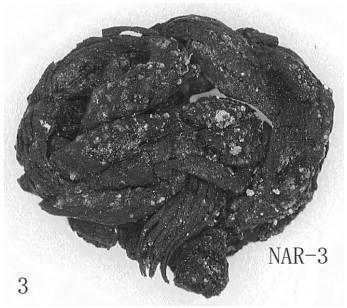
（2）註1に同じ。

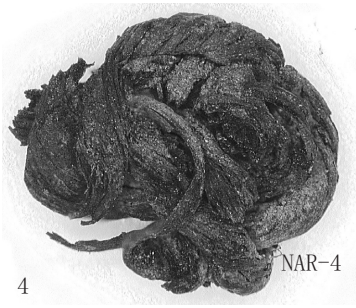
（3）a. 北海道立北方民俗博物館（編）2005『第20回特別展　アイヌと北の植物民族学～たべる・のむ・うむ～』（財）北方民族文化振興協会

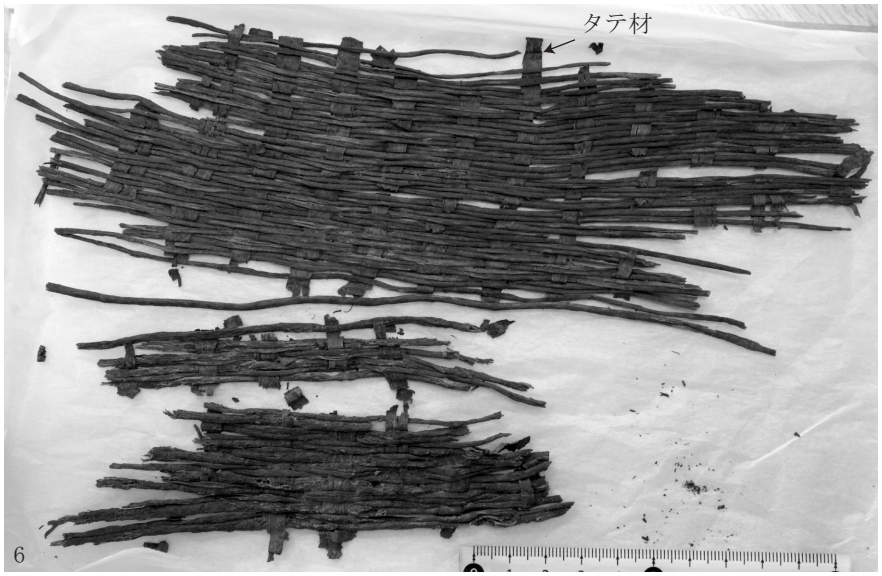
b. 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（編）2014『トーテムポールのひとびと～漁労・狩猟採集民のくらし～』八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

（4）註1に同じ。



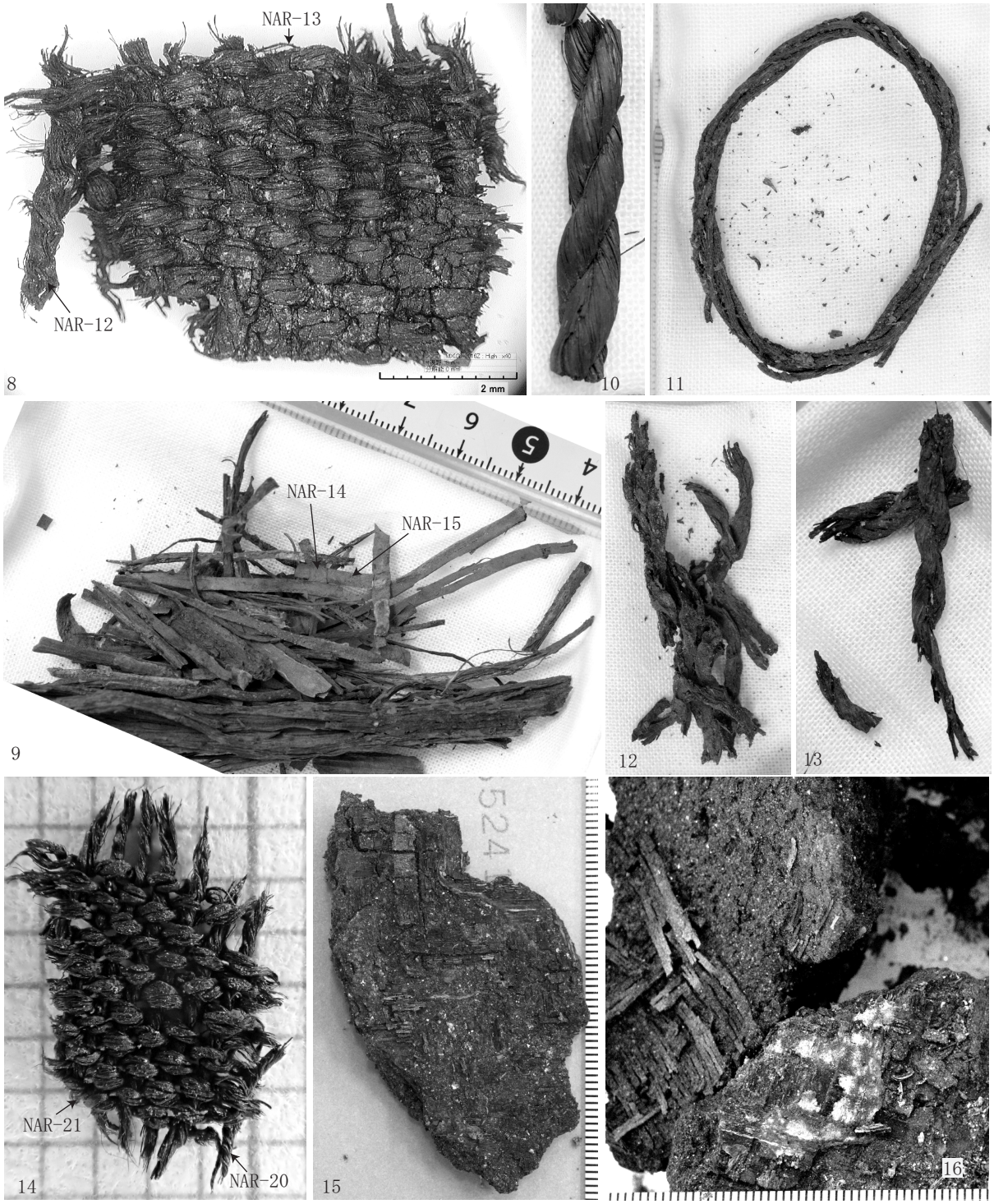






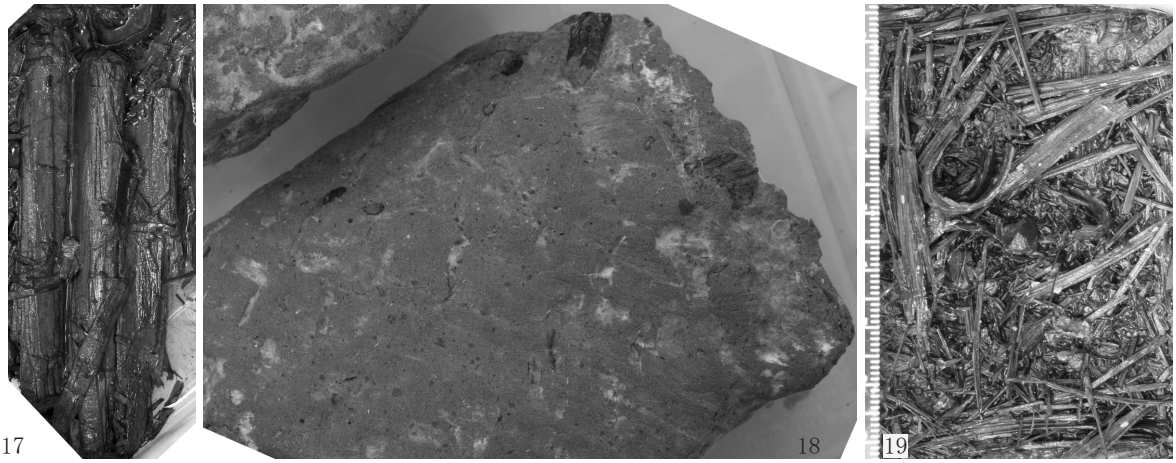
1：織物（KRK-023-00005WC）
2：縄（KRK-033-00008WC）
3・4：紐結び目（KRK-022-00004WC）
5：蔓（KRK-059-00008WC）
6：箕？（かご）（KRK-074-00001WC）
7：樹皮加工品（KRK-037-00009WC）

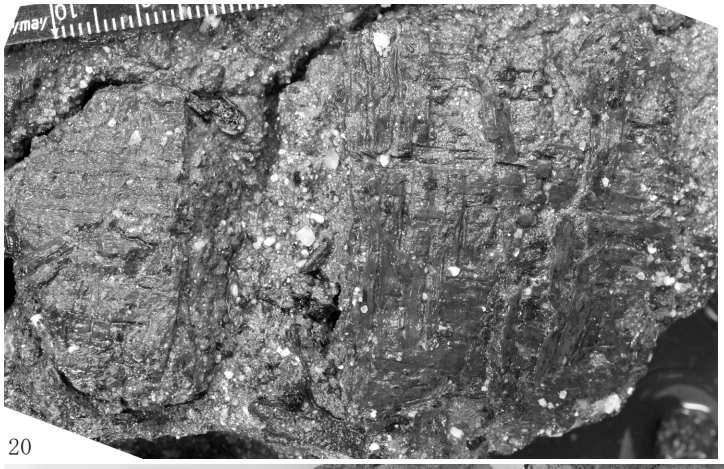
写真１　唐古・鍵遺跡素材調査遺物（１）

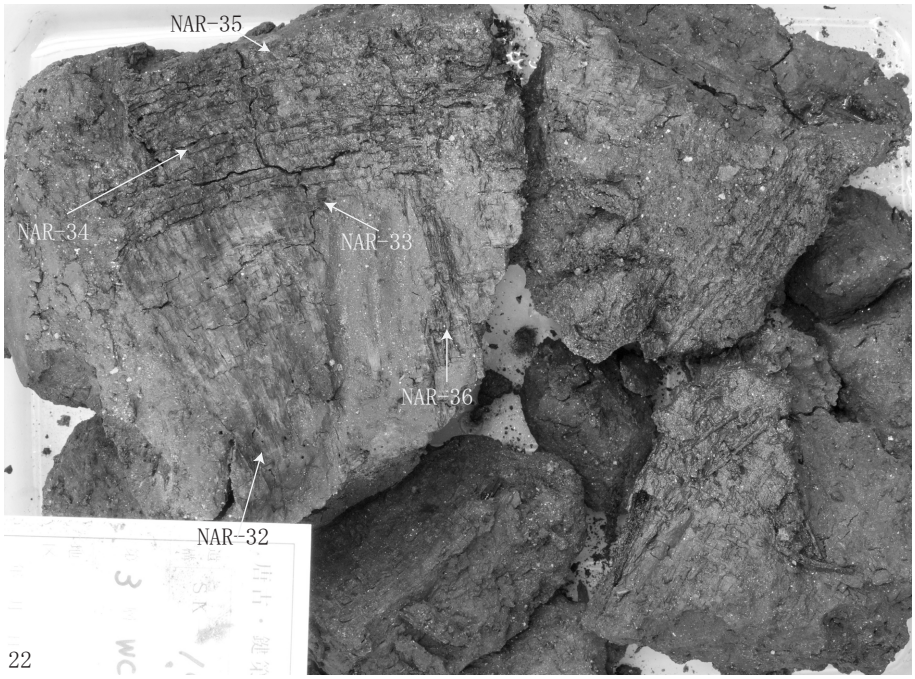


8：織物（KRK-023-00005WC）
9：かご（KRK-059-00004WC）
10：縄（KRK-033-00008WC）
11：蔓素材の輪（KRK-037-00004WC）
12：縄（KRK-093-00002WC）
13：縄（KRK-037-00006WC）
14：織物（KRK-037-00007WC）
15：かご（KRK-044-00001WC）
16：かご（KRK-033-00001WC）

写真２　唐古・鍵遺跡素材調査遺物（２）

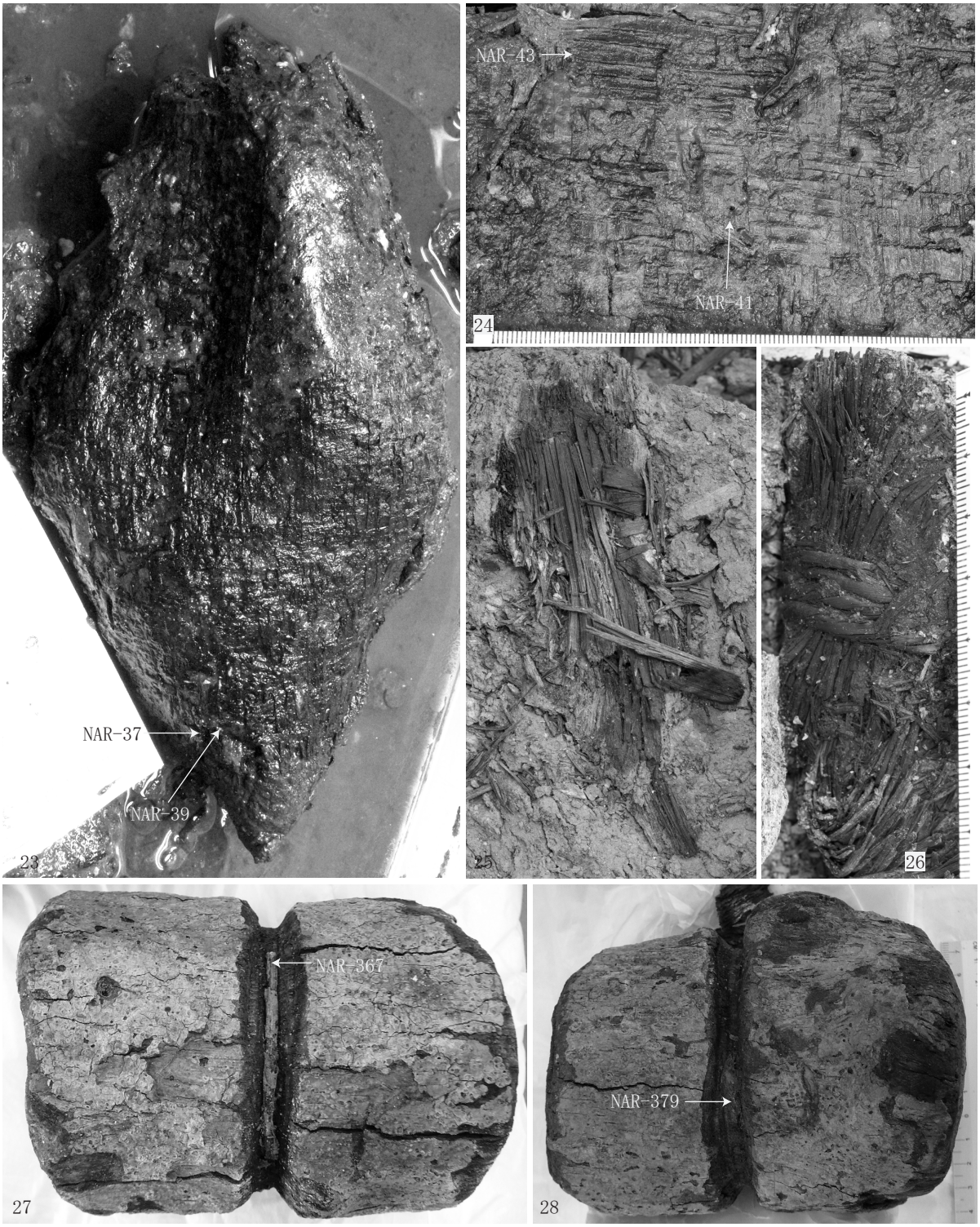






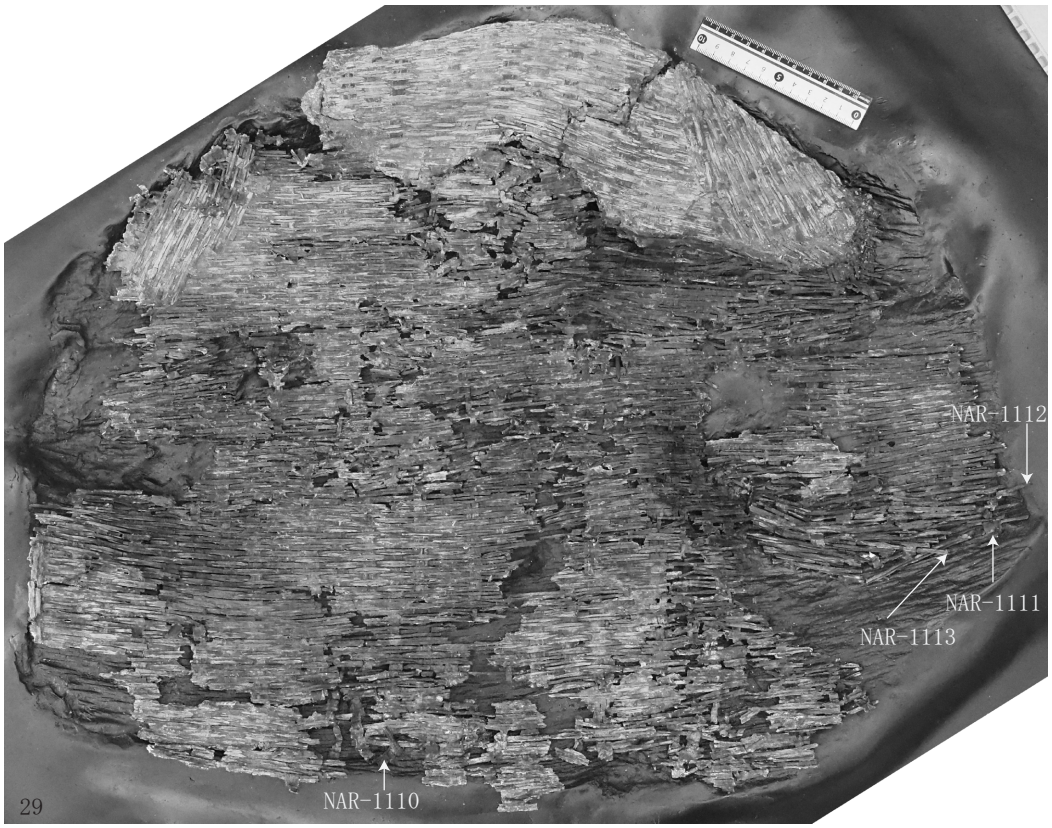
17：樹皮加工品（KRK-033-00010WC）
18：かご（KRK-037-00002WC）
19：穂束（KRK-033-00006WC）
20：かご（KRK-020-00005WC）
21：かご（素材束？）（KRK-022-00002WC）
22：かご（KRK-022-00001WC）

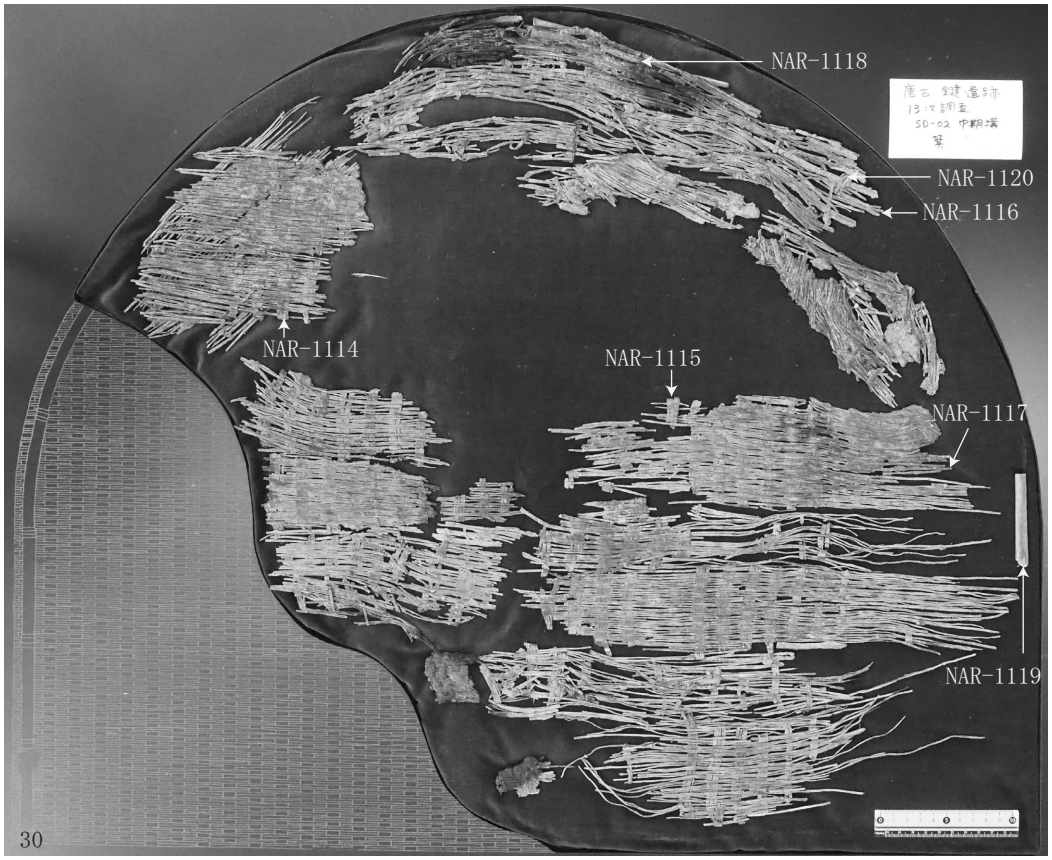
写真３　唐古・鍵遺跡素材調査遺物（３）



23：かご（KRK-033-00002WC）
24：かご（敷物）（KRK-020-00001WC）
25：穂束（KRK-033-00007WC）
26：穂束（KRK-037-00005WC）
27：紐（KRK-040-00024W）
28：紐（KRK-040-00018W）

写真４　唐古・鍵遺跡素材調査遺物（４）

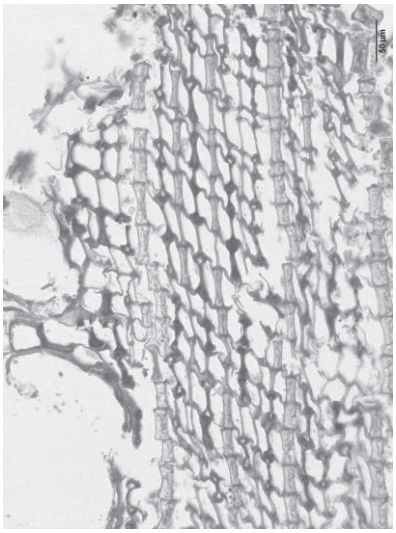




29：箕（KRK-008-00001WC）　　30：箕（KRK-013-00001WC）

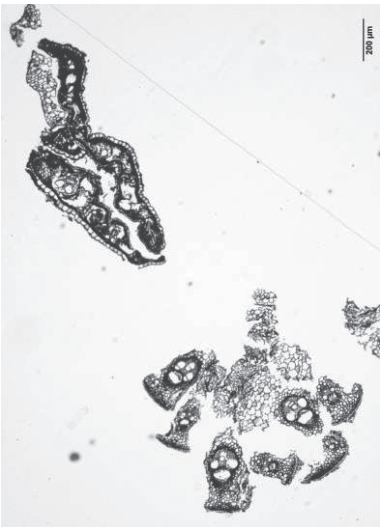
写真５　唐古・鍵遺跡素材調査遺物（５）

1．ヒノキ科　樹皮　NAR-10　C×240

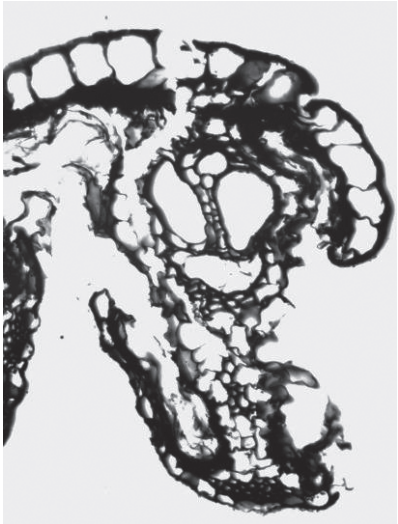


2．ヒノキ科　樹皮　NAR-26　C×120

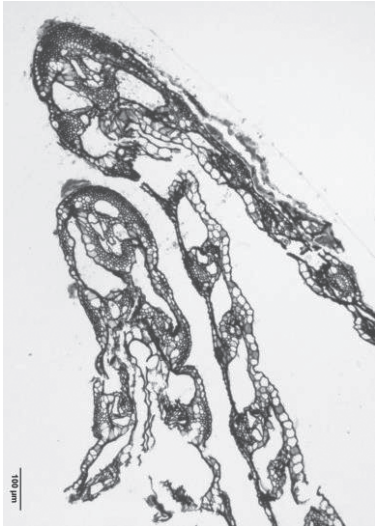
3．スゲ属　葉　NAR-2　C×60



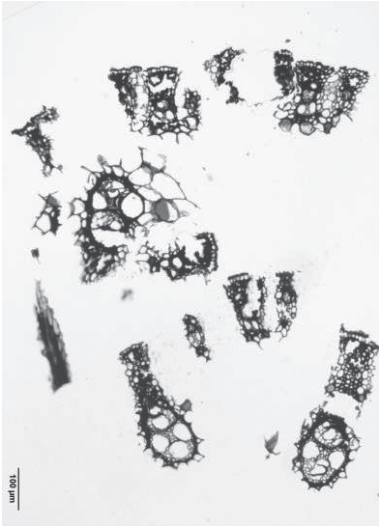
4．スゲ属　葉と茎　NAR-16　C×30



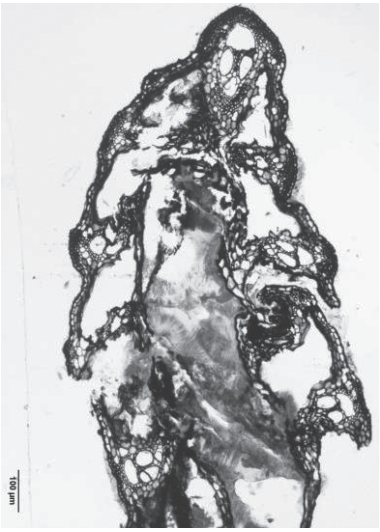
5．スゲ属　葉　NAR-16　C×240



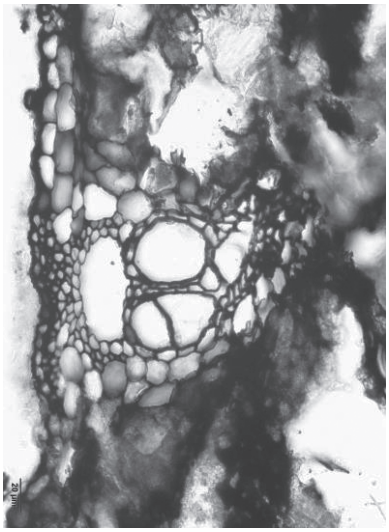
6．スゲ属　葉　NAR-46　C×60



7．スゲ属　茎　NAR-48　C×60



8．イネ　葉鞘　NAR-28　C×60

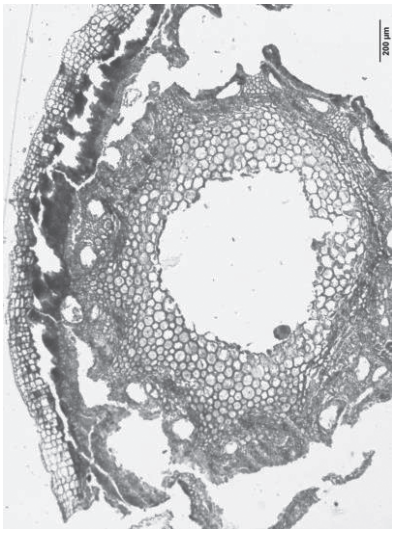


9．イネ　葉鞘　NAR-28　C×240

写真6　唐古・鍵遺跡出土編組製品等の顕微鏡写真(1)(C:横断面)

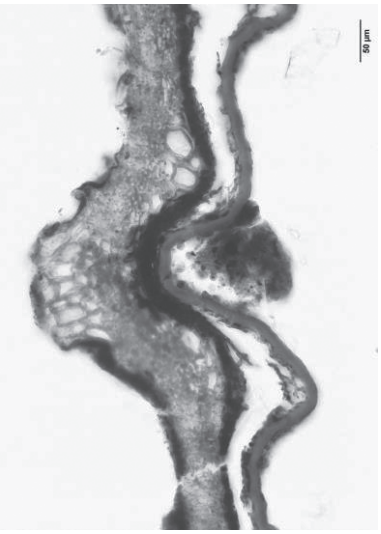
10. イネ　茎　NAR-47　C×60

11. イネ　茎　NAR-47　C×120



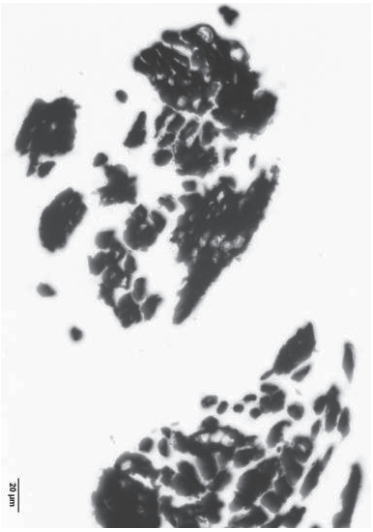
12. アオツヅラフジ　茎　NAR-367　C×30

13. ツヅラフジ　茎　NAR-1110　C×30



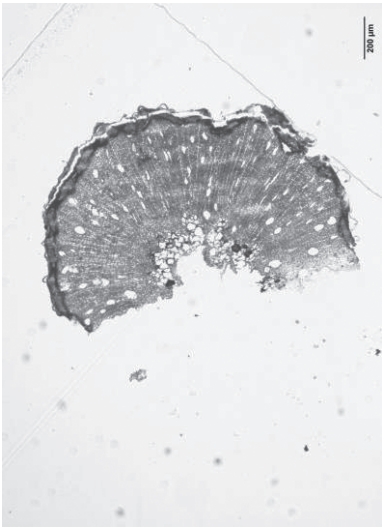
14. ツヅラフジ　茎　NAR-1110　C×120

15. アサ　繊維　NAR-12　C×120



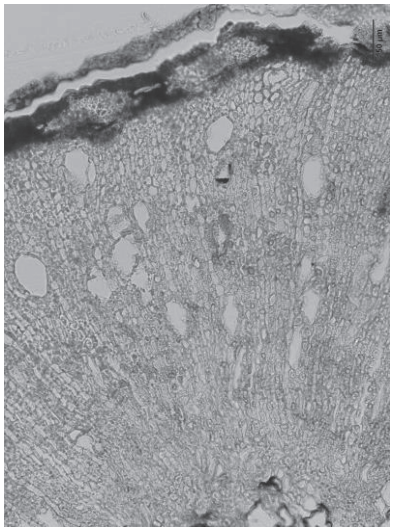
16. アサ　繊維　NAR-20　C×240

17. アサ　繊維　NAR-21　C×120



18. ヤナギ属　当年枝　NAR-1112　C×30

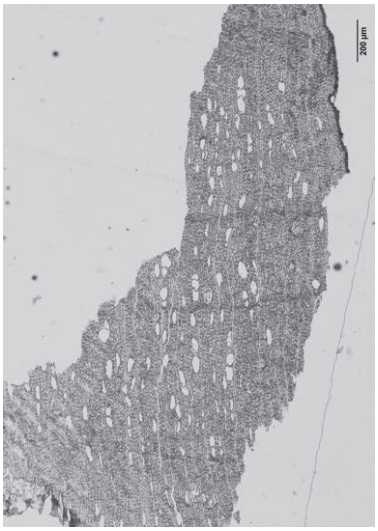
写真7　唐古・鍵遺跡出土編組製品等の顕微鏡写真(2)(C:横断面)



19．ヤナギ属　当年枝　NAR-1112　C×120

20．ヤナギ属　当年枝　NAR-1112　T×120

21．ヤナギ属　当年枝　NAR-1112　R×240

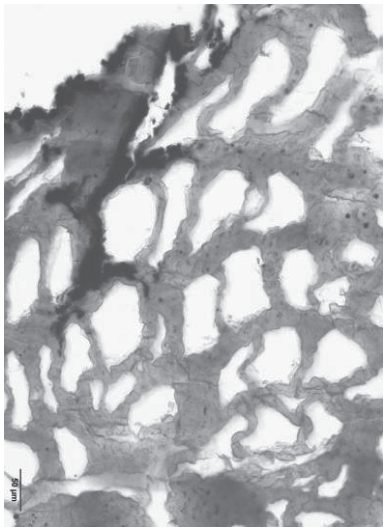


22．ヤナギ属？　材　NAR-1119　C×30

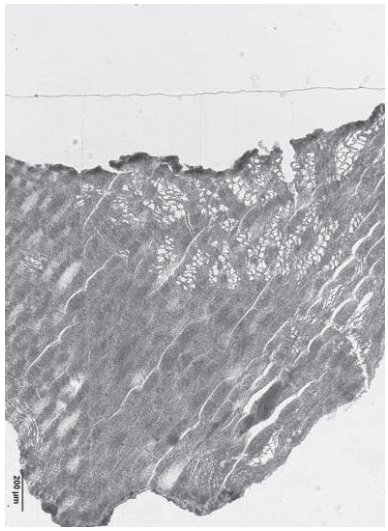
23．ヤナギ属？　材　NAR-1119　T×120

24．ヤナギ属？　材　NAR-1119　R×120

25．ヤナギ属？　根？　NAR-7　R×30

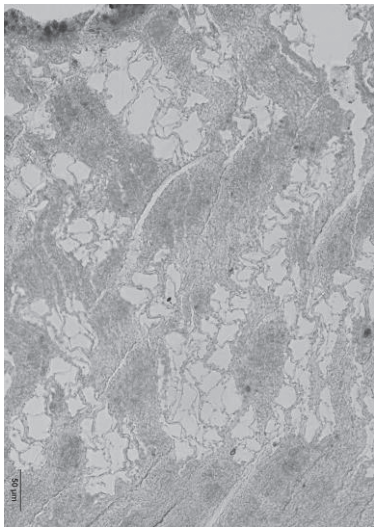


26．ヤナギ属？　根？　NAR-7　R×120



27．コクサギ　材　NAR-1118　C×30

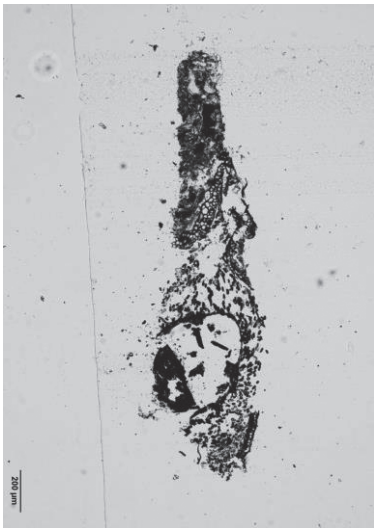
写真8　唐古・鍵遺跡出土編組製品等の顕微鏡写真(3)(C:横断面、T:接線断面、R:放射断面)



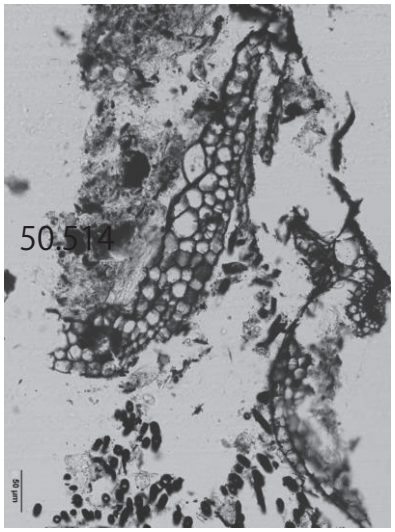
28. コクサギ　材　NAR-1118　C×120

29. コクサギ　材　NAR-1118　R×120

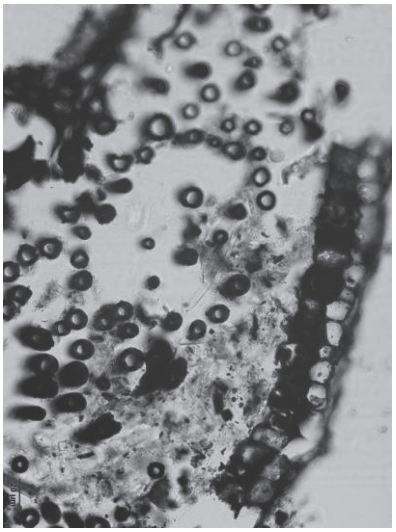
30. 不明植物A　NAR-27　DM画像



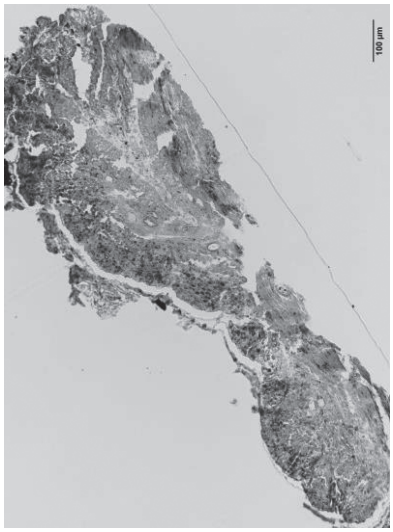
31. 不明植物A　NAR-27　C×30



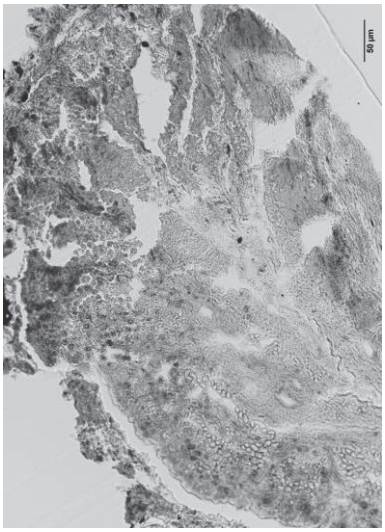
32. 不明植物A　NAR-27　C×120



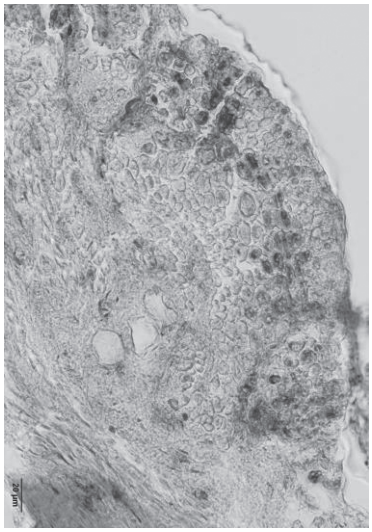
33. 不明植物A　NAR-27　C×240



34. 不明植物B　茎　NAR-379　C×60



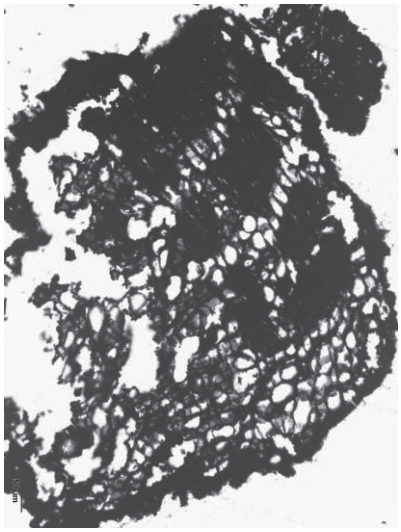
35. 不明植物B　茎　NAR-379　C×120



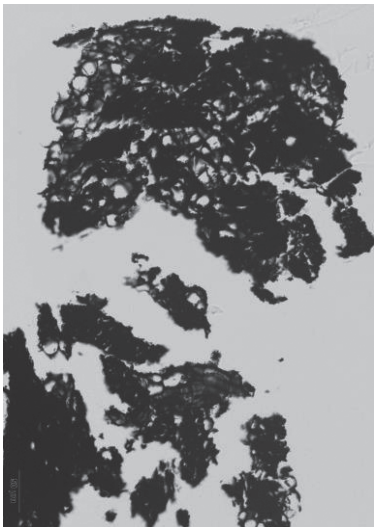
36. 不明植物B　茎　NAR-379　C×240

写真9　唐古・鍵遺跡出土編組製品等の顕微鏡写真(4)(C:横断面、R:放射断面)

37．柔組織？の塊　NAR-3　C×60



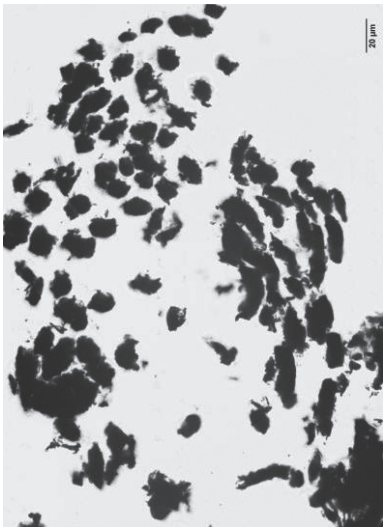
38．柔組織？の塊　NAR-3　C×120



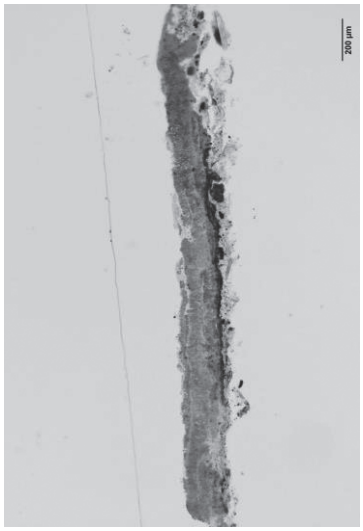
39．柔組織？の塊　NAR-4　C×120

40．柔組織？の塊　NAR-4　C×240

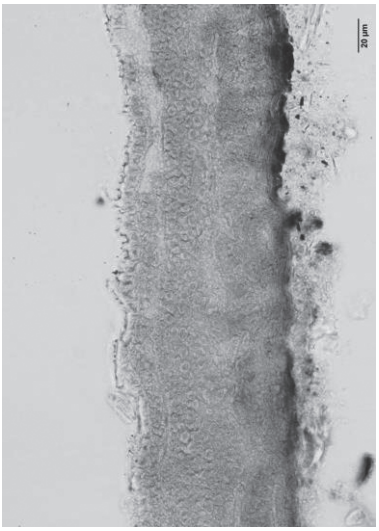
41．炭化した繊維　NAR-1　C×120



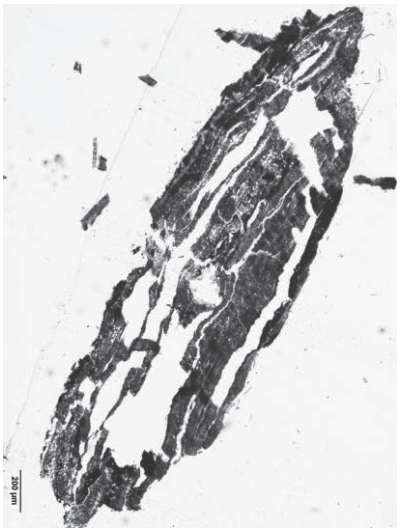
42．炭化した繊維　NAR-1　C×240



43．同定不可（竹笹？）　NAR-30　C×30



44．同定不可（竹笹？）　NAR-30　C×240



45．同定不可　NAR-31　C×30

写真10　唐古・鍵遺跡出土編組製品等の顕微鏡写真(5)(C:横断面)

田原本町文化財調査年報25
2015年度

平成29年３月28日

編集発行　田原本町教育委員会
印　　刷　株式会社　明新社